

條、故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ云々ト規定シ封緘ノ信書ト限定シタルヲ以テ其他ノ
 祕密書類ハ之ヲ開披スルモ本條ニ依リ罰スルコトヲ得サルヤ然リ本法前草案第六十八條ニハ故
 ナク人ノ信書其他ノ祕密書類ヲ開披シ又ハ隱匿シタル者ハ云々ト規定シ人ノ信書以外ノ祕密書類
 モ尙ホ之ヲ開披シタルトキハ罰スル規定ナリシモ其後、其他ノ祕密書類ノ七字ヲ削除シタルト憲
 法上ニ信書ノ祕密トアルニ徴スルモ封緘シタル信書以外ノ書類ハ之ヲ包含セサル立法趣旨ナリト
 解セサル可ラス獨逸刑法第二百九十九條ハ權利ナクシテ故意ニ封緘シタル信書其他ノ書類ヲ開披
 シタル者云々ト規定シ本法前草案ト同シク明ニ信書以外ノ書類ヲモ之ヲ保護セリ而シテ本罪成立
 ニハ

第三、封緘シタル人ノ信書ヲ開披スル意思アルコトヲ要ス即チ人ノ信書タルコトヲ知テ故ヲ開披シ
 タルトキハ本罪成立ス然レトモ自己ニ宛テタル信書ト誤信シ同名異人ノ信書ヲ開披シタル場合ノ
 如キハ本罪成立セス
 以上ノ條件具備シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

**第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、又ハ此等ノ
 職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ**

漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取
 扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

本條ハ特別ノ職ニ在ル者其職務上委託ヲ受ケタル祕密ヲ漏泄シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
 本條ハ舊刑法、第三百六十條醫師、藥商、穩婆又ハ代言人、辯護人、代書人若クハ神官、僧侶其身
 分、職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ、十一日以
 上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上、三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳
 述スル者ハ此限ニ在ラストノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ殆ト同一ナリ、唯同條代言
 人ト在リタルヲ辯護士ト、穩婆トアリタルヲ產婆ト改メ代書人ヲ除去シ神官、僧侶トアリタルヲ本
 條第二項ト爲シ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者ト爲シ總括シタルニ過キス
 本罪成立ニハ、第一醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、及ヒ宗教若クハ禱祀
 ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ナルコト、第二業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕
 密ナルコト、第三故ナク漏泄シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又

ハ此等ノ職ニ在リシ者ナルコトヲ要ス
 本條ニ所謂、醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル神官、僧侶ノ如キ者ハ概ネ人ノ秘密事項ニ關スル委託ヲ受ク可キ業態ニアルモノナリ假令ハ醫師ハ人ノ疾病又ハ創傷等ニ付キ診斷治療ノ委託ヲ受ケ藥劑師及ヒ藥種商ハ其疾病創傷ニ對スル藥種ノ調劑、販賣等ノ委託ヲ受ケ產婆ハ懷胎ノ場合ニ於テ人ノ委託ヲ受ケ診斷スルコトアリ而シテ疾病又ハ創傷ノ種類若クハ懷胎等ハ往々世間ニ秘スルコトアルヲ以テ其秘密ヲ保護スル趣旨ナリトス又辯護士、辯護人、公證人ハ民刑訴訟若クハ財産上ノ得喪ニ關シ鑑定、辯護又ハ契約書、作成等人ノ秘密ニ關シ委託ヲ受クルモノニテ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル神官、僧侶モ亦職務上、人ノ秘密ニ關シ委託ヲ受クルコトアルヲ以テ是等、業務上、委託ヲ受ケタル人ノ秘密ニ付テハ裁判上、證人トシテ陳述スルコトヲ拒ムノ權利ヲ與ヘ(民刑訴訟法)一面之ヲ保護スルト同時ニ本條特ニ其秘密ヲ守ル可キ義務ヲ命シタルモノナリ茲ニ一言ス可キハ本條、辯護士中ニ特許代理業者ヲ包含スルヤ否ヤノ問題はナリ本條ハ前ニ一言シタル如ク舊刑法、第三百六十條ト同一立法趣旨ナルヲ以テ人ノ身上ニ關スル秘密ヲ發キ其人ノ名譽ヲ毀損シタル場合ヲ保護スル規定ナルヲ以テ特許權ノ如キ財産上ニ關スル第三者ノ利益タル依頼者ノ秘密ハ本條ニ包含セス是等特許代理業者

又ハ破産管財人執達吏等カ其依頼者ノ秘密ヲ漏泄シタル場合ハ各特別法令ニ讓ル立法趣旨ナリトス

第二、業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密タルコトヲ要ス

既ニ述ヘタル如ク各其職務上ニ關シ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル人ノ秘密事項ヲ故ナク漏泄シタルコトヲ要ス然レトモ如何ナル事項カ人ノ秘密ナルヤハ各種ノ業務ニ因ル事實上ノ問題ナリ假令ハ醫師ハ人ノ最モ嫌フ可キ肺病、癩病等ノ治療ノ委託ヲ受ケ其患者以外ノ者ニ故ナク即チ相當ノ理由ナクシテ漏告シタル場合ノ如キ又辯護士、辯護人カ民刑訴訟事件ノ鑑定、辯護ノ委託ヲ受ケ其事實ヲ故ナク他人ニ漏告シタル場合ノ如キハ本條、業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ニ關スル適例ナリ
 本條特ニ醫師云々又ハ此等ノ職ニ在リシ者云々ト規定シ現職ニ在ルト否トヲ問ハサルヲ以テ其職業ヲ止メタル後ト雖モ猶ホ人ノ委託ヲ受ケタル秘密ハ之ヲ故ナク漏泄スルコトヲ得ス然レトモ本條取扱ヒタルコトニ付キ云々ト規定シタルヲ以テ取扱ヒタルコトナク知り得タル人ノ秘密ニ付テハ之ヲ漏泄スルモ本條ノ問フ所ニ非ス

第三、故ナク漏泄シタルコトヲ要ス

本條故ナク、漏泄トハ正當ノ理由ナクシテ他人ノ秘密事項ヲ第三者ニ告知スル所爲ヲ謂フ而シテ其告知ノ手段方法ハ口頭ヲ以テスルト書面ヲ以テスルトヲ問ハス他人ニ公表シタルトキハ本條漏泄ナリ然ルニ舊刑法ハ既ニ一言シタル如ク本條人ノ秘密ヲ漏泄シタル所爲ヲ誹毀罪ト爲シタルニ因リ本罪ハ人ノ名譽ヲ毀損スル意思ヲ以テ人ノ陰私ヲ漏告シタルコトヲ要シタルモ本法ハ之ヲ改メ人ノ秘密ヲ侵ス罪ノ一種ト爲シタルヲ以テ必スシモ人ノ名譽ヲ毀損スル意思アルヲ要セス其業務上取扱ヒタルコトニ因リ知得タル人ノ秘密ナルコトヲ知テ他人ニ漏泄シタルトキハ本罪成立スルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ前二條秘密ヲ侵ス罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キコトヲ規定シタルモノナルモ一讀明瞭ナルヲ以テ説明セス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第五章、第一節、阿片煙ニ關スル罪ト殆ト同一ナリ其修正シタル主要ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ本章ノ罪ニ對シ有期徒刑又ハ輕懲役等ニ處シ之ヲ重罰シタルモ最早、今日ニ在テハ如斯、嚴罰スル必要ナキヲ以テ本法ハ舊刑法ニ比シ其刑ヲ輕減スルコトト爲シタリ
 - 二、元來、阿片煙ノ吸食ハ人身ニ非常ナル害ヲ與フルモノナルニ之ヲ吸食スル惡習支那ニ於テ盛行ハルル所ナリト云フ一朝、我國ニ阿片、吸食ノ惡習、傳播シタルトキハ人身ニ害毒ヲ與ヘ其禍害ノ及フ所、極メテ大ナルヲ以テ之ヲ嚴罰シテ他ニ傳播スルコトヲ防止スルモノトス
- 本章ハ(一)阿片煙ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル罪(二)阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル罪(三)稅關官吏、阿片煙又ハ阿片煙ヲ吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタル罪(四)阿片煙ヲ吸食シタル罪(五)阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル罪(六)阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル罪(七)其未遂罪等ヲ規定シタルモノナリ

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ舊刑法、第二百三十七條、阿片煙ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處
スルトノ規定ニ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ヲ加ヘタル外、立法趣旨ハ同一ナリトス

本罪成立ニハ、第一阿片煙タルコト、第二輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル
コトノ二條件アルヲ要ス

第一、阿片煙タルコトヲ要ス

阿片煙トハ如何ナルモノナルカ余之ヲ詳ニセスト雖モ聞ク所ニ依レハ阿片ハ一度之ヲ吸食スレハ
其快味ヲ忘ルルコト能ハス又之ヲ屢々、吸食スレハ無氣力トナリ遂ニハ國家ノ衰亡ヲ來ス等民族
ノ消長ニ關スル重大ナル有害物ナリト云フ

第二、輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルコトヲ要ス

本條ニ所謂、輸入トハ外國ヨリ我帝國領土内ニ運送シ來リタル所爲ヲ云ヒ製造トハ阿片ヲ造出ス
ル所爲ヲ謂フ又販賣トハ他人ニ賣買スルコトヲ謂ヒ所持トハ占有スルコトヲ謂フニアルモ孰レモ
明瞭ナルヲ以テ説明セス而シテ本罪成立ニハ阿片煙タルコトヲ知テ輸入シ製造シ又ハ販賣シ若ク
ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル意思ヲ要ス故ニ若シ阿片煙ナルコトヲ知ラサルトキハ本條ニ依リ論

スルコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ六月以上、七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ

目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル罪ヲ規定
シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百三十八條、阿片煙ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者
ハ輕懲役ニ處スルトノ規定ニ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者ヲ加ヘタル外、立法趣旨ハ同一ナリ
本罪成立ニハ、第一阿片煙ヲ吸食スル器具タルコト、第二輸入、製造又ハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ
以テ之ヲ所持シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ各條件共ニ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス
以上ノ條件具備スルトキハ三月以上、五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第三百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入

ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ税關官吏、阿片煙又ハ阿片煙吸食器具ノ輸入ヲ許シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百三十九條「税關官吏、情ヲ知テ阿片煙及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フル」トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナリ

本罪成立ニハ、第一税關官吏タルコト、第二阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ輸入ヲ許シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、税關官吏タルコトヲ要ス

本條特ニ税關官吏ト規定シ税關ノ公務ニ從事スル公務員ト限定シタルヲ以テ其他ノ公務員ハ本條中ニ包含セサルモノトス是注意ス可キ點ナリ但シ共犯人ハ此限リニアラサルコト論ヲ俟タス

第二、輸入ヲ許シタルコトヲ要ス

阿片煙又ハ其吸食ノ器具ヲ輸入スルコトヲ許シタルコトハ阿片煙又ハ其吸食器具ノ輸入ヲ許可シタルコトヲ謂フモノトス而シテ其輸入ノ情ヲ知テ默許シタル場合モ本條許シタルトキ中ニ包含ス故ニ本罪成立ニハ阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具タルコトヲ知テ其輸入ヲ許ス意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ一年以上、十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第三百二十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以

下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙ヲ吸食シタル罪及ヒ阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法第二百四十一條「阿片煙ヲ吸食シタル者ハ一年以上、三年以下ノ重禁錮ニ處ス」トノ規定ト同一ニシテ第二項ハ舊刑法、第二百四十條「阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス」人ヲ誘引シテ阿片煙ヲ吸食セシメタル者亦同シ」トノ規定中ノ第一項ト全ク同一ナルモ其第二項ハ存スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ之ヲ規定セス

本條第一項阿片煙ヲ吸食シタル罪ノ成立ニハ、第一阿片煙タルコト、第二吸食シタルコトノ二條件ヲ要シ第二項阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル罪ノ成立ニハ、第一阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シタルコト、第二利ヲ圖リタルコトノ二條件ヲ要スルモ本條件ハ孰レモ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

以上ノ條件具備シタルトキハ孰レモ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ舊刑法、第二百四十二條「阿片煙及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス」トノ規定ト殆ト同一ナリ
本罪成立ニハ、第一阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具タルコト、第二所持シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス
以上ノ條件具備スルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章規定スル所ノ罪、其害極メテ重大ナルヲ以テ未遂ノ所爲モ罰ス可キヲ規定シタル者ナリ

第十五章 飲料水ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第五章第二節飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スヘキ規定ヲ闕キタルモ其害ノ及フ所、極メテ大ナルヲ以テ本法ハ水道ニ關スル規定ヲ新設シタリ
- 二、舊刑法ハ本章ノ罪ヲ飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪ト爲シ一家、一口ノ用ニ供スル井泉ヲ汚穢シタルト公衆ノ飲用水道ヲ汚穢シタルト區別セサリシモ其危險ノ及フ所、重大ナル差異アルヲ以テ本法ハ之ヲ區別シ水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料、淨水若クハ水源ヲ汚穢シタルトキハ特ニ、重罰スルコトト爲シタリ
- 三、舊刑法ハ本章ノ罪ハ其害ノ及フ所、頗ル大ナルニ係ハラズ一般ニ其刑輕キニ失シタルヲ以テ本法ハ重罰スルコトト改メタリ

本章ハ一人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル罪(二)水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル罪(三)人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル罪(四)(一)(二)(三)ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪(五)水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル罪(六)公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル罪等ヲ規定シタル

モノナリ

第四百二十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百四十三條「人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、五圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ト全ク同一ナリ

本罪成立ニハ、第一人ノ飲料ニ供スル淨水ナルコト、第二汚穢シ因テ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルコトノ二條件ヲ要ス

第一、人ノ飲料ニ供スル淨水ナルコトヲ要ス

人ノ飲料ニ供スル淨水トハ、河水池水井水等凡テ人ノ飲用ニ供スル水ヲ總稱ス故ニ一家、一口ノ飲用ニ供スルモノナルト又數家數口ノ飲用ニ供スルモノナルトヲ問ハズ本條ニ所謂、飲料ニ供スル淨水ナリトス

第二、汚穢シ因テ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルコトヲ要ス

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルコトハ、其淨水中ニ泥土塵芥等ヲ投入シ又ハ水底若クハ水源等ヲ攪亂シ因テ其水ヲ飲用スルコト能ハサルニ至ラシメタル所爲ヲ謂フ本罪成立ニハ人ノ飲料ニ供スル淨水ナルコトヲ知テ之ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルコトヲ要スルヲ以テ水底若クハ水源ニ工事ヲ施ス爲メ一時水ヲ汚穢シタル場合ノ如キハ本罪ノ犯意アリト云フコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第四百二十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上、七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ水道ノ飲料水ヲ汚穢シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スル爲メ本法ノ新設ニ干ル規定ナリ

本罪成立ニハ、第一水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源タルコト、第二汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシムル意思アルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源タルコトヲ要ス

水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水トハ彼ノ東京市又ハ横濱市ニ布設シタル鐵管水道ノ各本線支線ノ如キ是ナリ又水源トハ夫ノ角等、滯溜池及ヒ其ノ玉川上水等ノ如キヲ云フモノトス

第二、汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルコトヲ要ス

本條件ハ前條ニ於テ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ再說セス本罪モ亦水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ナルコトヲ知テ汚穢スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第四百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ

混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ混入シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百四十四條「人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上、三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ト同一趣旨ナリ

本罪成立ニハ、第一人ノ飲料ニ供スル淨水ナルコト、第二毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入

シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、人ノ飲料ニ供スル淨水タルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタルヲ以テ再說セス

第二、毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタルコトヲ要ス

毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタルコトハ、人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他、人ノ衛生ヲ害シ若クハ疾病ヲ醸ス可キ有害物ヲ投入シテ其水質ヲ變シ若クハ不良ヲラシメタル所爲ヲ謂フ而シテ茲ニ問題アリ人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ腐敗物ヲ投シタル者アルコトヲ知テ默秘シテ流通セシメタル者ヲ本條ニ依リ罰スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題はナリ本法ハ斯ル場合ヲ豫想セサリシヲ以テ本條ニ依リ罰スルコトヲ得ス然レトモ斯ル場合ハ當該、職員ニ申告ス可キ積極的、義務ヲ命スルノ必要アリ獨逸刑法第三百二十四條ハ他人ノ使用ニ供スル泉井、潜水機又ハ公然、販賣、使用ノ爲メ設ケタル物件ニ毒物ヲ投入シ又ハ、人ノ健康ヲ害ス可キコトヲ知リテ其物品ヲ混和シタル者及ヒ其毒物ヲ投入シ又ハ有害物ヲ混和シタルモノナルコトヲ知テ默秘シテ販賣シ陳列シ又ハ流通セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス」ト規定シ本問ノ場合ハ之ヲ罰スルコトヲ規定シタリ本罪モ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入スル意思ヲ要

スルコトハ明瞭ナルヲ以テ説明セス

以上ノ條件具備スルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ

比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ處分ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百四十五條ト同一趣旨ノ規定ナリ即チ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメ又ハ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ第二十七章傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處分ス可キコトヲ規定シタルモノナリ但シ最初ヨリ人ヲ殺ス意思ヲ以テ淨水ニ毒物ヲ混入シタルトキハ第二十六章殺人ノ罪ニ依リ論ス可キコト論ヲ俟タス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其

他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因

テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ水道ニ由ル飲料淨水又ハ其水源ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シ因テ人ヲ死ニ致

シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ第四百十三條ト同シク本法ノ新設ニ干ル規定ナリ而シテ其刑ノ重キハ既ニ述ヘタル如ク人ノ身體健康ニ重大ナル害ヲ及ホス罪ナルカ爲メナリ

本條ハ水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他、人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル場合ノ規定ニシテ第四百十四條ト同一趣旨ノ規定ナリ、唯本條ノ場合ハ第四百十四條ト異ナリ因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ初メヨリ人ヲ殺ス目的ナルト否トヲ問ハス其結果、重大ナルヲ以テ嚴罰スルノ差異アルニ過キス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ

一年以上、十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ水道ヲ保護スル目的ヲ以テ前數條ヲ規定シタル結果、其水道ヲ損壞シ又ハ壅塞シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

本罪成立ニハ、第一公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ナルコト、第二損壞又ハ壅塞シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道タルコトヲ要ス

本條特ニ公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道云ト規定シタルヲ以テ一家一口ノ用ニ供スル飲料淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタルトキハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス故ニ一家一口ノ飲料ニ供スル水道ヲ損壞又ハ壅塞シタルトキハ場合ニ因リ毀棄罪ニ依リ處分スルノ外ナシ

第二、公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタルコトヲ要ス

本條ニ所謂、損壞又ハ壅塞トハ水ノ流通ヲ妨害スル爲メ物質的ニ水道ヲ損壞シ又ハ壅塞シタル所爲ヲ謂フモノナルモ其意義ハ第十一章往來ヲ妨害スル罪ノ第二百二十四條ニ於テ既ニ詳論シタルヲ以テ再説セス唯、該條ハ陸海道路ヲ妨害スル場合ニ關シ本條ハ水道ニ關スルノ差異アルニ過キス

以上ノ條件具備スルトキハ一年以上、十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第十六章 通貨偽造ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第四章、第一節貨幣ヲ偽造スル罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ通貨偽造罪ノ成立ニハ偽造又ハ變造ト行使ノ所爲トノ二條件ヲ必要ト爲シ單ニ偽造ニ止マル場合ハ其刑ヲ輕減シタルモ偽造又ハ變造ニ止マル場合ヲ輕ク、偽造シテ行使シタル場合ヲ必スシモ重シト爲スヲ得サレハ本法ハ此主義ヲ改メ通貨ノ偽造又ハ變造成リタルトキハ直ニ偽造罪成立スルコトト爲シタリ

二、舊刑法ハ貨幣ノ種類ヲ金、銀貨及ヒ紙幣又ハ銅貨ト爲シ其貨幣ノ種類ニ依リ罪ノ輕重ヲ區別シタルモ銅貨ノ偽造ナルカ故ニ其罪、輕ク金、銀貨ノ偽造ナルカ故ニ必ス重キニ非サルヲ以テ本法ハ斯ル情狀ニ關スル區別ハ之ヲ廢スルコトト爲シタリ

三、舊刑法ハ銀行券ニ關スル規定ヲ闕キタルモ本法ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ヲ他ノ通貨ト同一ニ規定シ兌換銀行條例ヨリ之ヲ移シテ本章ニ規定シタリ

四、舊刑法ハ第八十七條ヲ以テ貨幣ヲ偽造又ハ變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ニ關スル規定ヲ爲シ同第八十八條ヲ以テ貨幣ヲ偽造、變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ニ關スル規定ヲ爲シタルモ斯ル規定ハ孰レモ貨幣偽造罪ノ幫助ナルヲ以テ本法ハ總則、從犯ノ原則ニ從フコトト爲シ本章中ニ之ヲ規定セス

五、舊刑法ハ第九十二條ニ貨幣ヲ偽造、變造シ及ヒ輸入、取受シタル者、未タ行使セサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免シ六月以上、三年以下ノ監視ニ付ス若シ職工、雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者、未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免スト規定シタルモ是亦總則、自首ノ原則ヲ適用ス可キモノナルヲ以テ本章中ニ之ヲ規定セス

本章ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル罪(二)偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタル罪及ヒ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ輸入シタル罪(四)行使ノ目的ヲ以テ内國ニ通用スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造、變造シタル罪(五)偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタル罪(六)又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル罪(七)偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ輸入シタル罪(八)行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル罪(九)前(一)乃至(八)罪ノ未遂罪(十)貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シタル罪(十一)又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル罪(十二)貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造、變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル罪等ヲ規定シタリ

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變

造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人

ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル罪(二)偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ人ニ交付シタル罪(四)偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ輸入シタル罪等ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法、第八十二條、内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ストノ規定同第八十四條、官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ストノ規定同第八十五條、内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ストノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造、變造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルコト、第三偽造又ハ變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條ニ所謂行使ノ目的トハ一般通説ニ依レハ流通ニ置ク希望ヲ謂フ換言スレハ眞貨ト同一ニ交換手段トシテ廣ク流通セシムル意思ヲ云フモノトス故ニ行使ノ目的ニ非ス單ニ紀念ノ爲メ眞貨ニ模擬シタル貨幣ヲ造リタル場合ノ如キハ本條ノ間フ所ニ非ス如何トナレハ行使ノ目的ニ出テタル偽造、變造ニ非サレハ刑法上ニ所謂、偽造、變造ニ非サレハナリ茲ニ一言ス可キハ犯意ト目的トノ差異是ナリ犯意トハ既ニ第一編第七章ニ於テ述ヘタル如ク結果ヲ豫期スル意思ヲ云フモ茲ニ所謂、目的トハ通常人ノ欲スル意思ヲ意味スルモノナリ換言スレハ犯意ハ意思ト因果關係ヲ有スル方行ノ意思ヲ云フモノナルモ目的トハ人ノ希望ノ方行ニ向ヘル意思ヲ云フ例ヘハ貨幣又ハ紙幣ヲ偽造セントスル意思ハ即チ犯意ニシテ之ヲ偽造シテ行使セントスル意思(即チ希望ニ向ヘル)意思ハ本條ニ所謂、行使ノ目的ナリト云フ可シ

第二、通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルコトヲ要ス

通用ノ貨幣紙幣又ハ銀行券トハ交換ノ手段トシテ國家ノ強制通用ヲ認メタル一定ノ標準價格ヲ謂フ學者或ハ貨幣トハ交換ノ手段トシテ國家ノ認ムル物件ヲ謂フト定義スル者アリ又貨幣トハ國家カ一定ノ文字紋章ヲ以テ證明セル價格ノ標準ヲ云フト定義スルモノアリ要スルニ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ現ニ我帝國政府カ一定ノ形式ヲ以テ自ラ發行シ又ハ發行ヲ認許シテ發行セシムル標準價格ヲ謂フニ在リ故ニ通用ヲ廢シタル古金銀其他當時通用ヲ廢シタル半圓紙幣ノ如キハ本法ノ所謂、貨幣ニ非サルナリ而シテ現制度ニ於テ通用貨幣ハ金貨、銀貨、銅貨、白銅貨及ヒ國家ノ認許ニ依リ銀行ニ於テ發行スル兌換銀行券等はナリ

第三、偽造又ハ變造シタルコトヲ要ス

本條貨幣、紙幣、銀行券ノ偽造トハ行使スル目的ヲ以テ眞正ナル貨幣紙幣又ハ銀行券ニ模擬シタルモノヲ製造スル所爲ヲ謂フ換言スレハ行使ノ目的ヲ以テ眞正ナル貨幣ノ外觀ヲ備フル物件ヲ製造スル所爲ヲ云フモノトス蓋シ本罪ハ國家獨占ノ鑄造又ハ製造權ヲ侵害スル所爲ヲ罰スルモノナルヲ以テ國家ノ許可ヲ受ケスシテ貨幣ヲ製造シタルトキハ其製造シタル貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ物質眞正ナル貨幣、紙幣又ハ銀行券ト同一ナルト否トヲ問ハス故ニ眞正ナル貨幣ト同一又ハ夫レ以上ノ實價ヲ有スル物質ヲ以テ偽造スルモ尙ホ貨幣偽造罪ナリ蓋シ物質眞正ナル貨幣ト同一ナルトキハ偽造罪ニ非ストノ反對說アリ其偽造ノ程度ハ現ニ通用スル眞正ナル貨幣、紙幣又ハ銀行券ニ比シ通常偽物タルコトヲ識別スルヲ得サル程度ニ達シタルコトヲ要ス故ニ彼ノ玩弄紙幣トシテ壺圖日本銀行ト表示シタル紙幣類似ノ印刷物ノ如キハ未ダ本條、偽造紙幣ナリト云フコトヲ得ス

然レトモ其偽造變造ノ程度ハ事實上ノ問題ナリ
本條、貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ變造トハ行使ノ目的ヲ以テ現ニ存在スル真正ナル貨幣ヲ材料トシ
テ人工ヲ加ヘ他ノ貨幣ト變更スル所爲ヲ謂フ詳言スレハ行使ノ目的ヲ以テ真正ナル貨幣、紙幣又
ハ銀行券ノ實價又ハ命價ヲ變更スル所爲ヲ謂フ故ニ貨幣ノ變造トハ正當ナル貨幣ヲ材料トシテ同
質ノ貨幣ヲ造成スルモノヲ云フトノ判例アリ彼ノ金、銀、銅、貨幣ハ實價ヲ有スルヲ以テ其實價
ヲ變更シ紙幣、銀行券ハ實價ヲ有セス命價ノミナルヲ以テ其命價ヲ變更シタルトキハ變造ナリ例
ヘハ金貨ノ縁ヲ削リ取り又ハ銅貨ニ鍍金シテ銀貨ト爲シ(實價變更)五圓紙幣ノ文字、著色ヲ變更
シテ十圓紙幣ト爲シ(命價變更)タル如キ是ナリ然レトモ是等、鍍金若クハ著色文字ノ變更ハ貨幣
又ハ紙幣ヲ材料ト爲シタル偽造ナリトノ說ナキニ非スト雖モ既存ノ貨幣、紙幣ヲ變更シタル場合
ハ變造ナリ故ニ貨幣又ハ紙幣ノ偽造、變造ノ區別ハ既存ノ貨幣ヲ材料ト爲シ實價若クハ命價ヲ變
更シタルト他ノ金、銀、銅塊其他ノ材料ヲ以テ新ニ貨幣又ハ紙幣ヲ製造シタル點ニアルモ貨幣ノ偽
造、變造ヲ區別スルノ標準ハ既存ノ貨幣ヲ利用シ新貨幣ヲ作製シタルヤ又ハ偽造貨幣ノ材料ヲ貨
幣以外ノ物件ニ採リテ新ニ貨幣ヲ作製シタルヤニ非スシテ其材料ノ種類如何ヲ論セス犯人ハ或
種類ノ貨幣ニ工作ヲ加ヘテ之ト其種類ヲ同フスル他ノ貨幣ヲ製造シタルニ過キササルヤ若クハ別ニ

新ニ特種ノ貨幣ヲ製造シタルモノナルヤニ在リトノ判例アリ本罪ハ既ニ一言シタル如ク行使ノ
目的ヲ以テ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ニ著手シタルトキハ未遂ニシテ其偽造變造ヲ遂
ケタルトキハ行使ニ著手セサルモ既遂罪ナリ是舊刑法ト異ナル要點ナリ而シテ貨幣、紙幣又ハ銀
行券ヲ偽造又ハ變造スル意思アルヲ要ス通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造スル意思ト
ハ行使ノ目的ヲ以テ我帝國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造スル意思ヲ謂フニアリ故ニ新
ニ發行セラレタル貨幣又ハ紙幣ヲ紀念ノ爲メ若クハ美術品トシテ模擬製造シタルニ止マル場合ノ
如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス

(二) 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタル罪

本罪成立ニハ、第一偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルコト、第二行使シタルコトノ二條件ア
ルヲ要ス

第一、偽造、變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券タルコトヲ要ス

既ニ述ヘタル如ク本法ニ於テハ行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シ
タルトキハ貨幣、紙幣、銀行券ノ偽造、變造罪成立ストノ主義ヲ採リタルヲ以テ其偽造、變造ノ貨
幣紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタルトキハ獨立シタル偽造、變造、貨幣、紙幣、銀行券行使罪成立ス

然レトモ自ラ行使ノ目的ヲ以テ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造シ又ハ變造シテ之ヲ行使シタルトキハ第一項、貨幣偽造又ハ變造罪ヲ以テ論ス可キモノニテ偽造、變造貨幣ノ行使罪トノ二罪併發ニ非ス是注意ス可キ點ナリ(第一編第九章第五十四條參照)

第二、行使シタルコトヲ要ス

行使トハ既ニ一言シタル如ク流通ニ置ク所爲ヲ謂フモノナルヲ以テ偽造、變造ノ貨幣ヲ真正ナル貨幣ニ裝ヒ使用スルトキハ本條行使罪ナリ其行使ハ債務ノ辨濟トシテ支拂ヒタルト物品ノ代價トシテ支拂ヒタルト又自ラ使用シタルト他人ヲシテ行使セシメタルトヲ問ハス本條行使罪成立ス茲ニ問題アリ偽造、變造ノ共犯者間若クハ偽造、變造ノ貨幣タルコトヲ知ル者ニ交付シタルトキモ本條、行使罪ナルヤ否ヤノ問題はナリ斯ル場合ニ於テモ行使ナリトノ積極論アリト雖モ本問ノ場合ハ偽造貨幣ヲ真正ナル貨幣ニ裝ヒ流通セシメタルモノニ非サルヲ以テ本條ニ所謂、行使ニ非ストノ消極論ヲ可トス本罪ハ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使スル意思アルコトヲ要ス故ニ本罪成立ニハ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ知ラスシテ行使シタルヲ要スルコト明瞭ナルヲ以テ深ク説明セス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ人ニ交付シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコト、第三人ニ交付シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル行使ノ目的トハ人ヲシテ其偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使セシムル目的ヲ謂フ例ヘハ偽造又ハ變造貨幣ヲ他人ニ行使(使用)セシムル意思ヲ云フニ在リ本罪ハ從來實際上、極メテ多キ實例ナリシヲ以テ本法ハ新ニ本罪ヲ設クルニ至リタルモノナリ

第二、偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ要ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ意義ニ付テハ既ニ説明シタルヲ以テ別ニ論セス

第三、人ニ交付シタルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル人ニ交付スルトハ有償又ハ無償ニテ偽造、變造ノ貨幣ヲ他人ニ交付スル所爲ヲ謂フ例ヘハ一萬圓ノ偽造貨幣ヲ製造シ之ヲ千圓ニテ賣却シ又ハ贈與スルカ如キ是ナリ而シテ其交付ヲ受ケタル者ハ後ニ論ス可キ第五百十條ニ所謂、行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル者ニ該當ス故ニ本罪ハ既ニ述ヘタル如ク偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ他人ニ交付スルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ最初、知ラスシテ他人ヨリ受取り後ニ偽造、變造ナル

コトヲ知テ行使シタル場合ニ非ス此場合ハ後ニ論ス可キ第一百五十二條、後段ニ該當スル罪ナリ是
注意ス可キ點ナリトス

(四)、行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造、貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ輸入シタル罪
本罪成立ニハ、第一偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコト、第二行使ノ目的ナルコト、第三
輸入シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ要ス

本條、偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ我帝國通用ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ云フモノニシ
テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ハ次條第二項ノ規定スル所ナルヲ以テ本條中ニ包
合セス

第二、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

茲ニ行使ノ目的トハ我帝國ニ於テ使用スル希望ヲ云フニ在リ

第三、輸入シタルコトヲ要ス

輸入シタルコトトハ我帝國ニ於テ流通セシムル目的ヲ以テ外國ヨリ帝國領土内ニ送入シタル所爲
ヲ謂フ故ニ他ノ外國ニ運送スル目的ヲ以テ單ニ我領海ニ寄港シタルニ止マルトキハ本條ニ所謂、

輸入ニ非ス左レハ本條輸入トハ我帝國内ニ於テ行使スル意思ヲ以テ我帝國領海内ニ輸入スルニア
リ學者中輸入トハ我帝國、税關設置線内ニ運ヒ入レタルトキニ非サレハ輸入既遂ノ所爲ニ非スト
論スル者アリ

以上ノ條件具備スルトキハ(一)乃至(四)罪共ニ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行

券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ
之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

本條ハ(一)内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造、變造シタル罪(二)偽造、變造ノ外國貨
幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタル罪(三)偽造、變造ノ外國貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ人ニ交付シタル罪
(四)偽造變造ノ外國貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ輸入シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第八十三條「内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑
ニ處ス」若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上、五年以下ノ重禁錮ニ處ス」トノ規定同第八十四條

「官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス」トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ

(一) 内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造變造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルコト、第三偽造又ハ變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條外國、貨幣ノ偽造又ハ變造罪モ前條ト同シク行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造スルコトヲ要スルモノトス而シテ行使ノ目的トハ既ニ前條ニ於テ説明シタル如ク内國ニ通用スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ流通ニ置ク希望ヲ以テ偽造變造シタルコトヲ謂フ換言スレハ真正ナル外國貨幣ト同一ニ使用セントスル意思ヲ云フニ外ナラス

第二、内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルコトヲ要ス

内國ニ通用スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ我帝國内ニ於テ法令上、強制通用ヲ認めラレタル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ謂フ論者或ハ本條内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ法令ノ認めテ我帝國内ニ流通セシムルモノナルト將タ事實上、我帝國内ニ流通スルモノナル

トヲ問ハス偽造又ハ變造シタルトキハ本條ニ依リ罰ス可キモノナリト論スル者ナキニ非スト雖モ本條、特ニ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣云々ト規定シアルヲ以テ本條、流通中ニハ事實上、本邦内ニ流通スル外國、貨幣、紙幣又ハ銀行券ハ之ヲ包含セス然レトモ是等、事實上通用スル外國貨幣ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ使用シテ他人ノ財物ヲ取得シタルトキハ詐欺取財ヲ以テ論ス可キモノナリ故ニ本條内國ニ通用スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ其外國ニ於テ現ニ通用シ居ルモノニテ我帝國内ニ通用力ヲ認めラントルモノノミヲ云ヒ外國ニ於テモ現ニ通用セサルモノハ本條中ニ包含セス左レハ彼ノ墨西哥弗ノ如キハ本條、内國ニ通用スル外國貨幣ニ非ス

第三、偽造、又ハ變造シタルコトヲ要ス

内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造スルトハ前條(一)罪ニ於テ詳論シタル所ト全ク同一ナルヲ以テ再論セス而シテ本罪成立ニモ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

本條第二項ハ(二)偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シタル罪ヲ規定シタルモノニテ本罪成立ニハ、第一偽造、變造ノ外國貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコト、第二行使シタルコトノ二條件アルヲ要シ(三)偽造變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ人ニ交付シタル罪ヲ規定シタルモノニテ本

罪成立ニハ、第一偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコト、第二行使ノ目的ナルコト、第三人ニ交付シタルコトノ三條件アルヲ要シ(四)偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ輸入シタル罪ヲ規定シタルモノニテ本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコト、第三輸入シタルコトノ三條件アルヲ要スルモ前條(二)乃至(四)ニ於テ既ニ論シタル所ト殆ト同一ナルヲ以テ再説セス唯、前條ト異ナル點ハ外國通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルノ差異アルニ過キス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)(二)(三)(四)罪共ニ二年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第一百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣、又ハ銀行券ヲ取得シ

タル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ偽造、變造ノ貨幣取得罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第九十條「偽造、變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造、變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス」其未タ行使セザル者ハ各三等ヲ減ス」トノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ同一ナリトス

本罪成立ニハ、第一偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコト、第二行使スル目的ナルコト、第三

取得シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ要ス

本條ニ所謂、偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ既ニ述ヘタル第四百十八條內國通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券及ヒ第四百十九條ニ規定シタル內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ總稱ス是注意ス可キ點ナリ

第二、行使ノ目的タルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル行使ノ目的モ既ニ屢々述ヘタル如ク偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ流通セシムル希望ヲ云フモノナルコト明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

第三、取得シタルコトヲ要ス

取得トハ他人ヨリ受取リタル所爲ヲ謂フ而シテ其取得中ニハ賣買、贈與其他名義ノ如何ヲ問ハス所持ヲ移シタル總テノ所爲ヲ包含ス換言スレハ偽造、變造ノ貨幣タル情ヲ知テ行使スル意思ヲ以テ受取リタルトキハ本條ニ所謂、取得ナリ本罪ハ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ知テ行使スル目的ヲ以テ取得スルヲ要スルカ故ニ若シ偽造變造ナルコトヲ知ラス受取リタルトキハ縱令、偽造變造ノ貨幣ナルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス然レトモ其取得シタル後偽造變造ナ

ルコトヲ知テ行使シタルトキハ、第五百五十二條ニ依リ論ス可キモノナルコト論ヲ俟タス
以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第五百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ前三條ノ未遂罪ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本章貨幣偽造、變造罪ノ如キハ信用ヲ害スル罪中最モ重キ所爲ナルヲ以テ前三條、貨幣ノ偽造、變造罪、偽造、變造貨幣行使罪、偽造、變造ノ貨幣、輸入罪、偽造、變造貨幣收得罪等ハ孰レモ其偽造、變造、行使、輸入、收得等ニ著手シタルトキハ未遂罪トシテ罰ス可キモノトス而シテ其如何ナル程度ニ達シタルトキヲ著手未遂罪ト爲ス可キヤハ第一編、總則第八章ノ原則ニ依リ決ス可キモノナルヲ以テ茲ニ論セス

第五百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價二倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

本條ハ偽造又ハ變造貨幣ノ行使罪及ヒ交付罪ヲ規定シタルモノナリ

本條前段ハ舊刑法第九十三條「貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得ス」トノ規定ト同一趣旨ナリ

本條ハ(一)偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ知情行使罪(二)偽造變造貨幣紙幣又ハ銀行券ノ交付罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 偽造變造貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ知情行使罪

本罪成立ニハ、第一偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタルコト、第二偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタルコトヲ要ス

本條知情行使罪ハ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得スル際ハ偽造、變造ナルコトヲ知ラズ收得シタルコトヲ要ス若シ初メヨリ偽造、變造ナルコトヲ知テ收得シタルトキハ、第五十條偽造、變造貨幣收得罪ニシテ本條、知情行使罪ニ非ス、而シテ本條偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券トハ、第四十八條內國通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ト同、第四十九條外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ總稱スルコト、第五十條ト同一ナリ是注意ス可キ點ナリトス

第二、偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シタルコトヲ要ス

本罪ハ眞正ナル貨幣、紙幣、又ハ銀行券ナリト信シ收得シタル後、偽造又ハ變造ナルコトヲ發見シ故ラ行使シタルトキ成立スルモノトス而シテ本條ニ所謂、行使ハ既ニ屢々述ヘタル如ク流通セシメタルコトヲ謂フモノナルヲ以テ物品ノ代價又ハ債務ノ辨濟トシテ支拂ヒ若クハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シタルコトヲ要ス而シテ本條、名價トハ其行使シタル貨幣、紙幣又ハ銀行券面ニ明示シタル價額ヲ謂フ假令ハ百圓紙幣ヲ行使シタルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルカ如キ是ナリ

本條行使罪モ亦收得シタル貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ而シテ之ヲ行使スル意思アルヲ要ス故ニ其收得後、偽造變造ナルコトヲ知ラス行使シタルトキハ縱令偽造又ハ變造物ナリシモ尙ホ本條、行使罪ニ非サルナリ

以上ノ條件具備スルトキハ其行使シタル名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス然レトモ其行使シタル貨幣一圓以下ノ名價ナルモ罰金、科料ハ一圓以下ニ降スコトヲ得ス故ニ二十錢銀貨一枚ヲ行使スルモ二十錢ノ三倍六十錢ノ科料ニ處スルコトヲ得ス必ス一圓以上ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス

第五百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ貨幣ノ偽造變造ニ關スル準備ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第八十六條第二項若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ストノ規定ト同一趣旨ナリ

本章ノ各犯罪ノ如キハ經濟上、極メテ重大ナル影響ヲ及ホス罪ナルヲ以テ其偽造變造ノ器械又ハ原料タル金、銀、銅、鐵等又ハ紙片ノ如キ其他偽造變造ニ必要ナル器具、材料假令ハ刻印、印章臺版模型等ヲ準備シタルトキハ之ヲ嚴罰シ害ヲ未發ニ防止スル爲メ本條ヲ設ケタルモノナリ

第十七章 文書偽造ノ罪

總論

本章ハ舊刑法第二編、第四章、第三節官ノ文書ヲ偽造スル罪第四節中、私書偽造罪ノ一部第五節免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪ノ三節ヲ合シテ修正シタルモノナリ
其修正シタル主要ノ點ヲ舉クハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ文書ノ偽造ノミヲ罰シ、圖畫ノ偽造ヲ罰スル規定ヲ闕キタルモ、彼ノ市町村役場備付ノ圖畫又ハ檢證圖書ニ添付スル圖畫ノ如キハ文書ニ非サルモ之ヲ偽造シタルトキハ其實害ノ生スルコト殆ト文書偽造ト異ラサルヲ以テ本法ハ新ニ圖畫ヲ加ヘ廣ク文書若クハ圖畫ノ偽造ヲ罰スルコトト爲シタリ
- 二、舊刑法ハ文書偽造罪ノ成立ニハ原則上、偽造行爲ト行使行爲トノ二要素ヲ必要ト爲シタル爲メ、單ニ文書ヲ偽造シタルニ止マルトキハ罪ト爲サザリシモ本法ハ此主義ヲ改メ通貨偽造罪ト等シク偽造シタルトキハ行使ヲ待タズ直ニ文書偽造罪成立スルコトト爲シタリ
- 三、舊刑法ハ文書偽造罪中ニ公文書毀棄罪ヲ規定シタルモ文書毀棄ノ所爲ハ本章文書偽造罪ト全ク關係ナキ罪ナルヲ以テ本法ハ文書毀棄罪ハ本編第四十章中ニ之ヲ規定シタリ
- 四、舊刑法ハ文書偽造罪ハ單ニ官吏ニ關シテノミ規定シタルモ本法ハ之ヲ改メ公務員ト爲シ獨リ官吏ノミナラス廣ク官吏、公吏、議員、其他ノ委員等ニ共通セシムルコトト爲シタリ
- 五、舊刑法ハ官吏、其職務上、虛偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタルトキハ官文書偽造變造罪ト爲シタルモ本法ハ斯ル場合ハ公務員虛偽ノ文書ヲ作成シ又ハ文書ヲ不正ニ増減變換シタル罪ト改メタリ

六、舊刑法ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ヲ闕キタルヲ以テ本法ハ新ニ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪ヲ設ケタリ

七、舊刑法ハ一般ニ文書偽造罪ニ對スル刑ノ範圍狹キニ失シ實際適用上、困難ヲ感シタルヲ以テ本法ハ刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判所ヲシテ適宜ノ刑ヲ科セシムルコトト爲シタリ

本章ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若ハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル罪(二)御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(四)公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪(五)前(三)(四)罪ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪(六)公務員其ノ職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪(七)公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ

タル罪(八)公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪(九)(七)(八)罪ノ未遂罪(十一)乃至(九)罪ノ文書若クハ圖畫ヲ行使シタル罪(十一)及ヒ其未遂罪(十二)行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(十三)他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(十四)(二十三)罪外ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル罪(十五)醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル罪(十六)(十二)乃至(十)罪ノ文書若クハ圖畫ヲ行使シタル罪及ヒ其未遂罪等ヲ規定シタリ

第二百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署名シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

本條ハ詔書其他ノ文書ヲ偽造又ハ變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百二條ノ前段、「詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス」トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナリ唯、本法ハ該條ト異ナリ其偽造、變造行爲ノ手段ヲ明示シタルニ過キス元來、法律ニ於テ文書偽造ノ所爲ヲ罰スル所以ノモノハ有形的ニ虚偽ノ文書ヲ作成シタル點ニ非ス其文書ニ信用ヲ措カシムル爲メ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ他人ヲ誤信セシムル點ニ在リ夫ノ立法、司法、行政各部ノ公務所ニ於テ公務員ノ作成スル文書ノ信用力アルハ即チ是カ爲メナリ從來ノ官文書即チ公文書ニ模擬シタル一片ノ文字ヲ羅列シタルニ止マルトキハ何人モ之ヲ信用スルコトナキヲ以テ害ヲ生スルコトナシ故ニ本法ニ於テハ(私文書モ亦然リ)公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタルコトヲ公文書偽造罪ノ成立要件ト爲シタリ是本章一般ニ通スル原則ナリ而シテ本條第一項ハ詔書其他ノ文書偽造罪ヲ規定シ第二項ハ詔書其他ノ文書變造罪ヲ規定シタルモノナリ

一、詔書其他ノ公文書偽造罪(第一項)

本條第一項、詔書其他ノ文書偽造罪ハ是ヲ(一)行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書

其他ノ文書ヲ偽造シタル罪トニ區別シテ論セントス

(一) 行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタル詔書其他ノ文書ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條行使ノ目的トハ詔書其他ノ文書ヲ不正ニ作成シテ之ヲ證明ノ用ニ供セントスル希望ヲ謂フモノニシテ行使ノ目的ノ意義ニ就テハ既ニ前章、第九十四條ニ於テ論シタル所ト同一ナリ唯、其異ナル點ハ前章、貨幣偽造罪ニ於ケル行使ノ目的トハ流通ニ置ク意思ヲ意味スルモ本章文書偽造罪ノ行使ノ目的ハ偽造文書ヲ證明ノ用ニ供スル意思タルノ差アルニ過キス

第二、御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタル詔書其他ノ文書タルコトヲ要ス

本條御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シトハ御璽、國璽ヲ盗用シ若クハ御名ヲ不正ニ使用スル所爲ヲ謂フモノニテ詔書トハ天皇ノ御名ヲ以テ作成スル文書ヲ謂ヒ其他ノ文書トハ外國ニ對スル國書、御親翰等ヲ謂フ從來、詔書ニ就テハ勅書、勅諭若クハ詔勅ト稱シタルモ要スルニ御璽、國璽若クハ御名ヲ以テ發シ又ハ發ス可キ文書ハ總テ本條詔書ナリ又御璽トハ天皇ノ御印ヲ奉稱シ國璽トハ

日本帝國ノ印章ヲ稱スルモノナリ御名ヲ使用シトハ御名ヲ不正ニ使用スル所爲ヲ謂フ左レハ本條第一項前段、詔書其他ノ文書偽造罪ハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽ヲ押捺シ若クハ御名ヲ使用シ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタルトキハ直ニ成立スル罪ナリ而シテ文書トハ文字又ハ文字ニ代ニ可キ符號ヲ以テ或事實若クハ思想ヲ表示シタル物ヲ謂フ換言スレハ文書ノ偽造トハ或ル事實又ハ思想ヲ表示シタル文書其モノヲ僞ルコトヲ云フニ在リ此點ニ付テハ仍ホ後ニ至リ詳論セントス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

本條詔書其他ノ文書偽造トハ真正ナル詔書其他ノ文書ニ模擬シタル文書ヲ作成スル所爲ヲ謂フニアリ然レトモ必スシモ真正ナル詔書其他ノ文書ノ實在シタルコトヲ要セス人ヲシテ真正ナル詔書其他ノ文書ト誤信セシムルニ足ル可キ體裁ノ文書ヲ作りタルトキハ本罪成立ス而シテ本罪成立ニハ行使ノ目的ヲ以テ詔書其他ノ文書ヲ偽造スル意思アルヲ要ス然レトモ其文書ハ之ヲ行使スルコトヲ要セサルモノトス

(二) 偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタル詔書其他ノ文書ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

茲ニ所謂行使ノ目的トハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ之ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フニ在リ

第二、偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタル詔書其他ノ文書タルコトヲ要ス

偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタルコトトハ眞正ナル御璽國璽若クハ御名ニ模擬製造シタル印章若クハ御名ヲ使用シタルコトヲ謂フ而シテ其偽造ノ御璽、國璽ヲ押捺シ若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ作成シタルトキハ直ニ本罪成立ス茲ニ注意ス可キハ本條前草案ハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテト規定シ特ニ不正ノ文字ヲ加ヘタルモ御璽、國璽若クハ御名ヲ偽造スル所爲自體、既ニ不正ナルヲ以テ殊更、不正ノ文字ヲ加フル必要ナキヲ以テ確定成案ニ至リ之ヲ削除セラレタリ

第三、偽造シタルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル偽造トハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタル詔書其他ノ公文書ニ模擬シタル文書ヲ作製シタル所爲ヲ云フモノナルモ偽造ノ意義ハ既ニ述ヘタルヲ以テ再說セス
二、行使ノ目的ヲ以テスル詔書其他ノ文書變造罪(第二項)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書タルコト、第三變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

行使ノ目的トハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ變造シテ使用セントスル希望ヲ謂フモノトス

第二、御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書タルコトヲ要ス

詔書其他ノ文書ノ意義ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ再說セス而シテ御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書トハ御璽、國璽ヲ押捺シタル詔書其他ノ文書又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ云フニ在リ

第三、變造シタルコトヲ要ス

變造トハ眞正ナル詔書其他ノ文書ノ内容ヲ變更スル所爲ヲ謂フ換言スレハ詔書其他ノ文書變造罪ハ眞正ナル詔書其他ノ文書ノ文字ヲ増減、變換シ其本來ノ意義又ハ證明力ヲ變更シタル所爲ヲ謂フ故ニ詔書偽造罪ハ眞正ナル詔書ニ模擬シタル文書ヲ作成スルニ因テ成立スルモ詔書變造罪ハ眞正ナル詔書ノ内容ヲ變更スルニ因テ成立スル罪ナリ是其異ナル要點ナリ而シテ本罪成立ニハ御

璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ナルコトヲ知テ變造スル意思ヲ要スルモノトス以上ノ條件具備スルトキハ一、二共無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第五百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使

用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタルモノハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公文書ノ偽造又ハ變造罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百三條官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處スルトノ規定同第二百三條官ノ免狀、鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷スルトノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ而シテ本條第一項前段ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪後段ハ(二)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪、第二項ハ(三)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪ヲ規定シ第三項ハ(四)行使ノ目的ヲ以テ前二項以外ノ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ但シ第三項ノ罪ハ公務所若クハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セサル偽造變造罪ナルヲ以テ前二項ニ比シ其刑ヲ輕クシタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪

璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ナルコトヲ知テ變造スル意思ヲ要スルモノトス以上ノ條件具備スルトキハ一、二共無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使

用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタルモノハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公文書ノ偽造又ハ變造罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百三條「官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス」トノ規定同第二百三條官ノ免狀、鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス」トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ而シテ本條第一項前段ハ「行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪後段ハ「(二)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪、第二項ハ「(三)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪ヲ規定シ第三項ハ「(四)行使ノ目的ヲ以テ前二項以外ノ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ但シ第三項ノ罪ハ公務所若クハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セサル偽造變造罪ナルヲ以テ前二項ニ比シ其刑ヲ輕クシタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫タルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條行使ノ目的トハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ之ヲ使用シ自己又ハ他人ニ對シ利益ヲ得セシメ又ハ他人ニ損害ヲ加フル手段ニ供セントスル希望ヲ謂フニ在リ獨逸刑法ハ自己又ハ他人ニ對シ財産上ノ利益ヲ得セシメ又ハ他人ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ文書偽造ノ罪ヲ犯シタルトキハ云々ト規定シ其目的ヲ明示シタリ

第二、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

本條公務所又ハ公務員モ亦總則第七條ニ所謂、官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員、其他ノ職員ヲ謂フモノニテ公務所トハ各公務員ノ職務ヲ行フ場所ヲ謂フモノトス而シテ本條ニ所謂、公文書即チ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ニ付テハ從來、公文書ト稱シ二個ノ見解アリタリ一ハ公務員カ其職務ヲ以テ調成スル文書ハ總テ公文書ナリト一ハ公務員カ國家ノ爲

政機關トシテ作成スル文書ノミヲ公文書ナリト第一說ニ依レハ苟モ公務員タル資格ヲ有スル者ノ作成スル文書ハ公法上ノ關係ニ就テ作成スルト私法上ノ關係ニ就テ作成スルトヲ問ハス凡テ公文書ナリト云フニ在リ第二說ニ依レハ公文書トハ公務員カ國家ノ爲政機關トシテ即チ公法上、統治機關トシテ作成スルモノニ限り公文書ニシテ私法上ノ關係ニ就テ作成スル文書例ヘハ公務員カ官衙ヲ代表シテ私人ト請負契約ヲ爲シタル場合ニ作ル契約書ノ如キハ公文書ニ非スト云フニ在リ有力ナル學者ハ後說ヲ主張スルモ余ハ公務員タル資格アル者其管掌ニ係ル職權内ニ於テ法令ノ規定ニ從ヒ作成シタル文書ハ公法上ノ關係ナルト私法上ノ關係タルトヲ問ハス總テ公文書ナリトノ第一說ヲ可トス故ニ本條、公文書若クハ圖畫トハ官吏、公吏、議員、委員其他公務ニ従事スル者其職權内ニ於テ法令ノ定ムル程式規則ニ從ヒ作成シ又ハ作成ス可キ文書若クハ圖畫ヲ謂フモノトス例ヘハ彼ノ官吏、公吏ノ任命ニ關スル辭令、免狀、鑑札又ハ判決、決定、命令書其他司法、行政各部ノ公務所又ハ公務員ノ名義ヲ以テ作り若クハ作ル可キ總テノ文書又ハ圖畫（檢證調書ニ添附ノ圖面若クハ村役場備付繪圖等）ノ如キ是ナリ蓋シ本條、公務所又ハ公務員トハ現ニ存在シ又ハ存在シタルコトアル公務所又ハ公務員タルコトヲ要スルヲ以テ若シ實在セサル假設ノ公務所又ハ公務員ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スルモ本條、公文書偽造ニ非ス左レハ法令ニ依リ存在シ又ハ存在

シタルコトアル公務所又ハ公務員ノ製作シ又ハ作成ス可キ文書タルコトヲ要スルモノトス
 文書トハ文字又ハ符號ヲ以テ或ル事實若クハ思想ヲ表示シタルモノナルコトハ既に述ヘタル如ク
 ナルヲ以テ本條文書モ亦一定ノ文字又ハ文字ニ代ユル符號ヲ附著セシメタル意思表示物ヲ謂フニ
 在リ而シテ茲ニ所謂、文字トハ我日本文字タルト外國文字タルトヲ問ハス符號トハ電信符號、速
 記文字等ノ思想ヲ表白スル爲メ一般ニ認メラレタルモノヲ總稱シ其文字符號ヲ表示スル物モ亦
 通常ハ紙片ナリト雖モ織物、竹木又ハ金屬、土塊等總テ此文字ヲ表着セシムルニ足ル可キモノハ
 文書偽造ノ物體ト爲スコトヲ得可シ

第三、偽造シタルニトヲ要ス

本條偽造シタルコトトハ公務所又ハ公務員ノ印章ヲ盜用シ又ハ不正ニ公務員ノ氏名ヲ使用シ官文
 書ニ模擬シテ文書ヲ作成スル所爲ヲ謂フ換言スレハ本條ニ所謂、公文書偽造トハ證據ノ用ニ供ス
 ル目的ヲ以テ不正ニ公文書ニ模擬シタル文書ヲ作成スル所爲ヲ云フニ在リ然レトモ真正ナル公文
 書ノ存在スルコトヲ要セス、唯人ヲシテ真正ナル公文書ト誤信セシムルニ足ル可キ程度ニ作成シ
 タルコトヲ要スル而已故ニ真正ナル公文書ト同一ナル公文書ヲ偽造シタル場合ハ勿論、公務所ノ
 文書ヲ假想シテ作成シタル場合モ尙ホ本條、公文書偽造罪ナリ茲ニ一言ス可キハ一人ノ作成シ

タル文書ニ官吏又ハ公吏カ與書ノ方法ニ依リ證明ヲ與フルコトアリ例ヘハ村役場、市役所等ニ於
 テ私人ノ申請ニ依リ與フル不動産所有ノ有無ニ關スル證明書ノ如キ是等ノ文書ハ其證明書、全部
 カ公證文書ナルヤ將タ與書ニ關スル部分ノミ公證文書ナルヤハ從來、大ニ議論ノ有リタル所ナル
 モ斯ル場合ハ其與書部分ノミニテハ何等ノ效用ヲモ爲ササルヲ以テ私書ニ係ル部分ト共ニ公證文
 書ナリトノ説ヲ可トス左レハ公文書トハ必スシモ官吏ノ作成シタル文書ノミヲ云フニ非ス一人
 ノ作成シタル文書ト雖モ一旦、之ヲ官署ニ差出シ官署ニ於テ保存スルトキハ官文書ナリトノ判例
 アリ故ニ民刑訴訟當事者ノ提出シテ記録ニ添付シタル書類若クハ圖畫ヲ偽造シタルトキハ凡テ公
 文書偽造ナリトス

(二) 偽造シタル公務所又ハ公務ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若
 クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(第一項後段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使
 用シタル公務所若クハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件ア
 ルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタルコトノ意義ニ就テハ既ニ詔書偽造罪ニ於テ述ヘタルヲ以テ再説セス

本條第一項前段ハ行使ノ目的ヲ以テ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造スルニ依テ成立スル罪ナルモ本罪ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ氏名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ作成スルニ因テ成立スル罪ナリ茲ニ一言ス可キハ本條第一項前段ニ該當ス可キ前草案ハ不正ニ云々ト規定シタルモ偽造ノ所爲自體既ニ不正ナルヲ以テ殊更不正ノ文字ヲ加フル必要ナキヲ以テ確定成案ニ至リ不正ノ文字ヲ削除シタルモノナリ而シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ニ就テモ既ニ詳論シタルヲ以テ再説セス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

茲ニ所謂偽造トハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ公務所又ハ公務員ノ作

ル可キ文書若クハ圖畫ニ模擬シテ作成シタル所爲ヲ謂フニ在ルモ既ニ屢々詳論シタルヲ以テ別ニ論セス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫タルコト、第三變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル行使ノ目的トハ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シ之ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フモノニテ既ニ公文書偽造罪ニ於テ述ヘタル所ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫トハ真正ナル官吏、公吏其他公務ニ従事スル議員、委員等カ法令ノ定ムル程式ヲ履行シ公務所又ハ公務員ノ名義ヲ以テ作成シタル文書若クハ圖畫ヲ謂フモノトス而シテ其文書若クハ圖畫トハ如何ナルモノナルヤハ既ニ文書偽造罪ニ

於テ詳論シタルヲ以テ再說セス茲ニ所謂公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名トハ公務所ノ印章又ハ公務員ノ印章ヲ捺捺シ若クハ公務所又ハ公務員ノ氏名ヲ以テ作成シタル文書若クハ圖畫ヲ謂フコトモ亦既ニ述ヘタルカ如シ

第三、變造シタルコトヲ要ス

變造トハ眞正ナル文書若クハ圖畫ノ内容記載事項ヲ増減變換スル所爲ヲ謂フ換言スレハ公務所又ハ公務員ノ職權ヲ以テ程式ニ從ヒ作成シタル文書若クハ圖畫ノ内容ヲ増減變換シタル所爲ヲ謂フニ在リ而シテ此公文書又ハ圖畫ノ變造ハ假令重要ナラサル事項ノ増減變換ナルモ尙ホ本條、變造罪成立ス是即チ公務所又ハ公務員ノ信用ヲ害スルコト極メテ大ナル不正行爲ナレハナリ蓋シ茲ニ注意ス可キハ其變造シタル公文書ハ公務員ノ職權限内ニ於テ作成シタルモノタルヲ要ス若シ權限ナキ事項ニ付キ作成シタルモノナルトキハ公務員ノ作成シタル文書ナルモ公文書ト云フコトヲ得ス本罪成立ニハ公務所又ハ公務員ノ作成シタル文書又ハ圖畫タルコトヲ知テ變造スル意思ヲ要スルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ説明セス

(四) 前二項以外ノ手段ニ依リ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ偽造、變造シタル罪
(第三項)

本條第三項ハ前二項ニ規定シタル以外ノ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル場合ニ關スル規定ナリ例之ハ公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ナキ文書、圖畫等ノ偽造又ハ公務所ノ捺印若クハ署名ナキ文書、圖畫等ノ偽造變造ノ如キ是ナリ而シテ是等ノ場合ハ前二項ニ比シ其情、輕キヲ以テ特ニ本項ヲ設ケタル所以ナリ

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二前二項規定以外ノ手段ニ依リ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ナルコト、三第偽造、變造シタルコトノ三條件アルヲ要スルモ本條件ハ既ニ屢々説明シタルヲ以テ別ニ論セス唯茲ニ一言ス可キハ前二項以外ノ手段ニ依リ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ノ偽造、變造トハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セス又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セス他ノ方法手段ニ依リ偽造、變造シタル總テノ場合ヲ謂フ例ヘハ既ニ一言シタル如ク一私人カ官署ニ提出シタル文書若クハ圖畫ヲ偽造變造シタルカ如キ是ナリ

以上ノ條件具備スルトキハ(一)二共三年以上十年以下ノ懲役(三)罪ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第五百十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖

畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

本條ハ公務員其職務ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ舊刑法第二百五條、第一項、官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フルトノ規定同第二百十四條第二項、官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下附シタル者ハ一等ヲ加フルトノ規定ト同一ノ場合ニ關スル規定ナルモ其立法趣旨ハ全ク異ル所アリ即チ舊刑法ハ官吏其職務上、虛偽ノ文書ヲ作成シタル場合ヲ官吏管掌ニ係ル文書偽造罪ト爲シタルモ其文書ノ形式ニ於テ官吏ノ職務上作成シタル文書ナルトキハ縱令、實質上ニ瑕瑾アルモ尙ホ官文書ノ變造ト爲シタルハ不當ナルヲ以テ本法ハ之ヲ改メ公務員其職務ニ關シ虛偽ノ文書ヲ作りタル場合及ヒ不正ニ文書ヲ變造シタル場合ノ規定ト爲シタリ而シテ本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ公務員其職務ニ關シ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ公務員文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一)行使ノ目的ヲ以テ公務員其職務ニ關シ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪
本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務員其職務ニ關スルコト、第三虛偽ノ文書若クハ

圖畫ヲ作りタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

茲ニ所謂、行使ノ目的トハ公務員自己ノ職務ニ關シ眞正ナル文書ニ假想シテ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作成シ之ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フニアリ例ヘハ會計官吏、銀行ヨリ金ヲ騙取スル目的ヲ以テ虛偽ノ支拂命令書ヲ作り又ハ村役場ノ吏員其村内ニ存在セサル場所ニ關スル村圖ヲ作りタル場合ノ如キ是ナリ

第二、公務員其職務ニ關スルコトヲ要ス

本條公務員トハ既ニ述ヘタル如ク官吏、公吏其他公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フモノニシテ是等公務員其職務ニ關シトハ公務員其職務上作成シ又ハ作成ス可キ權限ヲ有スルコトヲ謂フニアリ例ヘハ會計官吏、行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ支拂命令書ヲ作ルカ如キ是ナリ故ニ官吏タルモ若シ行政官タル檢事判決書ヲ作りタル場合ノ如キハ自己ノ職務權限内ノ行爲ニ非サルヲ以テ本條虛偽ノ文書作成ト云フコトヲ得ス如何トナレハ縱令、公務員ト雖モ其職務以外ニ於テハ之ヲ作成スルコトヲ得サルモノナレハナリ是、注意ス可キ點ナリ

第三、虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタルコトヲ要ス

本罪成立ニハ公務員、其職務上ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタルコトヲ要ス故ニ若シ行使ノ目的ナク單ニ自修ノ目的ヲ以テ自己ノ職務上ニ關スル文書又ハ圖畫ヲ作り自己ノ筐底ニ保存シタル場合ノ如キハ本條虚偽ノ文書作成罪ニ非ス如何トナレハ斯ル場合ハ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタルモノニ非サレハナリ

(二) 行使ノ目的ヲ以テ公務員其職務ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務員其職務ニ關シ作ル可キ文書若クハ圖畫タルコト、第三變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ヲ要スルコトハ既に説明シタルヲ以テ別ニ論セス

第二、公務員其職務ニ關シ作ル可キ文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

公務員其職務ニ關シ作ル可キ文書若クハ圖畫トハ官吏、公吏其他法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員等カ其權限内ニ於テ作成ス可キ文書若クハ圖畫ヲ云フモノナルコトハ既に屢々述べタル所ナルヲ以テ再説セス

第三、變造シタルコトヲ要ス

茲ニ所謂變造シタルコトハ公務員其職務ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ不正ニ増減變換スル所爲ヲ謂フ換言スレハ職務上、真正ニ作成シタル文書若クハ圖畫ヲ不正ニ其内容事項ヲ増減、變換シ眞正ナル證明力ヲ變更スル所爲ヲ云フニアリ例ヘハ判事故意ニ被告ヲ懲役二年ニ處スル判決原本ヲ作成シ之ヲ言渡シタル後三年ト變更シタル場合ノ如キ是ナリ而シテ本罪ハ其變造スル原因如何ヲ問ハズ不正ニ文書ノ内容ヲ變更シタルトキハ本罪成立スルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ前二條ノ例ニ依リ處斷ス可キモノトス

第二百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書

ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪ヲ規定シタルモノナリ
 本條ハ本法ノ新設ニ係ル規定ニシテ即チ第一項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關ス
 ル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪ヲ規定シタルモノナリ舊刑法ハ本條ノ場合ニ關ス
 ル規定ヲ缺キタルヲ以テ從來其解釋、區々ニ分レ或ハ本條ノ場合ハ文書偽造罪ヲ構成スト論シ或ハ
 文書偽造罪ヲ構成セスト論シ議論一定セサリシモ公務員ヲ欺キ虚偽ノ公證ヲ爲サシメ若シハ不實ノ
 登記ヲ爲サシメタルトキハ自ラ文書ヲ偽造シタルニ非サルモ詐欺若クハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ公務員ヲ
 シテ不實ノ登記又ハ公證ヲ爲サシムルモノナルヲ以テ恰モ公務員ヲ使用シテ偽造ノ所爲タルト等シ
 ク其實害ノ生スル點ニ於テ文書偽造罪ト異ナルコトナシ殊ニ從來、屢々此種ノ犯罪ヲ生シ弊害ニ堪
 ヘサリシヲ以テ本法ハ特ニ明文ヲ設ケテ此等ノ疑義ヲ避ケ第二項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ
 免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪ニシテ是亦舊刑法ニ規定ナキ所ナリシヲ以テ第
 一項ト同一趣旨ニ因リ規定シ第三項ハ前二項ノ場合ハ特ニ本罪ノ未遂ノ所爲ヲ罰ス可キコトヲ規定
 シタルモノナリ獨逸刑法第二百七十一條ハ重要ナル權利義務ニ關スル虚偽又ハ附會ノ陳述ヲ爲シ又
 ハ之ニ對スル資格名義ヲ詐リ故意ニ之ヲ公證書、公簿、登記簿ニ公證セシメタル者ハ云々ト規定セ

(一) 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタ
 ル罪(第一項)

本罪成立ニハ、第一公務員ニ對スルコト、第二虚偽ノ申立ヲ爲シタルコト、第三權利義務ニ關スル
 公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、公務員ニ對スルコトヲ要ス

公務員トハ既ニ屢々述ヘタル如ク官吏、公吏法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員ヲ
 謂フモノトス故ニ是等一般公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ本罪成立セズ

第二、虚偽ノ申立ヲ爲シタルコトヲ要ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シタルコトハ當該公務員ニ對シ虚構不實ノ陳述ヲ爲シタル所爲ヲ
 謂フ例ヘハ戶籍吏、登記官吏、公證人等ニ對シ虚構不實ノ申述ヲ爲シ(書面又ハ口頭ニテ)自己ノ
 名義ヲ以テ虚偽ノ登記ヲ爲サシムルカ如キ場合ヲ云フモノトス前數條ニ規定シタル文書偽造、變
 造罪ハ他人ノ名義ヲ冒シ虚偽ノ事實ヲ自ラ記載スルニ因テ成立スル罪ナルモ本罪(無形的文書偽
 造)ハ當該公務員ニ對シテ虚構ノ申立ヲ爲シ自己ノ名義ヲ以テ不實ノ記載ヲ爲サシムルニ因テ成
 立スル罪ナリ是文書偽造、變造罪ト異ル要點ナリ

第三、權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトヲ要ス

本條、權利義務ニ關スル公正證書トハ戶籍吏カ所轄市町村内ノ本籍人、非本籍人ノ出生、婚姻、養子、縁組、離婚、離縁、後見、家督相續、隱居、死亡、失踪其他、身分ノ變更等ニ就キ届出テ事項ヲ記載ス可キ身分登記簿又ハ登記官吏カ商業登記若クハ不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ申請事項ヲ記載ス可キ登記簿、公證人カ囑託ニ應シ作成シタル民事ニ關スル公正證書等ヲ謂フモノトス然レトモ茲ニ所謂權利義務ニ關スル公正證書ノ原本トハ獨リ是等ノ者ノ作成シタル公正證書ノミナラス廣ク官吏其他ノ議員、委員等カ申立ニ依リ作成ス可キ調書、公簿其他ノ公書等ヲ總稱スルモノナリ

蓋シ本條權利義務ニ關スル公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲ス公務員即チ戶籍吏、登記官吏、公證人等ハ自己ノ管掌權限内ニ於ケル事項ニ就キ虚偽ノ申立ヲ受ケタルコトヲ要ス若シ登記官吏ニ對シ人ノ身分ニ關スル出生、死亡、婚姻等ノ届出ヲ爲スモ登記官吏ノ職務事項ニ非サルト同シク戶籍吏ニ對シ不動産ノ賣買、抵當、保存等ノ登記申請ヲ爲スモ戶籍吏ハ登記ス可キ權限ナキ以テ其事實カ縱令、虚偽ナルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス、是即チ孰レモ其職務行為ニ非サル登記ナルハナリ而シテ本罪成立ニモ公務員ニ對シ虚偽ノ事項ヲ記載セシムル意思アルコトヲ要スルモノト

ス

(二) 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪(第二項) 本罪成立ニハ、第一公務員ニ對スルコト、第二虚偽ノ申立ヲ爲シタルコト、第三免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、公務員ニ對スルコトヲ要ス

茲ニ所謂、公務員トハ専ラ免狀、鑑札又ハ旅券ノ下附ヲ取扱フ行政官廳ノ公務員ヲ指スモノトス

第二、虚偽ノ申立ヲ爲シタルコトヲ要ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シタルコトトハ(免狀、鑑札又ハ旅券ノ下附ヲ申請スル者)其當該、公務員ニ對シ虚偽不實ノ申立ヲ爲シタルコトヲ謂フモノトス

第三、免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトヲ要ス

本條(一)免狀トハ法令ノ規定ニ依リ一定ノ條件ヲ具備シタル者ニ對シ當該公務所ヨリ或ル特種ノ業務ヲ爲シ又ハ爲スコトヲ得可キ資格ヲ附與スル證書ヲ謂フ例ヘハ辯護士、醫師、藥劑師、獸醫等ニ對シ司法省又ハ内務省ヨリ下附シタル試験合格證書ノ如キモノ是ナリ(二)鑑札トハ法令ノ規定ニ

依リ當該公務所ヨリ或ル特種ノ業務ヲ爲シ又ハ爲スコトヲ得可キコトヲ許可シタル證標ヲ謂フ例
 へハ地方官廳ヨリ行政取締上、特種ノ營業ヲ爲ス貸席、料理店、荷車、人力車夫等ニ下附スル營
 業鑑札ノ如キ是ナリ(三)旅券トハ外國ニ旅行スル者等ニ對シテ當該官廳ヨリ下附スル旅行免狀ヲ謂
 フ以上ノ免狀、鑑札、旅券ノ下附ヲ求ムル際當該公務員ニ對シ身分、氏名、年齢其他、各特別法
 令ノ規定スル一定ノ下附條件ニ付キ虛偽ノ申立ヲ爲シ不實ノ記載ヲ爲サシメタルトキハ本罪成立
 ス故ニ本罪成立ニハ虛構不實ノ申立ヲ爲ス意思アルコトヲ要スルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)罪ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金(二)罪ハ六月以下ノ懲役又ハ五
 十圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

本條第三項ハ前二項ノ所爲ニ著手シタルトキハ未遂罪トシテ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ而
 シテ本罪ハ當該公務員ニ對シ虛構ノ申立ヲ爲シタルトキハ即チ本罪ノ著手未遂ナリトス

第五百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其ノ文

書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不
 實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ偽造、變造ノ公文書若クハ圖畫ヲ行使シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ第五百五十四條、同第五百五十五條及ヒ第五百五十六條、第五百五十七條ニ規定シタル各偽造、變造
 ノ文書若クハ圖畫ヲ行使シタル者ヲ罰スル規定ニシテ此行使罪ハ(本條第二項)其未遂ノ所爲ヲ罰ス
 ルモノトス而シテ本法ニ於テハ既ニ述ヘタル如ク單ニ行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シタル者ヲ罰ス
 ル主義ナルニ依リ之ヲ行使シタル者ニ對スル處分ヲ規定スルノ必要アリ加之、本條、行使罪ノ未遂
 ハ印章偽造罪ト間別ス可ラサルモノナルヲ以テ特ニ明文ヲ設ケテ其未遂ノ所爲ヲ罰スルコトト爲シ
 タルモノナリ(草案理由書參照)獨逸刑法第二百七十條ハ偽造又ハ變造シタル文書タルノ情ヲ知リ詐
 欺ノ目的ヲ以テ之ヲ行使シタル者ハ文書偽造ノ罪ヲ以テ論スト規定セリ

本罪成立ニハ、第一偽造又ハ變造シタル公文書若クハ圖畫ナルコト、第二行使シタルコトノ二條件
 アルヲ要ス

第一、偽造又ハ變造ノ公文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

偽造又ハ變造ノ公文書若クハ圖畫トハ既ニ第五百五十四條乃至第五百五十七條ニ於テ詳論シタル如ク
 偽造又ハ變造シタル詔書其他ノ公文書又ハ公務所若クハ公務員ノ作りタル公文書、圖畫、申立ニ

依リ不實ノ記載ヲ爲シメタル公正證書ノ原本等ヲ總稱スルモノトス

第二、行使シタルコトヲ要ス

行使トハ偽造又ハ變造ニ係ル公文書若クハ圖畫ヲ共犯者以外ノ他人ニ提示スル所爲ヲ謂フ故ニ共犯人ニ對シ偽造、變造ノ公文書ヲ提示スルモ本條行使罪ニ非ス左レハ登記官吏、他人ト共謀シ其偽造ニ係ル地所賣渡證書正本ニ登記濟ノ文字ヲ記載シ其共謀者ニ下附シタル所爲ハ第三者ニ對シ利用シタルニ非サルヲ以テ行使ト爲スヲ得ストノ判例アリ然レトモ共犯者ニ非サルトキハ自己ノ訴訟代理人タル辯護士ニ提示スルモ仍ホ偽造文書ノ行使ナリトノ判例アリ此ニ注意ス可キハ本條、行使罪ハ偽造又ハ變造者、自ラ行使スル場合ニ非スシテ他人ノ偽造、變造ニ係ル公文書ヲ單ニ行使スル場合ナリ故ニ苟モ前四條ニ規定シタル他人ノ偽造、變造ノ公文書若クハ圖畫又ハ不實ヲ記載シタル公正證書ノ原本ナルコトヲ知テ行使シタル者ハ總テ本條行使者ナリ左レハ若シ一人ニテ文書ヲ偽造シ行使シタルトキハ第一編、總則第九章、第五十四條ノ併合罪ナリ蓋シ如何ナル程度ニ達シタルトキハ本條、行使ノ既遂ナルヤニ就テハ左ノ三主義アリ

第一、發送主義、此主義ハ文書ヲ行使者ノ手ヲ離レタルトキ例ヘハ郵便箱ニ投シタルトキハ行使ノ既遂ナリト

第二、到着主義、此主義ハ文書カ被行使者ノ手ニ入りタルトキ例ヘハ被行使者ノ見ルコトヲ得可キ場所ニ置キタルトキハ行使ノ既遂ナリト

第三、了知主義、此主義ハ被行使者ニ於テ文書ヲ知了シタルトキ例ヘハ讀ミタルトキハ行使ノ既遂ナリト

以上ノ三說中第三、了知主義ヲ以テ最モ事理ニ適シタルモノナリ但シ從來ノ判例ハ第三說ナルカ如シ而シテ前四條ニ規定シタル偽造、變造又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル公文書ナルコトヲ知テ行使スル意思アルヲ要ス故ニ若シ偽造、變造ノ公文書ナルコトヲ知ラス行使シタルトキハ縱令、偽造、變造ニ係ル公文書ナルモ本條、行使罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタル者ト同一ノ刑ニ處ス可キモノトス

本條第二項ハ前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スト規定シタルヲ以テ行使罪ハ其未遂ノ所爲ヲ罰ス可キモノナルニ依リ行使ノ所爲ニ著手シタルトキハ本條、未遂罪成立ス(發送主義、到着主義參照)

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ

依リ不實ノ記載ヲ爲サシメタル公正證書ノ原本等ヲ總稱スルモノトス

第二、行使シタルコトヲ要ス

行使トハ偽造又ハ變造ニ係ル公文書若クハ圖畫ヲ共犯者以外ノ他人ニ提示スル所爲ヲ謂フ故ニ共犯人ニ對シ偽造、變造ノ公文書ヲ提示スルモ本條行使罪ニ非ス左レハ登記官吏、他人ト共謀シ其偽造ニ係ル地所買渡證書正本ニ登記濟ノ文字ヲ記載シ其共謀者ニ下附シタル所爲ハ第三者ニ對シ利用シタルニ非サルヲ以テ行使ト爲スヲ得ストノ判例アリ然レトモ共犯者ニ非サルトキハ自己ノ訴訟代理人タル辯護士ニ提示スルモ仍ホ偽造文書ノ行使ナリトノ判例アリ此ニ注意ス可キハ本條、行使罪ハ偽造又ハ變造者、自ラ行使スル場合ニ非スシテ他人ノ偽造、變造ニ係ル公文書ヲ單ニ行使スル場合ナリ故ニ苟モ前四條ニ規定シタル他人ノ偽造、變造ノ公文書若クハ圖畫又ハ不實ヲ記載シタル公正證書ノ原本ナルコトヲ知テ行使シタル者ハ總テ本條行使者ナリ左レハ若シ一人ニテ文書ヲ偽造シ行使シタルトキハ第一編、總則第九章、第五十四條ノ併合罪ナリ蓋シ如何ナル程度ニ達シタルトキハ本條、行使ノ既遂ナルヤニ就テハ左ノ三主義アリ

第一、發送主義、此主義ハ文書ヲ行使者ノ手ヲ離レタルトキ例ヘハ郵便箱ニ投シタルトキハ行使ノ既遂ナリト

第二、到着主義、此主義ハ文書カ被行使者ノ手ニ入りタルトキ例ヘハ被行使者ノ見ルコトヲ得可キ場所ニ置キタルトキハ行使ノ既遂ナリト

第三、了知主義、此主義ハ被行使者ニ於テ文書ヲ知了シタルトキ例ヘハ讀ミタルトキハ行使ノ既遂ナリト

以上ノ三說中第三、了知主義ヲ以テ最モ事理ニ適シタルモノナリ但シ從來ノ判例ハ第三說ナルカ如シ而シテ前四條ニ規定シタル偽造、變造又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル公文書ナルコトヲ知テ行使スル意思アルヲ要ス故ニ若シ偽造、變造ノ公文書ナルコトヲ知ラス行使シタルトキハ縱令、偽造、變造ニ係ル公文書ナルモ本條、行使罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタル者ト同一ノ刑ニ處ス可キモノトス

本條第二項ハ前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スト規定シタルヲ以テ行使罪ハ其未遂ノ所爲ヲ罰ス可キモノナルニ依リ行使ノ所爲ニ著手シタルトキハ本條、未遂罪成立ス(發送主義、到着主義參照)

第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ

印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ私文書若クハ圖畫ヲ偽造、變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二十條、賈買、貸借、贈遺、交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上、四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ二月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ハ賈買、貸借、贈遺、交換、其他權利義務ニ關スル證書ト其餘ノ私書トヲ區別シタルモ本法ハ之ヲ改メ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ト爲シ人ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル私書ノ偽造、變造ハ總テ本條ニ依リ論スルコト

ト爲シタリ而シテ本條第一項ハ私書若クハ圖畫ノ偽造ニ關スル罪ヲ規定シ第二項ハ變造ニ關スル罪ヲ規定シ第三項ハ前二項以外ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ニ對スル罪ヲ規定シタリ

一、私書若クハ圖畫ノ偽造罪

本條第一項ハ之ヲ(一)行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪第二項(三)其餘ノ私書若クハ圖畫ヲ偽造、變造シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ私書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫タルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條、行使ノ目的トハ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ他人ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ作成シ之ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フニアリ獨逸刑法ハ既ニ述ヘタル如ク此

點ニ付キ他人ニ對シ財産上ノ利益ヲ得セシメ又ハ他人ニ損害ヲ加ヘン爲メ文書偽造ノ罪ヲ犯シ云々ト規定シ明ニ行使ノ目的ノ不正ナルコトヲ示シタリ而シテ本條件ハ前五條ニ於テ屢々、説明シタル所ナルヲ以テ再說セス唯々、前五條ハ官公文書ニ係ルモ本條ハ私文書ニ係ルノ差異アルニ過キスシテ行使ノ目的ニ至テハ全ク二者同一ナリトス

第二、他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫トハ他人ノ印章若クハ他人ノ自書シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ謂フ故ニ自己ノ實印ヲ使用シ自己ノ名義ヲ以テ作成シタルトキハ縱令、虛偽ノ事實ヲ記載シタル文書ナルモ本條、私書偽造罪ニ非ラス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

茲ニ偽造トハ他人ノ印章ヲ盜捺シ若クハ他人ノ自書シタル氏名ヲ不正ニ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル虛偽ノ證據文書若クハ圖畫ヲ作成スル所爲ヲ謂フ例ヘハ行使ノ目的ヲ以テ甲、乙者ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ眞正ナラサル文書若クハ圖畫ヲ作成シタルカ如キ是ナリ而

シテ其文書、圖畫ノ内容事項、眞正ナル文書ニ模擬シタルト否トヲ問ハス他人カ見テ以テ眞正ノ文書若クハ圖畫ナリト誤信スルニ足ル可キ體裁ヲ具備シタルトキハ本條ニ所謂、私書偽造ナリ茲ニ疑ノ存スルハ死者又ハ假想ノ人ノ文書ヲ作成シタルトキハ本條、文書偽造罪ナルヤ否ヤノ問題是ナリ從來ノ學說、判例共ニ區々ナリト雖モ彼ノ死者ノ名義ヲ冒シ文書ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成ストハ多數學者ノ說ナルモ世ニ存在シタルコトナキ假想ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成シタルトキハ他人ノ文書偽造罪ニ非スト説ク者アリ又本罪ハ文書ノ證據力ニ信頼セシメ人ヲ欺ク罪ナルヲ以テ之ニ用ヒタル名義ハ眞ニ存在シタル者ナルト否トヲ問ハス又其事實ノ眞實ナルト否トヲ問フノ必要ナシ故ニ死者ノ名義ヲ冒スモ全ク世ニ存在セサル假想名義ヲ用ユルモ結局同一ナルニ因リ假想名義ヲ以テ文書ヲ作成スルモ仍ホ本罪成立ストノ反對説アリ而シテ本條ニ所謂權利義務トハ私法上民事商事ニ關スル私人ノ利害ニ關スル證書例ヘハ遺言書、金錢貸借書、受取書、賣買書、注文書、契約書、保險申込書等財産權ノ得喪、變更、發生、消滅ニ關スル書類ノ如キ又事實證明ニ關スル證書トハ事實ノ存在、不存在ヲ證スル文書假令ハ民事、刑事ニ關スル訴訟上ニ於ケル事實立證ニ供スル證明書等ヲ謂フ故ニ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書以外ノ書類、假令ハ花見誘引ノ手紙若クハ來遊ヲ促ス案内狀ノ如キハ本條、他人ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル

文書中ニ包含セス

本罪成立ニハ不正ニ他人ノ名義ヲ冒シ文書若クハ圖畫ヲ作成スル意思アルヲ要ス故ニ他人ノ文書ヲ偽造スルノ意思ハ即チ本罪ノ犯意ナリトノ判例アリ

二、行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫タルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

茲ニ行使ノ目的トハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ他人ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ之ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フニアリ

第二、偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫トハ他人ノ印章ヲ偽造シ之ヲ押捺シ若クハ不正ニ他人ノ署名即チ氏名ヲ使用シ他人ノ權利義務又ハ

事實證明ニ關スル文章若クハ圖畫ヲ謂フニアリ而シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ノ意義ニ就テハ既ニ屢々詳論シタルヲ以テ再説セス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

茲ニ所謂、偽造トハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル虛偽ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ作成シタル所爲ヲ謂フニ在リ茲ニ注意ス可キハ本條第一項前段ニ該當スル前草案ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ云々ト規定シタルモ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタルトキハ其偽造ノ所爲自體不正ナルヲ以テ之ヲ削除シタルコト是ナリ

二、私文書若クハ圖畫ノ變造罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫タルコト、第三變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

茲ニ所謂、行使ノ目的トハ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル他人ノ文書若クハ繪圖ヲ變造シ之ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フニアリテ偽造ノ場合

ニ於ケル行使ノ目的ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫タルコトヲ要ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫トハ眞正ナル他人ノ印章ヲ使用シ若クハ他人ノ自署シタル文書若クハ圖畫ヲ謂フモノニテ文書偽造罪ノ場合ト同一ナルヲ以テ再論セス

第三、變造シタルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル變造トハ他人ノ印章ヲ押捺シ眞正ニ成立シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫又ハ他人ノ眞正ニ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ノ内容記載事項ヲ變更スル所爲ヲ謂フ換言スレハ文書變造罪ハ既ニ存在スル眞正ナル文書ノ重要ナル記載事項ヲ増減變換スル所爲ヲ云フニアリ例ヘハ眞正ナル貸金證書ノ金額二百圓ヲ三百圓ト變換シ其返濟期日ヲ六月三十日トアルヲ七月三十一日ト改ムルカ如キ所爲是ナリ出訴期限ヲ經過シタル證書ノ返濟期限ヲ變更シテ未タ出訴期限ヲ經過セサルモノノ如ク作成シタル所爲ハ私書變造罪ナリトノ判例アリ然レトモ若シ其既存文書ノ内容事項ヲ變更シテ全ク別種ノ文書ト爲シタルトキハ縱

令其材料ヲ既存文書ニ執ルモ文書偽造罪ナルヲ以テ既ニ不用ニ歸シタル證書反古紙ヲ材料トシテ作成シタルトキハ證書變造罪ニ非スシテ偽造罪ナリトノ判例アリ又擅ニ既存ノ證書ヲ變換シテ自己ノ利益ニ之ヲ使用シタル場合ハ假令其一部ヲ毀損シタルトキト雖モ證書毀棄罪ニ非スシテ證書變造罪ナリトノ判例アリ之ニ反シテ其既存文書ノ證明力ヲ減却シテ效用ヲ失ハシメタルトキハ文書毀棄罪ナリトス是文書偽造、變造毀棄罪ノ異ナル要點ナリ而シテ他人ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造スル意思アルヲ要スルモノニテ文書偽造罪ニ於テ述ヘタル如ク他人ノ文書ヲ變造スル意思ハ即チ變造罪ノ犯意ナリトス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)罪ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處シ三罪ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ醫師、公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百五十五條「公務ヲ免ル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタ

ル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上、三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。醫師、囑託ヲ受ケ其詐欺ノ證書ヲ作リタル者ハ一等ヲ加フ。トノ規定ヲ修正シ本法ハ單ニ醫師ノ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル場合ノミニ關スル規定ト改メタリ

本罪成立ニハ、第一醫師タルコト、第二公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書タルコト、第三虚僞ノ記載ヲ爲シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、醫師タルコトヲ要ス

本條醫師トハ醫術開業試験ヲ受ケ又ハ其他ノ履歷ニ依リ内務省ヨリ開業免狀ヲ得タル者ヲ謂フ（明治十六年第三十五號布告醫師免許規則參照）

第二、公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書タルコトヲ要ス

公務所ニ提出ス可キ（一）診斷書トハ人ニ對ス生理的狀態ヲ證明スル證書ヲ謂フ左レハ醫師カ（疾病者ト壯健者トヲ問ハス）人ノ身體ニ對スル意見書ハ皆本條ニ所謂、診斷書ナリ例ヘハ公務員カ公務所ニ提出スル欠勤届ニ添付スル病氣診斷書又ハ陸海軍省其他ノ公務所ノ試験願書ニ添付スル健康診斷書ノ如キ是ナリ（二）檢案書トハ人ノ傷害又ハ變死ニ付キ醫師ノ作成スル意見書ヲ謂フ例ヘハ

人ノ創傷其他、變死者ニ對シ醫師ノ作成スル鑑定書ノ如キ是ナリ蓋シ本法ニ於テハ公務所若クハ公務員ノ命令ニ依リタルト將タ私人ノ囑託ニ依リタルトヲ問ハス醫師ノ公務所ニ提出ス可キ鑑定書ハ總テ本條檢案書ナリ（三）死亡證書トハ人ノ死亡ヲ證明スル證書ヲ謂フ而シテ本條、死亡證書中ニハ病死ト變死トヲ包含ス

第三、虚僞ノ記載ヲ爲シタルコトヲ要ス

虚僞ノ記載ヲ爲シタルコトトハ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ醫師、虚構不實ノ記載ヲ爲シタルコトヲ謂フ例ヘハ病氣ニ非サル者ヲ病氣ト爲シ他殺ヲ自殺ト爲シ變死ヲ病死ト證書ヲ作成シタル場合ノ如キ是ナリ而シテ虚僞ナルコトヲ知テ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ヲ作成スル意思アルトキハ本罪成立ス然レトモ本條、醫師、公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者ト規定シタルヲ以テ公務所ニ提出セサル診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ之ヲ罰スルコトヲ得サルノ不都合アリ素ヨリ虚僞ノ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ハ公務所ニ提出ス可キ場合多キハ勿論ナリト雖モ時ニ或ハ民間詐欺ノ手段ニ使用セラルルコトナキニ非ス然ルニ此場合ニ於テ虚僞ノ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ヲ作成シタル醫師ヲ刑法上、罰スルコトヲ得サルハ立法上極メテ遺憾ト爲ス所ナリ

以上ノ條件具備シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書

又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ虚偽變造文書ノ行使罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ第五十九條及ヒ第六十條ニ記載シタル各偽造、又ハ變造證書ヲ行使シタル者ヲ其偽造、變造者ト又不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ヲ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ニ罰スルコトヲ規定シ第二項ハ是等ノ所爲ハ其未遂ノ所爲ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ本法ハ既ニ述ヘタル如ク偽造又ハ變造行爲ノミヲ以テ偽造、變造罪ト爲ス主義ヲ執リタル結果、其行使ノ所爲ノミヲ偽造又ハ變造文書行使罪トシテ罰ス可キコトヲ特ニ規定シタルモノナリ
本罪成立ニハ、第一前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫タルコト、第二行使シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫タルコトヲ要ス

前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫トハ（第五十九條）行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル偽造、變造文書若クハ圖畫又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル偽造文書若クハ圖畫又ハ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル變造文書若クハ圖畫（第六十條）醫師カ虚偽ノ記載ヲ爲シタル公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書等ヲ謂フモノトス

第二、行使シタルコトヲ要ス

本條、行使トハ他人ニ提出シタル所爲ヲ謂フ然レトモ偽造、變造等ノ共犯者ニ對シ提示シタルトキハ未タ以テ本條、行使ノ所爲ニ非サルコトハ既ニ述ヘタル如シ然レトモ其提示ハ被害者タルヲ要セス其偽造、變造證書ヲ立證ノ爲メ裁判所ニ提供シタルトキハ行使ナリトノ判例アリ又、登記ハ終了セサルモ偽造文書ヲ登記所ニ提出シタル以上ハ行使ノ既遂ナリ、民事訴訟ヲ提起スルニ當リ利益ノ證據ニ供スル爲メ偽造證書ヲ辯護士ニ交付シタル所爲ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス、文書偽造行使罪ハ偽造ノ文書ヲ真正ノ文書トシテ行使スルニ因テ成立スルモノナルヲ以テ必スシモ文

書記載ノ趣旨ニ從ヒ行使シタルヲ要セストノ判例アリ要スルニ本罪ハ偽造、變造ノ文書タルコトヲ知テ行使スルニ因テ成立スル罪ナリトス而シテ偽造、變造ノ文書若クハ圖畫又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル文書ナルコトヲ知テ之ヲ行使スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

本條第二項、前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルトハ偽造、變造文書ノ行使ニ著手シタルトキハ本罪ノ未遂トシテ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ然ラハ本條、行使ハ如何ナル程度ニ達シタルトキヲ以テ其既遂ト爲スヤニ就テハ第五百十八條ニ於テ既ニ論シタル所ト同一ナルヲ以テ再說セス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、官文書偽造罪及ヒ私文書偽造罪中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ抽出シテ一章ト爲シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、本章規定ノ有價證券ハ直接、財産上ノ利益ヲ目的ト爲スモノニテ特別ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ是ヲ他ノ普通文書偽造罪ト區別スルノ必要アルニ依リ特ニ之ヲ分離シテ規定シタルモノナ

リ

二、舊刑法ハ本章ノ罪ヲ輕懲役ニ處シタルモ其刑、稍ヤ重キニ失シタルヲ以テ本法ハ刑ノ範圍ヲ擴張シテ之ヲ避クルコトト爲シタリ

三、本章有價證券ノ偽造、變造罪モ亦單ニ偽造、變造行爲ノミヲ以テ其成立要件ト爲シタルコトハ前章文書偽造ト同一ナリ

本章ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造變造シタル罪(二)有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル罪(三)偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル罪(四)及ヒ其未遂罪等ヲ規定シタリ

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有

價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

本條ハ有價證券ノ偽造、變造罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百四條「公債證書、地券其他、官更ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減、變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス」若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フルトノ規定同第二百

九條「爲替手形其他、裏書ヲ以テ買賣ス可キ證書若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減、變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス。其手形證書ニ詐欺ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ」トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ

舊刑法ハ公債證書、地券其他、官吏ノ公證シタル文書ヲ官文書ト爲シ爲替手形其他、裏書ヲ以テ買賣ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ私文書ト爲シ是ヲ別節ニ規定シタルモ本法ハ官私ノ區別ヲ廢シ本條ハ合シテ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ關シ規定スルコトト爲シタリ

舊刑法ハ爲替、手形ニ虚偽ノ裏書ヲ爲シタル場合ノミヲ想像シタルモ狹キニ失シ弊害、百出シタルヲ以テ本法ハ之レヲ改メ廣ク虚偽ノ記入ヲ爲シタル場合ト爲シ時急ノ弊害ヲ矯正シタリ而シテ本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券、其他ノ有價證券ヲ偽造スル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ變造スル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造シタル罪(第一

項前段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券タルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條、行使ノ目的トハ使用流通セシムル希望ヲ謂フコト既ニ屢々、説明シタル所ナルヲ以テ別ニ論セス然ントモ前章、偽造文書ノ行使トハ稍々其趣キヲ異ニスル所アリ即チ本章規定ノ有價證券ハ貨幣ト等シク廣ク流通セシムルコトヲ目的トスル信用證券ナルヲ以テ其性質上、普通偽造文書ノ行使トハ異ルモノトス(前二章參照)

第二、公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券タルコトヲ要ス

公債證書トハ軍事公債證券ノ如キモノヲ云ヒ官府ノ證券トハ主トシテ大藏省ニ於テ發行スル證券ヲ謂フ故ニ地方團體ニ於テ發行スル東京市債、大坂築港債等ノ如キハ本條、官府ノ證券中ニ包含セサル立法趣旨ナリト云フ而シテ會社ノ株券トハ株式會社、銀行其他各種ノ商事會社ニ於テ發行スル資本ニ對スル株主ノ權利義務ヲ證明スル證書ヲ謂フ蓋シ本條其他ノ有價證券トハ如何ナルモノヲ云フヤハ私法學者中、種々、議論ノ在ル所ナリ學者或ハ有價證券トハ一種ノ請求權ヲ記載

シタル證券ナリト云ヒ或ハ有價證券トハ裏書交付ヲ以テ讓渡サルル證券ヲ云フト又或ハ有價證券トハ一旦權利ニ關シ證券ヲ作成シタル以上ハ其權利ノ行使ハ必ス其證券ノ占有ヲ要スル證券ヲ云フト論シ(松波博士商法私論)又有價證券トハ取引上代替物ト同視セララルル證券ヲ謂フモノナルヲ以テ彼ノ株券、社債券、國債券、地方券等ノ如キ團體的證券ノミヲ謂フモノニテ手形、貨物引換證券、倉庫證券、船荷證券等ノ如キモノハ有價證券ニ非スト論スル學者アリ然レトモ本條ニ所謂有價證券ハ之ヲ廣義ニ解シ法令ノ規定ニ依リ一旦證券ヲ作成シタルトキハ之ヲ表示セラレタル權利ハ證券自ラ權利ナルカ如ク看做サルル信用證券ハ總テ之ヲ包含スルモノト解ス可キモノナリ故ニ有價證券トハ其證券ヲ發行シタル者ヨリ證券ノ所持者ニ對シ一定ノ金額若クハ物品ヲ給付スル義務ヲ負フ流通證券ヲ謂フニ外ナラス其重ナルモノハ爲替手形、約束手形、小切手、其他、船荷證券、運送貨物引換證券、倉荷預證券、倉庫證券等ノ如キ信用證券是ナリ其詳細ハ商法ニ於テ論ス可キモノナルヲ以テ茲ニ深ク論セス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

偽造トハ真正ナル公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ模擬シタル證券ヲ作成シタル所爲ヲ謂フ其偽造ノ意義ニ就テハ前章既ニ詳論シタル文書偽造ト同一ナルヲ以テ再說セス而

シテ本罪モ亦行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

(二) 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ變造スル罪(第一項後段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ナルコト、第三變造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ述ヘタル所ト同一ナルヲ以テ再說セス

第二、公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ナルコトヲ要ス

本條件モ亦既ニ詳論シタルヲ以テ再說セス

第三、變造シタルコトヲ要ス

本罪ハ真正ナル公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ記載シタル内容事項ヲ増減變換スルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ本條公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ノ變造トハ真正ナル公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ記載シタル内容ヲ増減變換

シテ本來ノ證明力ヲ變更シタル所爲ヲ謂フ例ハ千圓ノ國庫債券ヲ二千圓ト變更シ二十圓ノ株券ヲ五十圓ト爲シ爲替手形、約束手形等ノ記載金額若クハ振出支拂ノ年、月、日等ヲ増減變換シタル場合ノ如キ是ナリ有效ニ成立シタル約束手形ヲ受取リ其記載金額ヲ變更シタル所爲ハ約束手形ノ變造ナリトノ判例アリ其詳細ニ就テハ前章ニ於テ論シタルヲ以テ再論セス公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券、其他ノ有價證券ヲ變造スル意思ヲ要スルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ別ニ論セス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル罪(第二項)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル有價證券トハ真正ニ成立シタル在來ノ各種有價證券タルコトヲ要スルモノナリ而シテ茲ニ所謂虛偽ノ記入トハ真正ナル各種ノ有價證券ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ヲ謂フ例ハ株券ノ信用ヲ増ス爲メ會社員ニ非サル資産家ノ氏名ヲ取締役ト記入シ或ハ滿期日若クハ支拂保

證人ノ記載ナキ爲替手形ニ滿期日又ハ支拂保證人ヲ記入シタルカ如キ是ナリ茲ニ注意ス可キハ有價證券、變造罪ハ其證券ノ記載事項ヲ増減變換シテ在來ノ證明力ヲ變更スルニ因テ成立スル罪ナルモノ本罪ハ其有價證券ニ記載ナキ虛構不實ノ記入ヲ爲スニ因テ成立スル罪ナリ是レ注意ス可キ點ナリ而シテ虛構不實ノ記入ヲ爲ス意思アルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

以上ノ條件具備シタルトキハ(一)(二)(三)罪共ニ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ

行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ニ偽造、變造ノ有價證券又ハ偽造ノ記入ヲ爲シタル有價證券ノ行使罪、交付罪及ヒ輸入罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ前章第五百十八條及ヒ第六十一條ト同一理由ニ基ク規定ト有價證券ノ輸入罪ヲ規定シタルモノナリ蓋シ本條後段ノ所爲ヲ罰スル所以ノモノハ有價證券ハ貨幣ノ代用ヲ爲シ流通ノ點ニ

於テモ殆ト貨幣、紙幣、又ハ銀行券ト異ナル所ナキヲ以テ社會ノ信用ト經濟上ノ發達ヲ保護スル爲メ特ニ嚴罰スルモノトス故ニ第四百四十九條第二項行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シトノ規定ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ而シテ本條ハ(一)偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ人ニ交付シタル罪及ヒ(三)其輸入罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シタル罪

本罪成立ニハ第一、虛偽、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ナルコト、第二行使シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ナルコトヲ要ス

偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ノ意義ニ就テハ既ニ前條ニ於テ詳論シタルヲ以テ再説セズ

第二、行使シタルコトヲ要ス

本條行使トハ前條ニ於テ一言シタル如ク有價證券ヲ流通セシムル目的ヲ以テ他人ニ提示スル所爲ヲ謂フモノナルモ有價證券ノ行使ハ虛偽ノ文書行使ト其趣キヲ異ニスルコトモ亦前條ニ於テ一言ヲ要ス

シタル如シ蓋シ有價證券ノ行使ハ通常他人ニ其權利ヲ移付スル所爲ヲ謂フモノナルモ必スシモ其權利ヲ移付スル所爲ノミニ限ラス拒證書作成ノ爲メ偽造手形ヲ執達吏ニ提出シタル所爲ハ偽造手形行使罪ナリトノ判例アリ而シテ偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ナルコトヲ知テ流通セシメントスル意思ヲ要スルモノトス

(二) 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ有價證券ノ交付罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造變造ノ有價證券ヲ交付シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル行使ノ目的トハ偽造、變造ノ有價證券ヲ他人ヲシテ使用セシムル希望ヲ以テ交付スルコトヲ意味スルモノトス

第二、偽造、變造ノ有價證券ヲ交付シタルコトヲ要ス

偽造、變造ノ有價證券ヲ交付スルトハ偽造、變造ノ有價證券ナルコトヲ知テ他人ニ授付スル所爲ヲ謂フ故ニ偽造、變造ノ有價證券ナルコトヲ知ラス之ヲ他人ニ交付スルモ本罪成立ス交付ノ意義ハ第四百四十八條ト殆ト同一ナルヲ以テ論セス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ輸入シタル罪
 本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價
 證券ヲ輸入シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル行使ノ目的モ亦偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ流通セ
 シムル希望ヲ謂フモノナルコト既ニ論シタルヲ以テ説明セス

第二、偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ輸入シタルコトヲ要ス
 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ノ輸入トハ外國ヨリ我帝國領内ニ送、入、ス
 ル所爲ヲ謂フ而シテ此輸入ノ意義ニ就テハ第十四章、阿片煙ニ關スル罪及ヒ第十六章通貨偽造ノ
 罪ニ於テ詳論シタル所ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス而シテ茲ニ所謂、輸入トハ偽造變造ノ有價證
 券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ナルコトヲ知テ我帝國領内ニ送、入、スル意思ヲ謂フモノト
 ス

以上ノ條件具備シタルトキハ(一)(二)(三)共ニ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

本條第二項、前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ストハ第一項有價證券ノ行使ニ著手シ又ハ交付若クハ輸入行爲

ニ著手シタルトキハ本條未遂罪トシテ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナルモ一讀明瞭ナルヲ以テ別
 ニ論セス

第十九章 印章偽造ノ罪

總 論

本章ハ舊刑法、第二編、第四章第二節、官印ヲ偽造スル罪、第四節私印私書ヲ偽造スル罪ノ一部ヲ
 合シテ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ニ於テハ公印偽造罪ハ各其偽造又ハ使用ノ所爲ヲ罰スルコトト爲シタルモ本法ハ偽造印
 章ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ前章、文書偽造罪ヲ以テ論シ本章ハ單ニ印章ヲ偽造シ又ハ
 眞印ヲ不正ニ使用シ若クハ偽造印ヲ使用シタル場合ノミノ規定ト改メタリ

二、舊刑法ハ私印偽造罪ニ就テハ偽造ト使用トノ二所爲ヲ以テ本罪成立要件ト爲シタルモ本法ハ公
 印ト等シク偽造ノミヲ以テ其成立條件ト爲シ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキハ文書偽造罪ニ移シ
 單ニ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用シテ文書ヲ作成セル場合ノミヲ本章ニ規定シタリ

三、本章偽造行為ノミヲ以テ罪ノ成立要件ト爲シタル理由ハ前二章偽造罪ニ於テ述ヘタル理由ト同一ナルヲ以テ再説セス

四、舊刑法ハ第九十八條ヲ以テ「官ヨリ發行スル各種ノ印紙、界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造、變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上、五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト規定シ同第九十九條ヲ以テ「既ニ貼用シタル各種ノ印紙及郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト規定シタルモ本法ハ是等ノ罪ハ孰レモ特別法令ニ讓ルコトト爲シタリ

五、舊刑法ニ於ケル印章偽造罪ハ其刑ノ範圍、極メテ狹キニ失シタルヲ以テ本法ハ之ヲ擴張シタリ然レトモ本法ハ既ニ述ヘタル如ク本章印章偽造ハ單ニ印章偽造ノ所爲ノミニ限リ文書偽造ト爲ラサル場合ノミヲ規定シタルヲ以テ其罪情ハ舊刑法ニ比スレハ一般ニ稍ヤ輕ク從テ其刑ヲモ亦輕減スルコトト爲シタリ

本章ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル罪(二)御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪(四)公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公

務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪(五)行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル罪(六)公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル罪(七)行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪(八)他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪(九)偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪及ヒ各其未遂罪等ヲ規定シタリ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ一年

以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ御璽、國璽又ハ御名ノ偽造罪及ヒ使用罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法第九十四條「御璽、國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス」トノ規定ト同一趣旨ナルモ其偽璽ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキハ前章、文書偽造罪ヲ以テ論スルコトト爲シ第二項、前段ハ舊刑法第九十七條中「御璽、國璽ノ盗用ニ關スル規定ト全ク同一

ニシテ其後段ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサル場合ヲ第一項、印章偽造ト同一ニ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル罪(第一項)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二御璽、國璽又ハ御名ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條行使ノ目的トハ偽造印章ヲ文書ニ押捺スル希望ヲ謂フ蓋シ前章、文書偽造罪ニ於ケル行使ノ目的ハ其偽造文書ヲ他人ニ提示スル所爲ヲ意味スルモ本條行使ノ目的ハ之ト異ナリ偽造印章ヲ文書ニ押捺スル所爲ヲ意味ス左レハ行使ノ目的ナル文字ハ前章文書偽造罪ニ於ケルト同一ナルモ犯罪ノ性質上、自ラ其意義ヲ異ニスルモノトス

第二、御璽、國璽又ハ御名タルコトヲ要ス

御璽トハ天皇ノ御印ヲ奉稱シ國璽トハ日本帝國ノ印章ヲ云ヒ御名トハ天皇ノ御名ヲ奉稱スルコト

ハ既ニ前章第百五十四條ニ於テ詳論シタルヲ以テ再説セス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

本條御璽、國璽ノ偽造トハ真正ナル御璽、國璽ニ模擬シテ製造シタル印章ヲ謂フモノニテ御名ノ偽造トハ真正ナル御名ニ模擬シテ作製シタル御名ヲ謂フ茲ニ注意ス可キハ印章ニハ印願ト印影トノ區別アルコト是ナリ即チ本章、印章偽造トハ此印願ノ偽造ヲ云フ乎將タ印影ノ使造ヲ意味スル乎ノ疑問アリ本法ハ舊刑法(第百九十七條、影贖又ハ第二百八條印影)ナル文字ヲ用井サルヲ以テ印願ノ偽造ト印影ノ偽造トヲ區別セス總テ印章ノ偽造ト改メタルニ依リ本章、印章偽造トハ印影ハ偽造ヲ謂フコト疑ヲ容レズ殊ニ印願ノ偽造ハ印影ノ材料ヲ作ルニ過キササルヲ以テ印願ヲ製造スルモ仍ホ印影ヲ製造セサル以上ハ毫モ實害ヲ生スル虞レナシ故ニ本章、印章偽造罪ハ印影ヲ保護スルヲ其目的ト爲スヲ以テ必スシモ印願ヲ製造スルヲ要セス筆又ハ其他ノ方法ニ依リ印影ヲ寫出シタルトキモ總テ本條、印章偽造罪ナリ然レトモ若シ詔書其他ノ文書ヲ偽造シテ偽造印章ヲ使用シタルトキハ前章文書偽造罪ナルコト既ニ述ヘタルカ如シ而シテ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造スル意思ヲ要スルコト明瞭ナルヲ以テ説明セス

(二) 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタル罪(第二項前段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二御璽、國璽又ハ御名ナルコト、第三不正ニ使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

茲ニ行使ノ目的トハ御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用セントスル希望ヲ謂フコト既ニ述ヘタル所ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、御璽、國璽又ハ御名ナルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル御璽、國璽又ハ御名ノ意義ニ付テハ既ニ屢々述ヘタルヲ以テ別ニ説明セス

第三、不正ニ使用シタルコトヲ要ス

本條第一項前段ハ御璽、國璽又ハ御名ノ偽造ニ因テ成立スル罪ナルモ本罪ハ真正ナル御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用(盜捺)スルニ因テ成立スル罪ナリ是(一)罪ト異ナル要點ナリ故ニ不正ニ使用シタルトハ真正ナル御璽、國璽又ハ御名ヲ盜用シタル所爲ヲ謂フ蓋シ詔書其他ノ文書ヲ偽造シテ御璽、國璽又ハ御名ヲ盜用シタルトキハ第十七章詔書其他ノ文書偽造罪ナルコト既ニ述ヘタル如シ故ニ本罪ハ詔書其他ノ文書偽造ニ干與セス單ニ真正ナル御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ切抜キ其他ノ方法ヲ以テ不正ニ使用シタル場合ニ成立スル罪ナリ但シ其使用者ノ公務員ナルト否トハ之

ハサルモノトス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル罪(第二項後段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ナルコト、第三使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ屢々、説明シタル所ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ナルコトヲ要ス

偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ノ意義ニ付テモ既ニ述ヘタルヲ以テ別ニ説明セス

第三、使用シタルコトヲ要ス

使用トハ真正ナル御璽、國璽又ハ御名ニ模擬シタル偽印又ハ御名ヲ詔書其他ノ文書ニ押捺スル所爲ヲ謂フ一例ヲ舉クレハ偽造ノ御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ切抜キ使用シタルカ如キ是ナリ茲ニ注意ス可キハ本條第二項前段ハ御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタル規定シタルモ本罪ノ場合ハ單ニ「使用シタル」規定シ不正ノ文字ヲ加ヘサルハ偽造ノ所爲自體ニ於テ不正ナルカ爲メナリ以上ノ條 具備シタルトキハ(一)(二)(三)共ニ二年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽

造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務

所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ公印偽造罪及ヒ其使用罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法、第九十五條「各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス」トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナリ蓋シ本法ハ偽印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ第十七章、文書偽造罪ヲ以テ論シ本章ハ單ニ印章偽造ノ所爲ヲ規定シタルニ止マルコトハ既ニ述ヘタル如シ而シテ本條第二項前段ハ舊刑法第九十七條官印盜用ノ規定ト全ク同一ニテ其後段ハ偽造公印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサル場合ヲ公印偽造ト同一ニ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ
本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪(第一項)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル行使ノ目的ナル意義ハ既ニ述ヘタル行使ノ目的ト同一ナルヲ以テ説明セス

第二、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコトヲ要ス

印章トハ通常、一定ノ文字、其他ノ形狀ヲ他ノ文書其他ノ物ニ押捺シテ影蹟ヲ現出セシメ、或ル事實又ハ意思表示ノ確實ヲ證明スル物體ヲ謂フ而シテ余ハ公務所又ハ公務員ノ印章ヲ公印ト稱シ私人ノ印章ヲ私印ト稱ス本條公務所又ハ公務員ノ印章トハ國家ノ爲政機關タル各公務所又ハ公務員、國家ノ爲政機關ヲ代表シテ爲シタル行爲ヲ證明スル印章ヲ謂フ例ヘハ大藏省、司法省、其他各省、省印ノ如キ是ナリ又各省中、職務ノ分配ニ依ル局長、課長ノ印ノ如キモ仍ホ本條公務員ノ印章ナリ又本條、署名トハ公務員ノ自書シタル官職氏名ヲ謂フ此署名ハ即チ職務執行ノ確實ヲ證明スル爲メ自ラ其氏名ヲ記スルコトヲ謂フニ在リ

第三、偽造シタルコトヲ要ス

本條公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ノ偽造トハ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ニ模擬シテ製作シタル印章若クハ署名ヲ謂フ然レトモ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ト全ク其大小、文字形状ノ同一ナルヲ要セス人ヲシテ真正ナル印章ト誤信セシムル程度ニ製造スルヲ以テ足ル故ニ官印偽造罪ノ構成ニハ必スシモ眞印ニ模擬シタルコトヲ要セス苟モ實在スル官署ノ印ナリト入ヲ欺クニ足ル可キ印ヲ偽造シタルトキハ本罪成立ストノ判例アリ左レハ我法令即チ官制上、認めラレタル公務所又ハ公務員ノ印章ニ模擬シタル印ヲ偽造シタルトキハ本罪成立スルモノトス蓋シ實在セサル虚構、假設ノ官省例ハ監獄省又ハ監獄大臣ト云フカ如キ印章ヲ作製シタルトキハ本條、公印偽造罪ニ非ラス然レトモ實在スル公務所ナルトキハ多少其印章ノ文字、大小、形状等異ナルモ仍ホ公印偽造罪ナリ海軍經理部ニ第二課ナルモノナキモ海軍經理部第二課ノ實在スルモノトシテ其官署ノ印ヲ偽造行使シタルハ眞印ノ有無ニ係ハラズ官印偽造罪ナリトノ判例アリ署名偽造ニ就テモ亦印章偽造ト等シク眞正ナル署名ト必スシモ同一ナルヲ要セス人ヲシテ眞正ナル署名ト誤信セシム可キ程度ニ寫出シタルトキハ本條署名ノ偽造ナリ而シテ眞正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ニ模擬シタル印章若クハ署名ヲ作製スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タズ茲ニ注意ス可キハ本章、印章偽造罪ハ文書偽造罪ト異ナリ印章、變造罪ナキコト是ナ

リ多少、印章ノ大小形状又ハ文字ヲ變更スルモ仍ホ印章偽造ナリ若シ全ク其大小、形状又ハ文字ヲ變更シ人ヲシテ公務所又ハ公務員ノ印章ト誤信セシムルニ足ラサルトキハ本章、印章偽造罪ニ非ス

(二) 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪(第二項前段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコト、第三不正ニ使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ニ就テハ既ニ屢々、説明シタルヲ以テ別ニ説明セス

第二、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコトヲ要ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ノ意義ニ就テハ既ニ述ヘタル所ト同一ナルヲ以テ再論セス

第三、不正ニ使用シタルコトヲ要ス

不正ニ使用シタルコトハ眞正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ押捺シタル所爲ヲ謂フ換言スレハ眞正ナル印章ヲ不正ニ文書其他ノ物ニ押捺シテ印影ヲ現出セシメタル所爲ヲ云フ然レトモ既ニ述ヘタル如ク眞正ナル印章ヲ偽造文書ニ押捺シタルトキハ文書偽造罪ニシテ印章

偽造罪ニ非ス左レハ本章、印章偽造罪ハ文書偽造ニ干與セス單ニ印章ノミヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シタル場合ニ限ルヲ以テ本條、使用罪ノ多クハ公務員其職務權限外ノ行爲ヲ證明スル爲メ不正ニ使用スルニ因テ成立スル罪ナリ然レトモ亦必スシモ獨リ公務員ニ限ラス一私人ト雖モ尙ホ本罪ヲ犯スコトヲ得可シ故ニ本條、不正ノ使用トハ公務員其他ノ者カ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ文書其他ノ物ニ不法ニ使用スルコトヲ云フニ在リ例ヘハ印章ヲ盜捺シ又ハ切抜キ貼用シタルカ如キ是ナリ本罪成立ニモ亦印章若クハ署名ヲ不正ニ使用セントスル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪(第二項後段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名タルコト、第三使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタルヲ以テ別ニ説明セス

第二、偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名タルコトヲ要ス

偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名トハ、真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ニ模擬シテ製作シタル印章若クハ署名ヲ謂フニ在リ

第三、使用シタルコトヲ要ス

本條ニ所謂使用トハ既ニ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ押捺使用シタル所爲ヲ謂フモノナルモ既ニ屢々述ヘタル所ナルヲ以テ別ニ論セス

以上ノ條件具備シタルトキハ(一)(二)(三)共ニ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ公務所ノ記號ヲ偽造シタル罪及ヒ使用罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法第九十六條「產物、商品等ニ押用スル官ノ記號、印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス」書籍、什物等ニ押用スル官ノ記號、印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シ

タル者ハ一年以上、三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ規定ト殆ト同一ナリ唯、舊刑法ハ產物商品等ニ用ユル記號ト書籍、什物等ニ用ユル記號トヲ區別シタルモ斯ル區別ハ其實益ナキノミナラス却テ解釋上、疑ヲ生スル虞アルヲ以テ本法ハ之ヲ改メ一般ニ記號偽造ノ罪ト爲シ第二項、前段ハ舊刑法第百九十七條記號、盜用ノ規定ト全ク同一趣旨ナルモ其後段ハ偽造シタル記號ヲ使用シタルニ止マリ文書ヲ偽造セサル場合ヲ記號偽造ト同一ニ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル罪(二)行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル罪

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務所ノ記號ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

行使ノ目的トハ偽造シタル記號ヲ物件ニ押捺スル希望ヲ謂フコト既ニ屢々述ヘタル所ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二、公務所ノ記號タルコトヲ要ス

本條公務所ノ記號トハ公務所タルコトヲ表明スル記章ヲ謂フ一例ヲ舉クレハ各公務所備付ノ圖書ニ押捺スル章印若クハ各公務所用ノ机、椅子其他ノ物件ニ押捺スル烙印ノ如キ是ナリ

第三、偽造シタルコトヲ要ス

本條偽造トハ公務所用ノ真正ナル記號ニ模擬シタル記號ヲ製作スル行爲ヲ謂フ蓋シ其偽造ノ方法手段ハ前條、公印偽造ト同一ナルヲ以テ別ニ説明セス而シテ本罪ニモ公務所ノ記號ニ模擬シテ製作スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

(二) 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ不正ニ使用スル罪(第二項前段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二公務所ノ記號ナルコト、第三不正ニ使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ説明セス

第二、公務所ノ記號タルコトヲ要ス

不正ニ使用シタルコトトハ真正ナル公務所ノ記號ヲ盜捺シタル所爲ヲ謂フモノニテ前條、公務所ノ印章ヲ不正ニ使用シタル場合ト同一ナリ唯、本條記號ハ公務所ノ物品ニ押捺スル記章又ハ印章

ナルモ前條印章ハ通常文書ニ押捺スルモノタルノ差異アルニ過キス而シテ眞正ナル公務所ノ記號ヲ不正ニ押捺スル意思ヲ要スルコトモ亦、論ヲ俟タス

第三、不正ニ使用シタルコトヲ要ス

本條件モ亦既ニ述ヘタルヲ以テ別ニ論セス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル罪(第二項後段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル公務所ノ記號ナルコト、第三使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ明瞭ナルヲ以テ説明セス

第二、偽造シタル公務所ノ記號タルコトヲ要ス

本條件モ亦明瞭ナルヲ以テ説明セス

第三、使用シタルコトヲ要ス

使用トハ眞正ナル公務所ノ記號ニ模擬シテ製作シタル記號ヲ物品ニ押捺スル所爲ヲ謂フモノナルモ玆ニ注意ス可キハ本條、使用罪ハ自ら偽造シテ使用シタルニ非ス既ニ偽造成リタル記號ヲ使用

スルニ因リ成立スル罪ナルコト是ナリ

以上ノ條件具備スルトキハ(一)(二)(三)罪共ニ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ

三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ

使用シタル者亦同シ

本條ハ私印偽造罪及ヒ其使用罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百八條「他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上、五年以下ノ重禁錮ニ處ス」若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス」トノ規定ト殆ト同一趣旨ノ規定ナリ唯、舊刑法ト異ナル點ハ偽造私印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキハ既ニ述ヘタル如ク本法ハ私文書偽造罪トシテ罰スルヲ以テ之ニ關スル規定ヲ爲サス又本條第二項前段ハ舊刑法第二百八條第二項ト全ク同一ノ場合ヲ規定シタルモノニテ其後段ハ偽造シタル私印ヲ使用シタルトキハ私印偽造ト同一ニ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪(二)行

使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪(第一項)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二他人ノ印章若クハ署名ナルコト、第三偽造シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

行使ノ目的トハ、偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ私文書ニ使用スル希望ヲ謂フコト既ニ屢々説明シタル所ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、他人ノ印章若クハ署名ナルコトヲ要ス

本條他人ノ印章若クハ署名トハ自己以外ノ他人ノ印章若クハ署名ヲ謂フニ在リ故ニ自己ノ印章若クハ署名ヲ偽ルモ本條偽造罪ニ非ス

第三、偽造シタルコトヲ要ス

本條他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタルコトトハ真正ナル他人ノ印章若クハ署名ニ模擬シタル印章若クハ署名ヲ製作スル所爲ヲ謂フ而シテ茲ニ所爲偽造ノ所謂トハ既ニ第六十五條ニ於テ詳論

シタル如ク他人ノ印章若クハ署名ニ模擬シテ製作シタル以上ハ必スシモ真正ナル他人ノ印章若クハ署名ト全ク同一ナルヲ要セス唯、人ヲシテ真正ナル他人ノ印章若クハ署名ナリト誤信セシムルニ足ル可キ程度ナルトキハ本條、私印偽造罪成立ス蓋シ印章偽造ハ既ニ述ヘタル如ク印類ヲ製作シテ印影ヲ彫刻スルヲ要セス故ニ藥品ヲ使用シテ廢書ニ押捺シタル印影ヲ寫シ取り之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタル所爲ハ印章偽造罪ナリト判例アリ故ニ本條他人ノ印章若クハ署名ハ必ス實在スル人ノ印章若クハ署名シタルヲ要スルヤ否ヤノ問題アリ或ハ實在シタル人ノ印章タルヲ要スト論シ或ハ實在セサルモ人ヲシテ實在スル人ナリト信セシムルニ足ルトキハ尙ホ他人ノ印章偽造罪ナリト論スル者アリ余ハ本條他人ノ印章若クハ署名ノ偽造トハ必ス實在スル人又ハ實在シタルコトアル人ノ印章若クハ署名ヲ製造シタルコトヲ要スト信ス如何トナレハ全ク想像假設ノ人ニ對スル印章若クハ署名ヲ作ルモ本條他人ノ印章若クハ署名ト云フコトヲ得サレハナリ故ニ想像假設人ノ印章ヲ製造シ因テ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタルトキハ第三十七章ニ依リ論ス可キモノニテ本章印章偽造罪ヲ以テ論スルコトヲ得ストノ説ヲ可トス

(二) 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル罪(第二項前段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二他人ノ印章若クハ署名ナルコト、第三不正ニ使用シ

タルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ヲ要スルコト明瞭ナルヲ以テ説明セス

第二、他人ノ印章若クハ署名ナルコトヲ要ス

他人ノ印章若クハ署名ノ意義ニ就テハ既ニ述ヘタルヲ以テ再論セス

第三、不正ニ使用シタルコトヲ要ス

不正ニ使用シタルコトハ他人ノ印章若クハ署名ヲ文書ニ盜捺使用スル所爲ヲ謂フ而シテ茲ニ所謂、盜捺トハ必ラスシモ他人ノ印章ヲ竊取又ハ強取シテ押捺シタルコトヲ要セス其ノ印章、所有者ノ承諾以外ニ押捺シタルトキハ本條不正ノ使用ナリ故ニ人ノ實印ヲ預リ本人ノ承諾ナク自己ノ利益ノ爲メ之レヲ使用シタルトキハ私印盜用罪成立ス。多額ノ金額ヲ記載シタル證書ヲ作成シテ之レヲ小額ノ證書ナリト欺キ記名調印セシメタル所爲ハ印影盜用ヲ構成ス。印主自ラ押捺シタル印影ト雖モ他人ニ於テ之レヲ擅ニ使用シタルトキハ印影盜用罪成立ストノ判例アリ而シテ印章若クハ署名ヲ文書其ノ他ノ物ニ押捺使用スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

(三) 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル罪(第二項後段)

本罪成立ニハ、第一行使ノ目的ナルコト、第二偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ナルコト、第三使用シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、行使ノ目的ナルコトヲ要ス

本條件ハ要スルニ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二、偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ナルコトヲ要ス

本條第二項後段ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シト規定シ他人ノ印章若クハ署名ナルヤ否ヤヲ明示セサルモ「偽造シタル」トノ文字ヨリ觀ルモ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル場合ナルコト明ナルヲ以テ余ハ本條件中、特ニ他人ノ文字ヲ加ヘタリ蓋シ本罪ハ自ラ偽造シタル印章ナルトキハ本條第二項前段ニ依リ論ス可キモノナルヲ以テ本罪ハ他人ノ偽造シタル印章若クハ署名ナルヲ要スルモ既ニ詳論シタル所ナルニヨリ説明セス

第三、使用シタルコトヲ要ス

茲ニ所謂、使用トハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ文書其他ノ物ニ押捺使用スル所爲ヲ謂フモノナルコト亦既ニ詳論シタルヲ以テ贅セス、蓋シ本罪モ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ナル

コトヲ知テ使用スルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)(二)共ニ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本章第六十四條及ヒ第六十六條ノ各第二項ノ所爲ハ其未遂ヲ罰スル必要アルヲ(單ニ偽造ニ止マルトキハ其未遂ヲ罰スル必要ナキモ)以テ本條ヲ設ケタルモノナリ而シテ第六十四條及ヒ第六十六條ノ各二項ノ犯罪ハ孰レモ其使用ノ所爲ニ著手シタルトキハ未遂罪成立スルモノトス犯人カ偽造ノ意思ヲ以テ情ヲ知ラサル者ヲシテ彫刻セシムルハ犯人自ラ之ヲ彫刻シタルト異ナルコトナキヲ以テ其彫刻ナルト同時ニ偽造罪成立スルモノニテ犯人カ偽造印願ノ成リタルヲ知ルト否ト又其偽造印願ヲ受取リタルト否トヲ問ハス本罪ノ既遂ナリトノ判例アリ

第二十章 偽證ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第四章第六節、偽證ノ罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一 舊刑法ハ刑事ニ關スル證人ト民事又ハ商事若クハ行政裁判ニ關スル證人トニ區別シタルモ證人トシテ虚偽ノ供述ヲ爲シタル以上ハ裁判所ノ如何ヲ區別スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ之ヲ區別セサルコトト爲シタリ

二 舊刑法ハ刑事ニ關スル偽證ハ被告人ヲ曲庇スルト陷害スルトニ因テ區別シ又偽證ニ因リ被告人正當ノ刑ヲ免カルルトキハ曲庇ノ刑ニ一加重シ又偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラルルトキハ反座ノ刑ヲ科スルコトト爲シタルモ斯ク規定シタル爲メ禁錮刑ニ該ル偽證者ハ禁錮刑ニ處スルノ不都合ナル結果ヲ生シタルヲ以テ本法ハ此等情狀ニ關スル認定ハ裁判所ニ一任スルコトト改メタリ

三 舊刑法ハ第二百二十五條ヲ以テ「賄賂、其他ノ方法ヲ以テ他人ニ囑託シ偽證ヲ爲サシメ又ハ詐僞ノ鑑定若クハ通事ヲ爲サシメタル者ハ偽證ノ例ニ照シテ處斷ス」ト規定シ偽證ニ關スル教唆ノ規定ヲ設ケタルモ本法ニ於テハ斯ル場合ハ第一編、總則、共犯例ニ依リ處分スルコトト爲シタリ
本章ハ(一)法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタル罪(二)法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通

事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル罪ヲ規定シタリ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ偽證ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百十八條「刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者、被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス、(一)重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(二)輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(三)違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス」同第二十九條、偽證ノ爲メ被告人、正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑、前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ」同第二百二十條「被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス、(一)重罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上、五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(二)輕罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(三)違警罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上、三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以

上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第二十二條「偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪、發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反座ス若シ反座ノ刑、前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス」其刑期、限内ニ於テ偽證ノ罪、發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反座ノ刑期ヲ減スルコトヲ得、但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス」同第二十二條、「偽證ノ爲メ被告人、死刑ニ處セラレタル時ハ反座ノ刑ニ一等ヲ減ス」其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス」若シ被告人ヲ死ニ陥ルルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反座ス其未タ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス」同第二十三條「民事、商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ各、規定ヲ修正シタルモノナリ其是ヲ修正シタル理由ハ本章、總論ニ於テ述ベタル如ク本法ハ刑事裁判所ニ於テ偽證シタルト他ノ裁判所ニ於テ偽證シタルトヲ問ハス總テ本條ニ依リ處斷スルコトト爲シタルカ爲メナリ

本條ハ廣ク法律ニ依リト規定シ司法裁判所ナルト行政裁判所ナルト其他ノ特別裁判所ナルトヲ問ハス總テ裁判所ノ命ニ因リ宣誓シテ證人トナリタル者ノ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ニ適用スルコトト爲シ各種ノ情狀ヲ包含スル極メテ廣汎ナル法條ナルヲ以テ其刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判所ヲシテ自由ニ

罪刑、適當ノ刑ヲ科スルコトト改メタリ
本罪成立ニハ、第一法律ニ依リ宣誓シタルコト、第二證人タルコト、第三虚偽ノ陳述ヲ爲シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、法律ニ依リ宣誓シタルコトヲ要ス

裁判所ハ法律ノ規定ニ依リ社會、萬般ノ裁判事務ヲ取扱フモノナルヲ以テ勢ヒ人民ノ認識ニ因テ眞實ヲ求ムルノ必要アリ而シテ此目的ヲ達スル爲メ其何人タルヲ問ハス直ニ證人トシテ出頭ヲ命シ供述ヲ爲サシムルノ必要アリ、此制度ニ依リ裁判所ニ證人トシテ出頭シタル者ハ自己ノ知リタル事實ヲ其儘ニ供述ス可キ公義務アリ故ニ此義務ニ違背シテ虚偽ノ供述ヲ爲シ裁判所ヲシテ錯誤ニ陥ラシメタルトキハ本罪成立ス而シテ本條、法律ニ依リ宣誓シタル證人トハ民事訴訟法及ヒ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ證人トシテ裁判所ヨリ呼出ヲ受ケ出頭シテ宣誓ノ上供述ヲ爲ス者ヲ謂フ換言スレハ證人トハ裁判所ニ於テ訊問前又ハ訊問後良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事モ默秘セス又何事モ附加セザルコトヲ誓ヒ證人トシテ陳述スル者ヲ謂フ一般、國民ハ皆此證人トナル義務アリ然リト雖モ民事訴訟法及ヒ刑事訴訟法上其事件又ハ當事者トノ關係若クハ身分、職業等ニ依リ證言ヲ拒ムコトヲ得可キ者アリ假令ハ被告人又ハ當事者ト親族、雇人、同居人、後見人等ノ關係アル者又

ハ醫師、藥劑師、產婆、辯護士、公證人、神職、宗教職ニ在ル者ニシテ職務上、依頼ヲ受ケタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ又ハ證人ノ供述ニ因リ其證人、自身カ刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス但、是等ノ者其證言ヲ拒ム權利ヲ行使セスシテ宣誓ノ上、供述シタルトキハ普通ノ證人ナリトノ判例アリ(民事訴訟法及ヒ刑事訴訟法參照)

第二、證人タルコトヲ要ス

本條特ニ法律ニ依リ宣誓シタル證人云々ト規定シタルヲ以テ宣誓セス單ニ參考人トシテ供述セシメラルル者例ヘハ現行民事訴訟法第三百十條ニ規定シタル者又ハ刑事訴訟法第二百二十三條同第百二十四條ニ規定シタル者其供述ヲ爲スニ該リ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ノ如キハ本條僞證罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第三、虚偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ要ス

虚偽ノ陳述トハ自己ノ認識シタル事實ニ適合セザルコトヲ知ル供述ヲ謂フ換言スレハ眞實ニ反スルコトヲ知テ爲シタル口頭ノ意思表示ヲ云フニアリ元來、證人ハ自己ノ記憶ニ存在スルコトヲ其儘、供述スヘキモノナルヲ以テ、其記憶ニ存在スル事實ヲ正實ニ供述スルヲ要スルモノナルモ若シ事ヲ誤解シテ事實ニ反スル供述ヲ爲スモ未タ以テ本條ニ所謂、僞證ト爲スヲ得ス左レハ如何ナ

ル陳述ヲ偽證ト爲スヤハ訊問事項ニ因テ決ス可キ事實上ノ問題ナリ要スルニ證言ノ多クハ事ノ存在、不存在ヲ確ムルニアルヲ以テ其訴訟ニ關スル重要ナル部分ニ對シテ眞實ニ反シ、供述シタルトキハ本罪成立ス例ヘハ刑事ニ於ケル證人、被告人ヲ曲庇シ又ハ陷害スルノ意思ヲ以テ事實ヲ掩蔽シ眞實ニ反スル陳述ヲ爲シ又ハ民事訴訟ニ就テハ當事者、一方ヲ利シ一方ヲ害スル意思ヲ以テ訴訟ノ争點ニ對シテ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ本條ニ所謂、虛偽ノ陳述ナリ虛偽ノ證言カ裁判ノ結果ニ影響ヲ有セサル場合ト雖モ訊問事項ニ關シ事實ニ反スルコトヲ知リナカラ虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ偽證罪タルヲ免レストノ判例アリ然レトモ證人タル資格ナキ未成年者ノ如キ者、宣誓シテ虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ偽證罪成立スルヤ否ヤノ問題アリ此點ニ就テハ一旦、法律ニ依リ宣誓シタル上、虛偽ノ供述ヲ爲シタルトキハ證人タル資格ナキ者ト雖モ仍ホ偽證罪成立ストノ積極論アルモ元來、證人タル資格ナキ者ハ縱令、形式上、宣誓シテ供述スルモ證人ニ非サルヲ以テ偽證罪成立セストノ消極論(立法者ハ)ヲ採リ本條ヲ規定シタリト云フ蓋シ其供述ノ虛偽ナル以上ハ被告人ノ有罪、無罪又ハ訴訟ノ勝敗如何ニ拘ハラズ又其偽證ヲ爲スニ至リタル原因、他人ノ囑託ニ因リタルト否トヲ問ハサルモノナリ偽證罪ハ宣誓シタル證人、虛偽ノ供述ヲ爲スニ因テ成立スル罪ナルモ其證人ニ對スル訊問、終結前其供述ヲ更正シ又ハ取消シタルトキハ一旦、虛偽ノ

供述ヲ爲スモ本罪成立セストノ判例アリ證人ハ自己ノ記憶ニ存在スル事實ヲ其儘、陳述ス可キモノナルヲ以テ故ラ不實ノ供述ヲ爲シタルコトヲ要ス故ニ若シ自己ノ記憶ヲ其儘、供述シタルトキハ縱令、事實ニ反スルモ本罪成立セサルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒

處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ偽證罪ヲ犯スモ其證言ヲ爲シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前ニ自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百二十六條、此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者、其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免ストノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ハ其事件ノ裁判宣告前、自首スルトキハ本刑ヲ免スト規定シタルモ本法ニ於テハ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前、被告人自ラ偽證ヲ爲シタルコトヲ自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ爲シタリ是即チ判決ヲ言渡スモ未タ裁判確定セサルトキハ實害ヲ生セサルヲ以テ自白ヲ獎勵シ實害ヲ未發ニ防キタル政策上ノ特例ナリ

既ニ一言シタル如ク舊刑法ハ民事商事及ヒ行政裁判ニ關スル證人ノミヲ規定シタルモ本法ハ懲戒處分ニ關スル證人ヲモ本章ニ依リ罰スルコトト爲シタリ懲戒處分ノ意義ニ就テハ次章ニ至リ詳論セントス

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

本條ハ鑑定人又ハ通事ニ對スル偽證ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百二十四條「鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス」トノ規定ト同一ナリ

本罪成立ニハ、第一法律ニ依リ宣誓シタルコト、第二鑑定人又ハ通事タルコト、第三虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、法律ニ依リ宣誓シタルコトヲ要ス

本條法律ニ依リ宣誓トハ公平且正實ニ鑑定ス可キコトヲ裁判官ニ對シテ誓約スルヲ謂フ刑事訴訟法、第三百二十七條、民事訴訟法第三百二十九條ハ「鑑定人ハ其鑑定ヲ爲ス前、其鑑定人タル義務ヲ公平且誠實ニ履行ス可キ旨ノ誓ヲ宣フ可シ」トノ規定シタルモ民、刑訴訟法共ニ公平且正實ナル

鑑定ヲ爲ス可キコトヲ誓約セシムル立法趣旨ナリ（刑事訴訟法第三章第七節、民事訴訟法第二編、第一章第七節參照）

第二、鑑定人又ハ通事タルコトヲ要ス

(一) 鑑定人トハ學術、技藝、又ハ職業上ノ事ニ付キ訴訟ニ關シ、或ル事項ニ對シ自己ノ意見ヲ陳述ス可キコトヲ裁判所ヨリ命セラレタル者ヲ謂フ凡ソ何人ト雖モ特別ノ技能又ハ職業ニ因リ經驗アル者ハ鑑定人トシテ裁判所ニ出頭シ其命セラレタル事項ニ付キ誠實ニ意見ヲ陳述ス可キ義務アル故ニ此等特別ノ技能又ハ職業アル者裁判所ヨリ呼出テ受ケ出頭シタルトキハ公平、且、誠實ニ鑑定ヲ爲ス可キ旨ヲ宣誓シ而シテ其鑑定、事項ニ付キ自己ノ判斷又ハ意見ヲ口頭又ハ書面ヲ以テ陳述ス可キモノトス假令ハ偽造文書ニ付テハ書家、印影ノ偽造ニ付テハ印刷師、身體ノ疾病又ハ創傷ニ付テハ醫師等ノ如キハ特別ナル技能アル者ナリ(二) 通事トハ訴訟ノ當事者(民事)又ハ被告人(刑事)若クハ證人、鑑定人、國語ニ通セサルトキ其供述ヲ通譯ス可キコトヲ裁判所ヨリ命セラレタル者ヲ謂フ而シテ此通事モ亦鑑定人ト同一ニ誠實ニ通譯ス可キ旨ノ宣誓ヲ爲シ訴訟關係人ノ供述ヲ誠實ニ通譯ス可キ義務アルモノトス

第二、虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルコトヲ要ス

鑑定人ハ自己ノ技能又ハ經驗ニ因リ其鑑定事項ノ判斷又ハ意見ヲ陳述シ通事ハ訴訟關係人ノ言語ヲ通譯ス可キモノナルヲ以テ鑑定人カ自己ノ真意ニ反スル虚偽ノ判斷又ハ意見ヲ述ヘ通事カ本人ノ陳述セサル虚偽ノ通譯ヲ爲シタルトキハ本罪成立ス然レトモ本條末段「虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル」ト規定シタルヲ以テ偽證ニ關スル第六十九條第七十條ヲ本條鑑定人又ハ通譯ニモ適用ス可キモノナルニ依リ此等ノ鑑定人又ハ通事モ其鑑定又ハ通譯シタル事件ノ裁判確定前、又ハ懲戒處分前自ラ虚偽ノ鑑定又ハ通譯ナルコトヲ自白シタルトキハ其刑ヲ減免セラルルモノトス而シテ本罪成立ニハ必ス虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス意思アルコトヲ要ス故ニ鑑定人ハ自己ノ真意ニアラサル意見又ハ判斷ヲ爲シ通事ハ本人ノ陳述ニアラサル不實ノ通譯ヲ爲スヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件、具備スルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第二十一章 誣告ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第三編、第一章第十二節中誣告ノ罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一 舊刑法ハ本章誣告罪ヲ第三編、第一章第十二節ニ誣告及ヒ誹毀ノ罪ト題シ規定シタルモ元來、誣告罪ハ主トシテ信用ニ關スル罪ナルヲ以テ本法ハ其配列ノ位置ヲ改メ偽證罪ノ次ニ規定スルコトト爲シタリ

二 舊刑法ハ刑事ノ訴追ヲ求ムル場合ノミヲ規定シ人ヲシテ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メ誣告シタル場合ヲ規定セザリシモ懲戒處分ト刑事訴追ヲ求ムルトハ唯、其目的ヲ異ニスルニ止マリ殆ト同一ナルヲ以テ本法ハ懲戒處分ヲ求メタル場合ノ一項ヲ新ニ設ケルコトト爲シタリ

本章ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル罪ヲ規定シタリ

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

本條ハ誣告ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百五十五條、「不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス」トノ規定ヲ修正シ刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ト爲シ新ニ懲戒處分ノ申告ヲ加ヘタリ

本罪成立ニハ、第一人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ナルコト、第二虚偽ノ申告ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ナルコトヲ要ス

人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的トハ一定ノ人ニ對シテ刑罰ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ犯罪、事實ヲ申告シ又ハ公務員ノ免官、停職、轉所、減俸、譴責等ヲ受ケシムル目的ヲ以テ職務上ノ義務ニ違背シ若クハ職務ヲ怠リ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威權又ハ信用ヲ失フ可キ行爲アリト虚偽ノ事實ヲ長官ニ申告スル所爲ヲ謂フ假令ハ某ハ竊盜ヲ爲シタリト虚偽ノ告訴發ヲ爲シ又ハ某公務員ハ賄賂ヲ收受シタリト其長官ニ虚偽ノ申告ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ而シテ本罪ハ單ニ虚偽ノ申告ヲ爲シタル事實アルヲ以テ成立スル罪ナルカ故ニ檢察官又ハ長官ニ於テ起訴若クハ懲戒訴追ヲ爲シタルト否トヲ問ハス成立ス換言スレハ本罪ハ他人ヲ陷害スル意思ヲ以テ官ニ誣告シタルニ因テ成立スルモノトス故ニ起訴及ヒ告訴、取下ノ有無ハ本罪、構成ニ關係ナシ他人ヲ陷害スルノ故意ヲ以テ虚無ノ事實ヲ告訴又ハ告發シタルトキハ其目的ノ人ヲ罪ニ陷ルルト否トヲ問ハス誣告罪ヲ構成ストノ判例アリ

茲ニ刑罰ト懲戒處分トノ差異ノ大要ヲ一言スレハ刑罰ハ一般犯罪ニ對シテ科スル處罰ナルモ之ニ反シテ懲戒處分ハ特別ノ權力關係ニ基ク服從義務ノ違反者ニ對スル一種ノ處罰ナリ換言スレハ懲戒處分ハ公務員カ服務規律ニ違反シタルトキ官紀ヲ維持スル爲メ科スル所ノ處罰ナリ故ニ懲戒處分ハ一般臣民ニ對スル處罰ニ非スシテ特別ニ公務員タル身分ヲ有スル者ニ對スル處分ナルヲ以テ其處罰ノ原因タル非行ニ付テモ亦一般犯罪ト異ナルノミナラス處罰ノ目的ニ於テ一般刑罰ト異ナルモノナリトス左レハ懲戒處分ハ同一行爲ニ對シテ一般刑罰ト之ヲ併科スルコトヲ得ルモノナリ即チ懲戒處分ノ處罰ハ免官、停職、轉所、減俸、譴責等ナルモ一般刑罰ハ懲役、禁錮、罰金、科料等ニシテ全ク性質ヲ異ニスルモノトス仍ホ詳細ハ官吏服務規律刑事懲戒法、會計検査官懲戒法、行政裁判所長評定官懲戒法、文官懲戒法等ニ詳細ナル規定アルヲ以テ參照ス可シ

第二 虚偽ノ申告ヲ爲シタルコトヲ要ス

刑事ニ付テハ通常、司法警察官ニ對シ告訴又ハ告發ヲ爲シ懲戒處分ニ付テハ別段一定ノ手續ナキヲ以テ所屬長官ニ報告又ハ通知スルヲ以テ足ルモノトス然レトモ司法官衙ニ刑事訴追ヲ求ムル場合ハ必スシモ告訴、告發ノ形式ニ依ルヲ要セス(判例)故ニ既ニ訴追ヲ受ケタル刑事被告人ニ對シテ陷害スル目的ヲ以テ過重ノ報告ヲ爲シタル場合モ仍ホ本條虚偽ノ申告中ニ包含スルモノトス而シテ此誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アリヤトノ問題アルモ誣告罪ハ告訴人ノ外實行正犯ナシ

告訴人ト共ニ謀テ其代人トナリ告訴狀ヲ檢事ニ提出シ又ハ告訴狀ヲ共ニ作成シタル所爲ハ孰レモ從犯ナリトノ判例アリ故ニ本罪成立ニハ刑事事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ事實ヲ申告スル意思アルコトヲ要スルモノナリ

以上ノ條件具備スルトキハ第六十九條ノ例ニ依リ三月以上、十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ第七十一條ト同一ニ自白減免ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百五十六條、誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者、自首シタル時ハ本刑ヲ免ストノ規定ヲ自白減免ト改メタルモノニシテ其立法趣旨ハ第七十條ト同一ナルヲ以テ再說セス獨逸刑法第六十三條第三項ハ前項ノ罪ヲ犯シタル者其告發ヲ受ケス且其審問ヲ開カニス及ヒ其不實ノ陳述ニヨリ他人ニ損害ヲ生セサル前其陳述ヲ爲シタル官廳ニ對シ之ヲ取消シタルトキハ之ヲ免スト規定セリ

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第六章、風俗ヲ害スル罪、及ヒ第三編、第一章第十一節、猥褻姦淫重婚ノ罪ヲ修正シ單ニ猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪ト改メタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一 舊刑法ハ公然、猥褻ノ所行ヲ爲シタル者及ヒ風俗ヲ害スル冊子、圖畫、其他、猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ風俗ヲ害スル罪ト爲シ賭博罪ト共ニ之ヲ規定シ猥褻、姦淫重婚ノ罪ハ身體ニ對スル罪ト爲シタルモ本法ハ公罪、私罪ヲ認メサル結果、合シテ一章ニ規定スルコトト爲シタリ

二 舊刑法ハ暴行、脅迫ヲ加ヘテ婦女ヲ姦淫シタル者ヲ強姦罪ト爲シ十三歲、未滿ノ幼女ヲ姦淫シ若クハ藥、酒等ヲ用ヒテ婦女ヲ昏睡セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ストノ規定シ犯人ノ所爲ニ基カサル心神喪失若クハ抗拒、不能ニ乘シテ姦淫シタル場合ノ規定ヲ闕キタルヲ以テ本法ハ之ヲ改メ心神喪失若クハ抗拒、不能ニ乘シテ姦淫シタル者ト爲シ又其、犯人ノ所爲ニ出テタルト否トヲ問ハス總テ強姦ヲ以テ論スルコトト爲シタリ

三、舊刑法ハ淫行ヲ勸誘、媒合シタル罪ノ被勸誘者ヲ十六歲未滿ナルコトヲ要スト規定シタルモ淫

行ノ常習アル婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシムル者ノ如キハ其婦女ヲ害スルモノニアラサルヲ以テ罰スルノ必要ナシ故ニ本法ニ於テハ是等ノ者ハ行政處分ニ委スルコトト爲シ唯、營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ニ限り年齢ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ罰スルコトト爲シタリ

本章ハ(一)公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪(二)猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル罪(三)十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪(四)暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ニ對スル強姦罪及ヒ十三歳以下ノ婦女ニ對スル姦淫罪(五)人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神喪失セシメ若クハ抗拒ヲ不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル罪(六)(三)(四)罪ノ未遂罪(七)(三)(四)(五)ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪(八)營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シ姦淫セシメタル罪(九)姦淫ノ罪(十)重婚ノ罪等ヲ規定シタリ

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

本條ハ公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百五十八條「公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ストノ規定ヲ科料ニ處スト改メタル外、舊刑法ト同一ナリ

本罪成立ニハ、第一公然ナルコト、第二猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、公然ナルコトヲ要ス

公然トハ公衆ノ目ニ觸ルル場所ヲ謂フ故ニ公衆ノ目ニ觸ルル場所ナルトキハ他人ノ目撃スルト否トヲ問ハス公然ナリ假令ハ道路、公園、汽車、汽船、乗合馬車内等ノ如キ是ナリ

第二、猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

猥褻ノ行爲トハ見ルニ堪ヘサル淫事ニ關スル行爲ヲ謂フ獨逸刑法第百八十三條ハ公然淫行ヲ爲シ他人ニ不快ヲ懷カシメタル者ハ云々ト規定シ其意義ヲ明ニシタリ本罪ハ善良ナル風俗ニ反スル所爲ヲ罰スルモノナルヲ以テ公然斯ル醜態ヲ爲スノ意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ科料ニ處ス可キモノトス

第七十五條

猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

本條ハ猥褻ノ書畫其他ノ物品ヲ頒布シ又ハ公然、陳列若クハ販賣シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百五十九條「風俗ヲ害スル冊子、圖畫其他、猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタ

ル者ハ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ニ處スルトノ規定ヲ修正シタルモノナリ

同條ハ猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ノミニ限リタルモ本法ハ新ニ頒布ナル語ヲ加ヘ公然陳列又ハ販賣ノ外廣ク公衆ニ分ツコトヲ禁スルコトト爲シタリ

又舊刑法ハ販賣シタル者、云々ト規定シ猥褻ノ圖畫、物品ヲ販賣セサルトキハ罰スルコトヲ得サリシモ本法ニ於テハ將サニ販賣セントシテ所持スルトキモ仍ホ之ヲ罰スルコトト爲シタリ

本罪成立ニハ、第一猥褻ノ文書、圖畫、其他ノ物品ナルコト、第二頒布シ又ハ公然、陳列若クハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物品ナルコトヲ要ス

猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物品トハ見ルニ堪ヘサル淫事ニ關スル醜態ヲ記載シタル書畫又ハ物品等ヲ總稱ス假令ハ春畫若クハ淫事ニ關スル文書ヲ記載シタル冊子又ハ裸體ノ偶像其他、局部ニ關スル模造品ノ如キ是ナリ

第二、頒布シ又ハ公然陳列若クハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタルコトヲ要ス

(一)頒布トハ公衆ニ廣ク配布スル所爲ヲ謂ヒ(二)公然陳列トハ公衆ノ目ニ觸ルル場所ニ并列シタル所爲ヲ謂フ(三)販賣トハ代金ヲ得テ他人ニ賣渡ス所爲ヲ謂フ故ニ無償贈與又ハ交換ハ本條中ニ包含セ

ス(四)販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スルトハ營利ノ目的ヲ以テ占有スル所爲ヲ謂フ故ニ秘密ニ所藏スルカ如キハ本條ニ論ス可キ限リニ非ス左レハ本罪成立ニハ頒布シ又ハ公然、陳列若クハ販賣シ又ハ販賣スル意思ヲ要スルコトモ亦明瞭ナリ

以上ノ條件具備スルトキハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス

第七十六條

十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

本條ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條前段ハ舊刑法、第三百四十六條、後半、十二歲以上ノ男女ニ對シ暴行、脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加スルトノ規定ヲ修正シタルモノナリ

其末項ハ舊刑法、第三百四十六條、前半、十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲ストノ規定及ヒ第三百四十七條、十二歲ニ滿サル男女ニ對シ暴行、脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加スルトノ規定ヲ合シテ修正シタルモノ

ノナリ

本條ハ一十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪(二十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪等ヲ規定シタルモノナリ)

(一) 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一十三歳以上ノ男女ニ對スルコト、第二暴行又ハ脅迫ヲ以テシタルコト、第三猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、十三歳以上ノ男女ニ對スルコトヲ要ス

本條、十三歳以上ノ男女トハ滿ヲ以テ計算ス可キモノナルコト論ヲ俟タス其他別ニ説明ヲ要セスシテ明瞭ナリ

第二、暴行又ハ脅迫ヲ以テシタルコトヲ要ス

本條、暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シトハ腕力ヲ使用シ又ハ言語、舉動ヲ以テ被害者ノ意思ヲ強制シ抵抗ヲ失ハシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ謂フ故ニ暴行、脅迫ノ手段ニ因ラス任意ノ承諾ニ基キタルトキハ本條ニ依リ論ス可キ限リニ非ス

茲ニ注意ス可キハ本條十三歳以上ノ男女ニ對シ云々ト規定アルヲ以テ本罪中ニハ男子間ニ於ケル

鶏姦行爲ヲ包含スルコト是ナリ

第三、猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

本條猥褻ノ行爲トハ既ニ前條ニ於テ述ヘタル所ト同一ナルヲ以テ再說セサルモ要スルニ婦女ニ對スル姦淫以外ノ醜行的行爲ト總テ本條猥褻行爲ナリト雖モ果シテ猥褻行爲ナルヤ否ヤハ實際上ニ於ケル事實上ノ問題ナリ

(二) 十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一十三歳ニ滿タサル男女ニ對スルコト、第二猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、十三歳ニ滿タサル男女ニ對スルコトヲ要ス

十三歳以上ノ男女ニ對シテハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタルヲ要スルモ十三歳未滿ノ幼者ニ對シテハ暴行、脅迫ヲ加ヘタルヲ要セス單ニ猥褻ノ所爲ヲ爲シタルトキハ本罪成立ス是(第一罪ト異ナル點ナリ)

第二、猥褻ノ所爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタルヲ以テ再說セス茲ニ疑問アリ本罪ハ未タ十三歳ニ滿タサル男子又ハ女子

ナルコトヲ知テ猥褻ノ所爲ヲ爲シタルコトヲ要スルヤ否ヤ是ナリ本罪ハ被害者保護ニ重キヲ置ク規定ナルヲ以テ犯人ノ之ヲ知ルト否トヲ問ハス實際上、十三歳未満ノ幼者ナルトキハ本條ニ依リ論スキモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)共ニ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強

姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シ

タル者亦同シ

本條ハ強姦ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百四十八條、十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス(一)ノ規定及ヒ

第三百四十九條、十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス(一)若シ強姦シタル者ハ重懲

役ニ處ス(一)トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ

本條ハ(一)十三歳以上ノ婦女ニ對スル強姦罪(二)十三歳未満ノ幼女ニ對スル強姦罪ヲ規定シタル者ナリ

(一) 十三歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル罪

本罪成立ニハ、第一暴行又ハ脅迫ヲ以テシタルコト、第二、十三歳以上ノ婦女タルコト、第三姦淫シ

タルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、暴行又ハ脅迫ヲ以テシタルコトヲ要ス

本條、暴行又ハ脅迫ヲ以テトハ腕力ヲ以テ抵抗力ヲ失ハシメ又ハ行為ノ自由ヲ拘束スルニ足ル可キ害惡ヲ通知シテ被害者ヲ畏怖セシメタル所爲ヲ謂フ故ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル爲メ承諾シタリトスルモ其承諾ハ暴行、脅迫ノ結果ナルヲ以テ本罪成立ス然レトモ本法ニ於テハ詐言ヲ用ヒ又ハ婦女ノ錯誤ヲ利用シテ姦淫シタルトキハ本條ノ問フ所ニ非ヌ獨逸刑法ハ婚姻ヲ爲スト詐言シ又ハ婚姻ニ因ル同衾ナリト思惟セシム可キ錯誤ヲ誘起セシメ若クハ其錯誤ヲ利用シ婦女ニ對シ姦淫ヲ承諾セシメタル者ハ之ヲ罰ストノ規定アリ(第七十九條)

第二、十三歳以上ノ婦女タルコトヲ要ス

十三歳以上ノ婦女ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ其抵抗力ヲ失ハシメ交接ヲ遂ケタルトキハ本罪成立スルモノトス故ニ若シ十三歳以上ノ婦女ニシテ任意ノ承諾アリタルトキハ本條ノ問フ所ニ非ス蓋シ本罪ノ被害者ハ必ス婦女ナルコトヲ要シ又主犯者ハ必ス男子タルコトヲ要ス然レトモ其強姦ヲ教唆シ若クハ幫助スル行為ハ男子タルヲ要セス故ニ婦女モ亦本罪ノ共犯タルコトヲ得可キハ論ヲ俟タス

第三、姦淫シタルコトヲ要ス

姦淫トハ男女ノ交接ヲ謂フモノナルヲ以テ男子間ノ姦姦ハ本條、姦淫中ニ包含セス本罪ノ既遂、未遂等ニ付キ實際上、問題ヲ生スルコトアリト雖モ要スルニ交接ノ目的ヲ遂ケタルトキハ本罪ノ既遂ナリト

(二) 十三歳未満ノ幼者ニ對スル強姦罪

本罪成立ニハ、第一十三歳未満ノ幼女タルコト、第二姦淫シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、十三歳未満ノ幼女ナルコトヲ要ス

十三歳ニ滿タサル幼女ニ對シテハ別ニ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒス單ニ姦淫シタルトキハ本罪成立ス是則チ十三歳未満ノ幼女ハ未タ淫事ノ何事ヲモ解セサルモノナルヲ以テ適法ナル承諾ヲ爲ス能力ナキモノナレハ法律上特ニ保護スルモノナリ

第二、姦淫シタルコトヲ要ス

本條、姦淫シタル者トアルヲ以テ本罪成立ニハ必ス交接ノ目的ヲ達シタルコトヲ要ス若シ姦淫不能ナルトキハ前條ニ依リ處斷ス可キモノナリ而シテ本罪モ亦十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタルトキハ犯人ニ於テ十三歳未満ナルコトヲ知ルヲ要セス十三歳未満ノ幼女ナルトキハ本罪成立ス然

レトモ犯ス當時十三歳以上ノ婦女ト信シ姦淫シタルニ其實十三歳未満ナリシトキハ罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサルモノナルヲ以テ本條ニ依リ重キニ從テ論スルコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)共ニ二年以上ノ有期懲役ニ處ス可キモノトス

第七十八條

人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者

ハ前二條ノ例ニ同シ

本條ハ人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪及ヒ人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪又ハ婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ心神喪失若クハ抗拒不能ナラシメ姦淫シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第三百四十八條第二項「藥酒ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス」トノ規定ヲ改メ本條ノ如ク其範圍ヲ擴張シタルモノナリ而シテ本條ハ(一)人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪(二)人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪(三)婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ婦女ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ姦淫シタル罪ヲ規定シ

タルモノトス

(一) 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シタルコト、第二猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シタルコトヲ要ス

本條ニ所謂人ノ心神喪失トハ本法第一編、第七章第三十九條ニ於テ既ニ詳論シタル如ク、心神機能ノ不完全ナルモノニテ刑法上引責能力ナキ状態ニ居ル者ヲ謂フ假令ハ癡癩病者ノ如キ者はナリ又抗拒不能トハ身體ノ自由ヲ失ヒタル者ヲ謂フ換言スレハ防禦對抗力ヲ失ヒタル者ヲ云フニ在リ而シテ其抗拒不能ニ至リタル原因ハ先天的ナルト否トヲ問ハス身體ノ自由ヲ失ヒ抗拒不能ノ状態ニ在ル者ハ總テ本罪ノ被害者タルコトヲ得可シ假令ハ飲酒ノ結果泥酔シ又ハ睡眠中ニテ對抗力ヲ失ヒ居リタル者ノ如キ是ナリ

第二、猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

猥褻ノ行爲トハ既ニ述ヘタル如ク見ルニ堪ヘサル淫事ニ關スル所爲ヲ謂フ而シテ本罪ハ第百七十六條ノ猥褻罪ト異リ暴行脅迫ヲ用ユルヲ要セス又年齢ノ如何ニ拘ハラス心神喪失若クハ抗拒不能

ノ状態ニ在ル男女ニ對シ猥褻ノ所爲ヲ爲シタルトキハ本罪成立ス唯、茲ニ注意ス可キハ本條心神喪失者ハ承諾ノ意思表示ヲ爲ス能力ナキ者ナルヲ以テ心神喪失者ナルコトヲ知テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルトキハ承諾ノ有無ニ拘ハラス直ニ犯罪成立スルモノナルモ之ニ反シテ抗拒不能ノ状態ニ在ル者ハ心神上ニハ毫モ故障ナキモノナルヲ以テ任意ノ承諾有リタルトキハ犯罪成立セス而シテ本罪モ亦、人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ノ状態ニ在ルコトヲ知テ猥褻ノ行爲ヲ爲ス意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス

(二) 人ノ心神ヲ喪失セシメ又ハ抗拒不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一人ノ心神ヲ喪失セシメ又ハ抗拒不能ナラシメタルコト、第二猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、人ノ心神ヲ喪失セシメ又ハ抗拒不能ナラシメタルコトヲ要ス

人ノ心神ヲ喪失セシメトハ藥酒其他ノ方法手段ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ自他ヲ認識ス可キ心神機能ヲ失ハシメタル所爲ヲ云ヒ抗拒不能ナラシメトハ對抗力ヲ失ハシメタル總テノ所爲ヲ謂フ故ニ其對抗力ヲ失ハシメタル方法手段ノ何ニタルヲ問ハス故ニ假令ハ藥酒等ヲ用ヒ又ハ催眠術等ヲ施シタルカ如キ是ナリ但シ暴行脅迫ヲ加ヘ對抗力ヲ失ハシメタル場合ハ第百七十六條ニ依リ論ス可

キモノニテ本條抗拒不能中ニ包含セサルモノトス而シテ(一)罪ハ他働的ニ心神喪失若クハ抗拒不能ノ状態ニ在ルヲ要スルモ本罪ハ犯人自ラ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメタルコトヲ要ス是第百七十六條ト異ル要點ナリ

第二、猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ屢々、説明シタル所ナルヲ以テ別ニ論セサルモ既ニ述ヘタル如ク男女ニ拘ハラス人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ又ハ抗拒不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲スカ如キハ最モ惡ム可キ所爲ナリトス

(三) 婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ婦女ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ姦淫シタル罪

本罪成立ニハ、第一婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ婦女ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメタルコト、第二姦淫シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメタルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタル所ナルヲ以テ別ニ論セサルモ茲ニ注意ス可キハ(一)ノ猥褻罪ハ男女ニ拘

ハラス被害者タルコトヲ得可キモ本罪ノ被害者ハ婦女ニ限ルコト是ナリ然レトモ其共犯者タルコトヲ得可キハ既ニ述ヘタル如ク男女ニ係ハラサルモノナリ

第二、姦淫シタルコトヲ要ス

姦淫ノ意義ニ就テモ既ニ説明シタルヲ以テ別ニ贅セサルモ本罪ハ前ニ一言シタル如ク舊刑法第三百四十八條第二項「藥酒ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス」トノ規定ノ範圍ヲ擴張シタルモノナレハ婦女ノ心神ヲ喪失又ハ抗拒不能ニ至リタル原因如何ヲ問ハス心神喪失若クハ抗拒不能ノ状態ニ至リタル婦女ヲ姦淫シタルトキハ舊刑法ト等シク強姦ヲ以テ論スルモノトス而シテ本罪成立ニモ婦女ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ姦淫スル意思ヲ要スルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セ

以上ノ條件具備スルトキハ(一)(二)(三)罪共ニ前二條ノ例ニ依リ處斷ス可キモノトス

第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ前三條ノ猥褻罪及ヒ強姦罪ハ其未遂ノ所爲ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

猥褻罪及ヒ強姦罪ノ既遂、未遂ノ分界ニ付テハ前條ノ説明ニヨリ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

第百八十條 前四條罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ第百七十六條乃至第百八十條ノ罪ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコトヲ規定シタルモノナリ
舊刑法、第二百五十條ハ「前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス」ト規
定シタルモ本法ハ之ヲ改メ單ニ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス」ト規定シ其、告訴、權利者ノ何人タルヤヲ
明示セサルハ刑事訴訟法、及ヒ民法ノ規定ニ依リ一定スルヲ以テ茲ニ之ヲ特定セサリシナリ然レト
モ本條ニ所謂、告訴、權利者トハ被害者又ハ其法定代理人等ヲ云フモノトス

第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ
致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ猥褻罪又ハ強姦罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ舊刑法、第三百五十一條、「前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創
傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス」但強姦ニ因テ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シ
タル者ハ無期徒刑ニ處ス」トノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ハ本章、強姦以外ノ行爲ニ因リ人ヲ
死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷ニ比較シ重キニ從テ處斷シ強姦ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキノミ
特ニ刑ヲ設ケタルモ本法ハ強姦ニ因リタルト猥褻ノ所爲ニ因リタルトヲ問ハス第百七十七條乃至第

百八十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケ嚴罰スルコトト爲シタリ是、即、
本章ノ罪ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ハ通常、傷害罪ヨリ其情、重キ所アルヲ以テノ故ナリ

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシ
メタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ淫行、勸誘ノ罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ舊刑法、第三百五十二條、「十六歳ニ滿タサル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上、
六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑
法ハ「十六歳未滿ノ男女ニ對シ淫行ヲ勸誘シテ媒合セシメタル者ハ總テ之ヲ罰ス可キコトト爲シ淫
行ノ常習アル男女ナルト否トヲ問ハス保護スル規定ナリシモ本法ハ單ニ營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常
習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ト限定シ淫行ノ常習アル婦女及ヒ男子ハ之ヲ保護セサルコ
トト爲シリ
本罪、成立ニハ、第一營利ノ目的ナルコト、第二淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シタルコト、第三姦淫
セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス
第一、營利ノ目的タルコトヲ要ス

本條營利ノ目的ヲ以テトハ自己又ハ他人ヲ利スル目的ヲ謂フモノトス而シテ本條ハ専ラ婦女ノ淫行ヲ勸誘シ利ヲ得ルヲ目的ト爲ス常業者ニ對スル規定ナリ

第二、淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シタルコトヲ要ス

本條淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シタルコトトハ品行方正ナル婦女ヲ云フニ外ナラサルモ果シテ淫行ノ常習ナキ婦女ナルヤ否ヤハ實際上、其婦女ニ因テ決ス可キ事實上ノ問題ナリ茲ニ注意ス可キハ舊刑法ハ十六歳未満ノ男女ニ對シテノミ本罪成立スルコトト爲シタルモ本法ニ於テハ營利ノ自的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シタルトキハ其婦女ノ年齢如何ニ拘ハラズ本條ニ依リ論スルコトト爲シ又本法ハ舊刑法ト異ナリ婦女ニ限ルコトト改メタルコト是ナリ

第三、姦淫セシメタルコトヲ要ス

本罪成立ニハ必ス營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ニ對シテ淫行ヲ勸誘シ姦淫セシメタルコトヲ要スルヲ以テ其婦女ニシテ未タ姦淫スルニ至ラス若クハ淫行勸誘ニ應シテ承諾シタルニ止マルトキ又ハ營利ノ目的ニ非ス單ニ婦女ニ淫行ヲ勸誘シタル場合ノ如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス而シテ本罪成立ニハ淫行ノ常習ナキ婦女ナルコトヲ知テ營利ノ爲メ淫行ヲ勸誘シテ姦淫セシムル意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

タル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ効ナシ

本條ハ姦通罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百五十三條、有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ、此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫、先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシトノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ同一ナリ

本罪成立ニハ、第一有夫ノ婦ナルコト、第二姦通シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、有夫ノ婦ナルコトヲ要ス
有夫ノ婦トハ民法ノ規定スル所ニ從ヒ一定ノ方式手續ヲ履行シ結婚シタル婦女ヲ謂フモノトス民法上、男子ハ滿十七歳、女子ハ滿十五歳ニ至ラザレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス又有效ナル婚姻ノ成

立ニハ婚姻ノ當事者、雙方及ヒ成年ニ達シタル證人、二人以上ヨリ口頭又ハ署名シタル書面ヲ以テ所轄役場ノ戶籍吏ニ届出スルコトヲ要スルモノナリ而シテ此婚姻ノ届出テヲ爲シタル以上ハ其時ヨリ入籍ノ有無ヲ問ハズ法律上夫婦タルノ效力ヲ生スルモノトス故ニ本條ニ所謂、有夫ノ婦トハ民法上ノ規定ニ從ヒ是等ノ方式手續ヲ履行シタル婦女ヲ謂フ蓋シ民法、施行以前ニ在リテハ婚姻届ヲ爲ササルモ事實上、夫婦タルノ關係アル者ハ有夫ノ婦ト看做シタルモ民法施行ノ今日ニ至テハ事實上ノ夫婦、關係ノミニテハ有夫ノ婦ト云フコトヲ得ス（民法第七百六十五條、第七百七十五條）夫婦タル關係ヲ有スル以上ハ送籍ノ手續ナキモ仍ホ夫婦タルノ身分ヲ有ス從テ送籍ノ有無ハ有夫姦罪ノ成立ニ影響アルコトナシ姦通者ノ一方、死去スト雖モ殘リ一人ノ爲メニ其罪體及ヒ公訴權、消滅セス乃チ姦通罪ハ二者、相須テ一罪ヲ構成スルモ其罪ノ成否ハ必スシモ二者、共存ヲ要セサルモノナリト判例アリ

第二、姦通シタルコトヲ要ス

姦通トハ本夫以外ノ男子ト交接シタルコトヲ謂フモノトス然レトモ本夫ニ於テ其婦ノ姦通ヲ先ニ許諾シタルトキハ縱令、姦通ノ事實アルモ本罪成立セス左レハ本罪ハ本夫、以外ノ男子タルコトヲ知テ姦淫シタルコトヲ要ス故ニ本夫ト誤信シタル場合ノ如キハ姦通スルノ意思ナキモノナルヲ

以テ本罪成立セサルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス可キモノナルモ本罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キモノナルヲ以テ既ニ一言シタルカ如ク本夫先ニ姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ効ナキモノトス是本條第二項但書ノ規定アル所以ナリ

本條、第一項、末文其相姦シタル者亦同シトハ有夫ノ婦ト姦通シタル男子モ亦本條ニ依リ有夫ノ婦ト同一ニ處罰スルコトヲ規定シタルモノナリ然レトモ其、相姦者ニシテ有夫ノ婦ナルコトヲ知ラズ又ハ本夫ノ承諾ヲ得テ姦シタルトキハ本條ニ依リ罰スルコトヲ得サルモノトス

第八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役

ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

本條ハ重婚罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第三百五十四條、「配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ三月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナリ

本罪成立ニハ、第一配偶者アル者ナルコト、第二重ネテ婚姻ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス
第一、配偶者アル者ナルコトヲ要ス

配偶者アル者トハ有夫ノ婦又ハ有婦ノ夫ヲ謂フモノトス而シテ法律上、既婚者タルノ身分ハ婚姻ノ届出ニ因テ效力ヲ生ス可キコトハ既ニ前條ニ於テ述ヘタルカ如シ故ニ一旦婚姻シタル者ハ其前婚ノ解消又ハ取消ササル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(民法第七百六十六條)左レハ重婚ノ所爲ハ民刑共ニ嚴禁スル所ナリ然レトモ人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ノ成立セサルトキハ前婚ナキト同一ナルヲ以テ其後ノ婚姻ハ之ヲ重婚ナリト云フコトヲ得ス獨逸刑法ハ婚姻ヲ爲シタル者其婚姻ノ解消又ハ無効ノ宣告前重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキ又ハ婚姻ヲ爲ササル者其情ヲ知り之ト婚姻シタルトキ云々ト規定シ此點ヲ明ニシタリ(第七十一條)

第二、重ネテ婚姻ヲ爲シタルコトヲ要ス

重ネテ婚姻ヲ爲ストハ既婚者タルノ身分アル者再ヒ法律上ノ方法手續ヲ履ミ他ノ男子又ハ女子ト結婚シタルコトヲ謂フ故ニ第一婚姻ノ成立中更ニ他ノ者ト第二ノ婚姻ヲ爲シタルトキハ本罪成立スルモノトス然レトモ既ニ述ヘタル如ク前婚無効又ハ不成立ナルトキハ前婚ナルモノナキヲ以テ本罪成立ニハ前婚成立中ナルコトヲ知テ更ニ婚姻ヲ爲ス意思アルコトヲ要スルモノナリ故ニ前婚解消又ハ取消サレタルモノト信シ婚姻シタルトキハ事實上、重婚ナルモ本罪成立セズ假令ハ前婚ノ夫又ハ婦カ失踪ノ宣告ヲ受ケ死亡ト看做サレタルニ因リ再婚シタルトキ又ハ離婚ノ判決、確定シタル後チ再婚シタルニ其死亡者ト看做サレタル者歸來シ若クハ再審ニ因リ離婚ノ判決、取消サレタル場合ノ如キ是ナリ

以上ノ條件、具備シタルトキハ其相手方タル相婚者ト共ニ二年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第六章中賭博及ヒ富籤ニ關スル規定ヲ修正シタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ競技者ノ優劣又ハ巧拙ニ因リ勝敗ヲ決スル者ト全ク偶然ノ事ニ因リ其輸贏ヲ決スル者トヲ論セス財物ヲ賭シテ勝敗ヲ争フ以上ハ總テ之ヲ罰スルコトト爲シタルモ夫ノ相撲、擊劍若クハ競馬ノ如キ競技ノ優劣又ハ巧拙ヲ争フハ之ヲ骨子、骨牌ヲ使用シテ全ク偶然ノ事ニ關シ勝敗ヲ決スル者ト同一ニ論スルコトヲ得ス故ニ本法ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタル者ノミヲ罰スルコトト改メタリ

二、舊刑法ハ賭博罪ハ現ニ之ヲ行フ際、發覺シタルトキニ非サレハ罰スルコトヲ得ストノ解釋行ハ

レ實際家ノ極メテ不便ヲ感シタル所ナルヲ以テ本法ハ其發覺ノ現在ト否トヲ區別セテ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シクルトキハ總テ罰スルコトト爲シタリ

三、舊刑法ハ常習トシテ賭博ヲ行フ者ト否トヲ區別セサリシモ本法ハ賭博ヲ常習ト爲ス者ト否トヲ區別シ常習ト爲ササル者ハ情狀ニ因リ罰金ヲ科スルコトト爲シタリ

四、舊刑法、第二百六十一條、第一項、後段ハ賭博ヲ爲ス情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ賭博ヲ爲シタル者ト同一ニ罰スルコトト爲シタルモ房屋、給與ハ第一編、總則、從犯ヲ以テ論ス可キモノト爲シ又同條、第二項賭博ノ器具、財物ハ之ヲ沒收ストノ規定モ總則、第二章、第十九條ニ依リ處分ス可キモノナルヲ以テ本法ハ特ニ之ヲ規定セス

五、舊刑法ハ富籤ニ就テハ其發賣者ニ關シテノミ規定シ其他ニ就テハ規定セサリシモ元來富籤ハ賭博ト等シク射倖的、利益ヲ僥倖スルモノナルヲ以テ其發賣者ト買收者トヲ問ハス罰ス可キ必要ナキニ非ス故ニ本法ハ富籤ヲ發賣シタル者又ハ其富籤、發賣ノ取次若クハ買收者ヲ罰スルコトト爲シタリ

本章ハ一賭博ヲ爲シタル罪(二常習トシテ賭博ヲ爲シタル罪)(三賭場ヲ開張又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル罪)(四富籤ヲ發賣シタル罪)(五富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル罪及ヒ富籤ヲ授受シタル罪等ヲ規定シ

タリ

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ賭博罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百六十一條、財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上、六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス賭博ノ器具、財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ストノ規定ヲ修正シタルモノナリ其修正、主要ハ既ニ一言シタル如ク舊刑法ハ單ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々ト規定シタルニ因リ解釋上、疑義ヲ生シタルヲ以テ本法ハ之ヲ偶然ノ輸贏ニ關シ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ト改メ其疑義ヲ避ケタルモノナリ

又舊刑法ハ現ニ博奕ヲ爲シ云々ト規定シタルヲ以テ發覺ノ當時現ニ博奕ヲ爲シタルニ非サレハ罰スルコトヲ得ストノ解釋行ハレ實際上、極メテ不便ナリシヲ以テ本法ハ其現ニ文字ヲ避ケタリ而シテ舊刑法ハ但書ニ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラヌト規定シタルニ因リ遂ニ飲食物ヲ金錢ニ代用ス

ル、弊害生シタルヲ以テ本法ハ此點ニ付テモ亦一時ノ娛樂ニ供スル物ト改メ飲食物ト雖モ金錢ニ代用シタルトキハ之ヲ罰シ飲食物ニ非サルモ單ニ一時ノ娛樂ナルトキハ罰セサルコトト爲シタリ
 本罪成立ニハ、第一偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタルコト、第二博戲又ハ賭事ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタルコトヲ要ス

本條偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタルハ當事者ノ知ラサル事實ノ爭點ニ關シ金錢其他ノ有價物ヲ賭シタル所爲ヲ謂フ換言スレハ當事者ノ知ラサル事實ノ爭點ニ對シ財物ヲ賭スル所爲ヲ云フモノトス故ニ本罪成立ニハ必ス偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭シタルコトヲ要ス但、財物ヲ賭スルモ一時ノ娛樂又ハ遊戯トシテ賭シタルトキハ本條但書ニ依リ罰スル限ニ非ス假令ハ飲食物ヲ賭シ一時ノ樂ミト爲シタル場合又ハ飲食物ヲ買フ爲メ小額ノ金錢ヲ賭シタル場合ノ如キ是ナリ蓋シ一時ノ娛樂ナルヤ否ヤハ裁判所ノ認定ス可キ事實ノ問題ナリトス

元來賭博ハ自己ノ財産ニ對スル一個ノ處分行爲ナルヲ以テ法律上、之ヲ罰ス可キ必要ナキカ如シト雖モ其處分、方法ニシテ公ノ秩序ヲ害シ善良ノ風俗ニ反スル以上ハ國家ハ公益上、之ヲ禁スル必要アリ是本章賭博罪ヲ罰スル所以ナリ夫ノ自己ノ家屋ニ對スル放火ノ如キモ公益上、私財處分ヲ

禁シタル一例ナリトス

第二、博戲又ハ賭事ヲ爲シタルコトヲ要ス

博戲トハ二人以上ノ者合意ヲ以テ勝敗ノ爭ヲ爲シ敗者ハ勝者ニ對シテ一定ノ財物ヲ與フル行爲ヲ謂フ而シテ此博戲ハ多少ノ娛樂ノ意義ヲ有スルモノニテ當事者ノ能力又ハ技術ノ優劣ニ因リ勝敗ヲ決スル所爲ヲ云フモノナリ

賭事トハ當事者双方或ル事物ノ判斷ニ關シ意見ヲ異ニシタル者約シテ勝者ニ一定ノ財物ヲ與フル所爲ヲ謂フモノトス而シテ賭事ハ自己ノ技能ニ依ラス專ラ偶然ノ出來事ニ關スル意見ノ當否ニ因テ決ス可キモノナルヲ以テ射的的契約ナリ要スルニ博戲ト賭事トハ其勝敗ヲ爭ヒ財物ヲ賭スル點ニ就テハ同一ナルモ其勝敗ヲ決スル手段、方法ヲ異ニスルモノトス然レトモ此博戲、賭事ノ區別ニ就テハ學者ニ依リ多少其見解ヲ異ニスル所アリ論者或ハ博戲ハ關係者、自身ニ於テ一定ノ行爲ヲ爲シ其行爲ノ結果ニ因リ勝敗ヲ決スル所爲ヲ謂フ例セハ骨子、壺ヲ使用スル丁半ノ如キ或ハ骨牌ヲ使用スル花合ノ如キハ其好適例ナリ之ニ反シテ賭事トハ關係者ノ行爲以外ノ出來事カ勝敗ノ條件ト爲リ勝敗ヲ決スル所爲ヲ謂フ例セハ他人ノ遊戯ヲ傍觀スル者カ財物ヲ賭スル如キ彼ノ他人ノ競馬、相撲ノ勝敗ニ關シ傍觀者カ其勝敗ニ關シ金錢ヲ賭スルカ如キハ其好適例ナリト博戲又ハ

賭事ヲ爲スモ財物ヲ賭シタルトキニ非サレハ本罪成立セズ故ニ財物ヲ賭シテ勝敗ヲ決シタルコトヲ要ス然レトモ博戲又ハ賭事ヲ爲スモ一時ノ娛樂ナルトキハ縱令財物ヲ賭スルモ本條但書ニ依リ罰スルコトヲ得サルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス

餘論

本罪ヲ總テ罰金ト爲シタルハ余輩ノ最モ遺憾ト爲ス立法ナリ本條ノ如ク總テ罰金刑ト爲シタル以上ハ將來賭博犯益々増加シテ之ヲ罰スルモ殆ト懲戒ノ效ナキニ至ルノミナラス賭博社會ニ於ケル一種ノ税金視セララルルヲ虞ルルモノナリ素ヨリ數回處分ヲ受ケタル者若クハ常習ト爲ス者ハ次條ニ依リ體刑ヲ科スルコトヲ得可キニ因リ遺憾ナシト雖モ其常業ト爲スヤ否ヤハ事實上ノ問題ニ屬シ實際之ヲ認定スルハ極メテ困難ナルヲ以テナリ

第八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ常習トシテ賭博ヲ爲シタル罪及ヒ賭博開張中ニ博徒結合ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ本法ノ新設ニ係ル規定ナリ舊刑法ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス者ト否ラサル者トヲ區別セザリシモ本法ハ之ヲ區別シ賭博ノ常習アル者ハ之ヲ重罰スルコトト爲シタリ

本條第二項ハ舊刑法、第二百六十條「賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上、百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナリ

而シテ本條ハ(一)常習トシテ賭博ヲ爲シタル罪(二)賭博場ヲ開張シ利ヲ圖リタル罪(三)博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 常習トシテ賭博ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一常習ト爲シタルコト、第二博戲又ハ賭事ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、常習ト爲シタルコトヲ要ス

常習トハ常業トシテ賭博ヲ爲スコトヲ謂フ換言スレハ賭博ヲ本業ト爲ス者又ハ他ニ一定ノ職業若クハ營業アルモ其本業ヲ拋棄シテ常ニ賭博ヲ爲ス者ヲ云フニ在リ而シテ是等、世俗ノ博徒ト稱スル者ハ賭博ヲ常業ト爲シ良民ヲ誘惑シテ不正行爲ヲ行フモノナルヲ以テ社會風紀ノ取締上、最モ嚴罰ス可キ必要アリ然レトモ果シテ賭博ヲ常習ト爲スヤ否ヤハ其人ニ因テ決ス可キ事實上ノ問題

ナリ

第二、博戯又ハ賭事ヲ爲シタルコトヲ要ス

博戯又ハ賭事ノ意義ニ就テハ前條既ニ詳論シタルヲ以テ再說セサルモ本條ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス者ニ對スル規定ナリ

(二) 賭博場ヲ開張シ利ヲ圖リタル罪

本罪成立ニハ、第一博戯場ヲ開張シタルコト、第二利ヲ圖リタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、博戯場ヲ開張シタルコトヲ要ス

本條第二項賭博場トハ博戯又ハ賭事ヲ爲ス一定ノ場所ヲ謂フ換言スレハ賭博ノ器具ヲ備ヒ賭博者ヲ誘引スル一定ノ興行場ヲ云フニ在リ故ニ賭博者ノ求メニ應シテ一時房屋ヲ給與シタル者トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ彼ノ一時、賭房ヲ給與シタル者ノ如キハ賭博ヲ幫助スル一種ノ從犯的行爲ナルモ本條賭博場ノ開張者ハ賭博罪ノ致唆的行爲ナリ是注意ス可キ點ナリ

第二、利ヲ圖リタルコトヲ要ス

利ヲ圖ルトハ多數ノ博徒ヲ招集結合シテ賭場ヲ開張シ利益ヲ得ル所爲ヲ謂フ假令ハ多數ノ博徒ヲ招集シ賭博ヲ爲サシメ俗ニ寺錢ト稱スル部割ヲ取得スルカ如キ是ナリ茲ニ注意ス可キハ本罪ハ賭

博場ヲ開張シ利ヲ圖リタルトキハ賭博ヲ爲シタルト否トヲ問ハス本條ニ依リ論ス可キコト是ナリ

(三) 博徒ヲ結合シタル罪

本罪成立ニハ、第一博徒ヲ結合シタルコト、第二利ヲ圖リタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、博徒ヲ結合シタルコトヲ要ス

博徒結合トハ賭博ヲ常業ト爲ス者ヲ招集シタル所爲ヲ謂フ換言スレハ一定ノ産業ナク賭博ヲ本業ト爲ス無賴ノ徒ヲ集メ一個ノ團體ヲ結ヒ賭場ヲ開張スル者ヲ云フニ在リ假令ハ夫ノ所謂、博徒ノ親分ト稱スル者其兒分ヲ招集シテ賭博ヲ爲サシムルカ如キ是ナリ

第二、利ヲ圖リタルコトヲ要ス

利ヲ圖リタルコトトハ多數ノ博徒ヲシテ賭博ヲ爲サシメ利益ヲ得ルコトヲ謂フモノナルモ既ニ述ヘタルヲ以テ再說セサルモ本罪モ亦多數ノ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖ルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ一時、房屋ヲ貸與シテ其賃料ヲ得タル場合ノ如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス本罪モ亦賭博場ヲ開張シタルトキハ現ニ財物ヲ賭シ賭博ヲ爲シタルト否トヲ問ハス博徒ヲ結合シ利ヲ圖リタルトキハ本罪成立ス要スルニ本條ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス世ノ博徒ト稱スル者ニ對シ罰スル規定ナリ

トス

以上ノ條件具備スルトキハ第一項ノ罪ハ三年以下ノ懲役第二項ノ罪ハ(二)共ニ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

本條ハ富籤ノ發賣又ハ取次ヲ爲シタル罪及ヒ富籤ノ授受ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條、第一項ハ舊刑法、第二百六十二條、財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興業シタル者ハ一月以上、六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加スルトノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法、趣旨ハ同一ナリ又本條、第二項ハ明治十五年、第二十七號、布告、第一條、凡富籤、賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上、六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十

圓以下ノ罰金ヲ附加スルトノ規定中、牙保ノ文字ヲ取次ト改メタル外、其立法趣旨ハ之ト同一ナリトス

本條ハ(一)富籤ヲ發賣シタル罪(二)富籤、發賣ノ取次ヲ爲シタル罪(三)富籤ヲ授受シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 富籤ヲ發賣シタル罪

既ニ一言シタル如ク富籤モ亦、賭博ト同シク偶然ノ利益ヲ僥倖スルモノナルヲ以テ社會ノ秩序、維持上、之ヲ發賣スル者又ハ其取次ヲ爲ス者若クハ買收スル者等ヲ罰スル必要アリ然ルニ舊刑法ハ此富籤ノ發賣者ノミヲ罰スルニ止マリ其取次又ハ買收者ヲ罰スル規定ナカリシヲ以テ本法ハ明治十五年、布告、第二十二條ヲ修正シテ本章ニ移シテ規定シタルモノナリ

然レトモ富籤、發賣ノ目的、殖産、興行若クハ貧民、救助等國家的有益ナル事業ノ爲メナルトキハ之ヲ禁セザルコトアリ我カ政府ハ明治三十九年八月富籤ニ關スル法令ヲ臺灣ニ發布シタルコトアリ

本罪成立ニハ、第一富籤ナルコト、第二發賣シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、富籤タルコトヲ要ス

富籤トハ二人以上ノ者財物ヲ醜集シ抽籤ノ方法ニ因リ其財物ノ全部又ハ一部ヲ出財者中ノ一部ノ當籤者ニ得セシムル所爲ヲ謂フ換言スレハ富籤トハ財物ヲ醜集シ抽籤ノ方法ニ因リ當籤者ニ利益ヲ與フ可キ所爲ヲ云フモノトス故ニ賭博ト富籤トノ區別ハ賭博ハ偶然ノ輸贏ニ關シ勝敗ヲ僥倖スルモノナルモ富籤ハ抽籤ノ方法ニ因リ損益ヲ僥倖スル點ト又賭博ハ勝敗ノ定マルトキ勝者ハ財物ヲ取得スルモノナルモ富籤ハ其發賣當時ヨリ財物ハ興行者ニ於テ取得スルノ差異アルモノトス賭博ト富籤ノ區別ニ對シテハ賭博ハ財物ヲ賭シテ勝敗ヲ決スル迄賭者ハ只其財物ヲ提供スルニ過キスシテ之レカ所有權ヲ失フモノニ非ス反之富籤ハ財物ヲ醜集スルモノニシテ富籤ノ購買者ハ醜集ノ時已ニ其賭物ノ所有權ヲ失フモノナリ又賭博ハ胴元ト賭者トノ間ニ於テ取引ノ關係アリテ胴元ト賭者トハ共ニ危險ヲ負擔シ富籤ハ如何ナル場合ニ於テモ興行者ハ危險ヲ負擔スル恐レキモノトストノ判例アリ

第二、富籤ヲ發賣シタルコトヲ要ス

富籤ヲ發賣トハ利益ヲ僥倖スル目的ヲ以テ富籤ヲ發行スル所爲ヲ謂フモノトス而シテ其富籤ハ之ヲ購買スル者ノアリタルト否トヲ問ハス之ヲ發行シタルトキハ本罪成立スルモノトス而シテ富籤ヲ發賣スル意思ヲ以テ發行スルヲ要スルコトハ明瞭ナルヲ以テ別ニ說明セス

(二) 富籤ノ取次ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一富籤ナルコト、第二取次ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、富籤ナルコトヲ要ス

富籤ノ意義ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ再說セス

第二、取次ヲ爲シタルコトヲ要ス

取次トハ富籤ノ發行者ト買收者トノ中間ニ立チ其賣買ヲ媒介スル行爲ヲ謂フ而シテ本罪ハ甲ヨリ乙ヘ取次キ運送シタルニ止マリ別ニ周旋、行爲ヲ爲ササルモ本條、取次トアルヲ以テ是等ノ所爲モ亦、本條ニ依リ罰ス可キモノナリ是注意ス可キ點ナリトス而シテ富籤ナルコトヲ知テ取次ヲ要スルコトモ明瞭ナルヲ以テ別ニ說明セス

(三) 富籤ヲ授受シタル罪

本項ハ明治十五年、第二十五號、布告、第二條、凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上、四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ讓受ケタル者亦同シ。トノ規定ヲ修正シテ本法ニ移シタルモノナリ但其刑ハ稍ヤ重キニ失スルヲ以テ本法ハ罰金又ハ科料ニ處スト改メ直接、購買者ノミヲ罰

スルコトト爲シタリ

本罪成立ニハ、第一富籤ナルコト、第二授受シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、富籤ナルコトヲ要ス

本條件ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ再説セス

第二、授受シタルコトヲ要ス

富籤ヲ授受シタルトキハ代金ヲ支拂ヒタルト否トヲ問ハス富籤ナルコトヲ知テ授受シタルトキハ本罪成立スルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)罪ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金(二)罪ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金(三)罪ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第七章、死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪ト第六章、風俗ヲ害スル罪、中ノ第二百六十三條ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ第二編、第六章風俗ヲ害スル罪中、第二百六十三條ニ神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然、不敬ノ所爲アル者ハ云々、説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ云々ト規定シタルモ本法ハ墳墓ニ關スル罪ト共ニ之ヲ規定スルコトト爲シタリ

二、舊刑法、第二編、第七章、第二百六十四條ハ死屍ニ就テノミ規定シ其他、死屍ト同視ス可キ遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物品等ニ對スル規定ヲ闕キタルヲ以テ本法ハ遺髮其他棺内ニ藏置スル物ヲ加ヘ又舊法ノ死屍ヲ毀棄シ云々ト規定シタル損壞遺棄若クハ領得ト改メタリ

三、舊刑法ハ墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ現ハシタル場合ヲ規定シタルモ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル罪ヲ規定セザリシヲ以テ本法ハ之ヲ規定シ單ニ墳墓ヲ發掘シタル罪トノ區別ヲ明ニシタリ

本章ハ(一)神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲ヲ爲シタル罪(二)説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル罪(三)墳墓ヲ發掘シタル罪(四)死體遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル罪(五)三罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル罪(六)檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル罪等ヲ規定シタリ

第八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者

ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然、不敬ヲ加ヘタル罪及ヒ說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條、第一項ハ舊刑法、第二百六十三條、神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然、不敬ノ所爲アリタル者ハ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ニ處ス。若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ニ處ス。トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナリ舊刑法ハ其刑稍ヤ輕キニ失シタルヲ以テ本法ハ之ヲ重ク罰スルノ主義ヲ採リ本條第二項ハ舊刑法ノ說教及ヒ禮拜ノ外、新ニ葬式ニ對シ妨害ヲ加ヘタル罪ヲ加ヘ之ヲ同一ニ罰スルコトト爲シタルモノナリ

元來、本章ノ罪ハ信教ノ自由ヲ妨害シ人ノ尊敬又ハ歸依スル神佛ニ對スル不敬ノ所爲ヲ罰スルモノニテ憲法ニ規定シタル信教ノ自由ヲ確保シタルモノトス

本條ハ(一)神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然、不敬ヲ加ヘタル罪(二)說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シ

タル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然、不敬ヲ加ヘタル罪

本罪成立ニハ、第一神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シタルコト、第二公然、不敬ノ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對スルコトヲ要ス

本條神祠、佛堂、墓所其他禮拜所トハ神佛ヲ安置シタル神社、寺院其他ノ建造物ヲ謂フ而シテ是等、神佛ヲ安置スル場所ハ各人ノ尊敬又ハ歸依スル所ナルヲ以テ何人モ之ヲ汚瀆セサルコトハ我國、古來、宗教的、道德ニ基ク感念ナリ本條其他ノ禮拜所トハ彼ノ耶穌會堂ノ如キ是ナリ

第二、公然、不敬ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

公然不敬ノ行爲ヲ爲シタルコトトハ其神體、又ハ佛體若クハ之ヲ安置シタル殿堂、其他ノ建造物ニ對シ公然神佛ノ功德、尊嚴ニ汚瀆スルノ所爲アリタルコトヲ謂フ而シテ其功德尊嚴ヲ汚瀆スル所爲トハ言語又ハ舉動ヲ以テ其神佛ニ對シ不敬ノ所爲アリタルトキハ本罪成立ス獨逸刑法ハ此點ニ就キ公然不敬ノ言語ニ因リ神ヲ褻瀆シ不快ヲ懷カシメタル者ハ云々ト規定シタリ而シテ本罪成立ニハ人ノ尊敬又ハ歸依スル神佛ニ對シ其尊嚴又ハ功德ヲ汚瀆スル意思ヲ以テ公然不敬ノ所爲アリ

リタルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

(二) 説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害スル罪

本罪成立ニハ、第一説教、禮拜又ハ葬式ニ對スルコト、第二妨害シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、説教、禮拜又ハ葬式ニ對スルコトヲ要ス

説教、トハ神佛ノ功德、來歴其他宗教上ノ事ニ關スル演説ヲ謂フモノニテ禮拜トハ神佛ニ對スル尊敬ノ儀式ヲ謂フ又葬式トハ人ノ遺骸、遺骨、遺髪等ヲ神佛ニ祭ル儀式ヲ謂フ是等ノ儀式又ハ演説等ニ對シテハ何人ト雖モ謹慎敬意ヲ表シテ拜聽又ハ送迎スルコトヲ要スルモノナリ

第二、妨害シタルコトヲ要ス

妨害トハ説教、禮拜又ハ葬式ノ執行ヲ妨クル所爲ヲ謂フ例ヘハ説教、禮拜ニ對シ言語又ハ舉動ヲ以テ罵言、嘲弄シテ聽聞ヲ妨ケ又ハ葬式ノ執行中、種々ナル惡言ヲ放チ僧侶ノ讀教ヲ妨クルカ如キ場合合是ナリ而シテ本罪成立ニモ其説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害スル意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス以上ノ條件具備スルトキハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墳墓ヲ發掘シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百六十五條、墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上、三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。トノ規定中、第一項、前段ニ該當スル規定ヲ改メタルモノニテ其後段及ヒ第二項ノ規定ハ次ノ二條ニ規定シタリ

本罪成立ニハ、第一墳墓タルコト、第二發掘シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一墳墓タルコトヲ要ス

墳墓トハ人ノ死體又ハ遺骨、遺髪其他死者ノ遺物等ヲ埋葬シタル場所ヲ謂フ俗ニ所謂、墓所ト稱スル場所ヲ云フモノニテ是等ノ場所ハ我國、古來ヨリ祖先、傳來ノ墓所ハ是ヲ神佛トシテ禮拜、尊敬シテ侵ササル所ナルヲ以テ特ニ之ヲ保護スルモノナリ

第二、發掘シタルコトヲ要ス

發掘トハ其埋葬シタル棺槨ヲ掘リ出ス所爲ヲ謂フ本罪ハ死體其他ノ遺物ヲ發掘シタルトキ成立スル罪ナルヲ以テ死屍其他ノ遺物ヲ露出シタルヲ要セス茲ニ疑問アリ墳墓發掘罪ハ他人所有ノ墳墓タルコトヲ要スルヤ否ヤノ問題はナリ本條、別ニ自他ヲ區別セサルヲ以テ他人ノ墳墓ナルト自己

ノ墳墓ナルトヲ問ハス苟モ人ノ死體、遺骨、遺髮等ヲ埋葬シタル墳墓ヲ發掘シタルトキハ本罪成立スルモノトス而シテ本罪モ墳墓タルコトヲ知テ發掘シタルトキハ本罪成立ス故ニ若シ墳墓タルコトヲ知ラス土砂ノ採取其他山野ノ開墾等ニ因リ人ノ墳墓又ハ死屍ヲ發掘シタルトキハ本條ニ依リ論スルコトヲ得サルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ二年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得

シタル者ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ人ノ死體其他棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百六十四條(埋葬ス可キ)死屍ヲ毀棄シタル者ハ一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加スルノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ハ唯、人ノ死體ニ就テノミ規定シタルモ本法ハ遺骨、遺髮其他、棺内ニ藏置シタル物ト改メ毀棄ト規定シタルヲ損壞、遺棄又ハ領得ト爲シタリ又舊刑法ハ埋葬ス可キ死屍ノミ限リタルモ本法ハ其死體若クハ遺骨ハ埋葬ス可キモノナルト否トヲ問ハス之ヲ罰スルコトト爲シタリ

本罪成立ニハ、第一死體、遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ナルコト、第二損壞、遺棄又ハ、領得

スル所爲アルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、死體、遺骨遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ナルコトヲ要ス

死體トハ人ノ死骸ヲ謂ヒ遺骨トハ人ノ死體ヲ火葬シタル殘骨ヲ謂フ又遺髮トハ死者ノ毛髮ヲ謂フモノトス例ヘハ出征軍人ノ戰死ノ場合等ニ於テ其戰死者ノ毛髮ヲ戰死者ノ死體ト同一ニ看做シテ葬式ヲ行フ場合ノ如キ是、我國古來ノ慣習ナリ又其他棺内ニ藏置シタル物トハ死者ノ生存中、愛シタル器物、書類等ノ如キ棺内ニ納メタル物品ヲ謂フニ在リ

第二、損壞、遺棄又ハ領得シタルコトヲ要ス

損壞トハ死體、遺骨、遺髮其他ノ物品ヲ損傷破壞スル所爲ヲ謂ヒ遺棄トハ放棄スル所爲ヲ謂フ例ヘハ其死體、遺骨、遺髮等ヲ道路又ハ山野ニ暴露シ或ハ河海ニ投棄スルカ如キ是ナリ領得トハ死體、遺骨、遺髮其他ノ物品ヲ自己ノ所持内ニ取得スル所爲ヲ謂フ而シテ本罪ハ既ニ一言シタル如ク埋葬ス可キ死屍、遺骨遺髮タルト否トヲ問ハス是等ノモノヲ損壞遺棄又ハ領得シタルトキハ成立ス故ニ若シ人ノ死體、遺骨、遺髮タルコトヲ知ラスシテ損壞シ遺棄シ又ハ領得シタルトキハ本罪成立セズ

以上ノ條件具備スルトキハ二年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第九十一條 第九十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墳墓ヲ發掘シテ死體、遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

第九十九條ノ罪ハ同條下ニ於テ説明シタル如ク單ニ墳墓ヲ發掘シタルノミヲ以テ直ニ成立シ同第九十條ハ埋葬セサル死體、遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞シ遺棄シ若クハ領得シタル場合ノ規定ナルヲ以テ特ニ埋葬シタル死體、遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞シ遺棄シ若クハ領得シタル場合ヲ規定シタルモノナリ要スルニ第九十九條ハ單ニ墳墓ヲ發掘シタル行爲ヲ罰シ本條ハ墳墓ヲ發掘シテ其棺内ノ死體、遺骨、遺髮其他ノ物品ヲ露出シ又ハ遺棄シ若クハ領得シタル場合ヲ規定シタルモノニテ其情、重キ場合ナリトス

本罪成立ニハ、第一墳墓ヲ發掘シタルコト、第二死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、墳墓ヲ發掘シタルコトヲ要ス

墳墓發掘ノ意義ニ就テハ既ニ第九十九條ニ於テ説明シタルヲ以テ再說セス

第二、死體、遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタルコトヲ要ス

死體、遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物及ヒ損壞遺棄又ハ領得ノ意義ニ就テモ亦、前條、既ニ説明シタルヲ以テ再說セス前條ハ埋葬セサル死體、遺骨、遺髮其他ノ物ニ對スル損壞、遺棄又ハ領得シタル場合ヲ規定シ本條ハ既ニ埋葬シタル死體其他ノ物ヲ發掘シテ損壞シ遺棄シ又ハ領得シタル場合トノ差異アルニ過キス故ニ本罪ハ連續的一罪ナルモ第九十九條ノ罪ト牽連シタル規定ナリトス

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

ハ科料ニ處ス

本條ハ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ埋葬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ本法ノ新設ニ係ル規定ナリ

本罪成立ニハ、第一變死者タルコト、第二檢視ヲ經サルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、變死者タルコトヲ要ス

變死者トハ通常、病死ニ非サル死亡者ヲ謂フ換言スレハ他殺、中毒、自殺等自然ニ非サル死亡ヲ

謂フモノトス故ニ自然的、死亡ニ非サルトキハ縱令如何ナル原因ニ依ル死亡ナルモ必ス當該公務所ニ届出スルコトヲ要スルモノナリ

第二、檢視ヲ經サルコトヲ要ス

檢視トハ當該公務所員ノ死體實見ヲ謂フモノトス而シテ此變死者ニ對シテ當該官吏ノ檢視ヲ要スル所以ノモノハ其死因ノ他殺ナルヤ否ヲ確ムル爲メニ必要アリ從來犯罪ノ發覺ヲ防ク爲メ竊カニ葬リ豫審判事墳墓ヲ發掘シタル實例往々アリタルニ依リ特ニ本條ヲ規定シタルモノナリ前草案ニハ本條中允許ヲ得スシテ改葬シタル者ヲ規定シタルモ斯ル場合ハ改葬允許ノ手續ヲ怠リタルニ過キサルヲ以テ刑法上規定セサルコトト爲シタルモノナリ而シテ本罪成立ニハ變死者タルコトヲ知テ檢視ヲ經ス埋葬シタルヲ要ス故ニ若シ變死者タルコトヲ知ラス特別法令ノ規定ニ從ヒ成規ノ手續ヲ經テ埋葬シタルトキハ縱令檢視ヲ經サルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス
以上ノ條件具備スルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス可キモノトス

第二十五章 瀆職ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第九章、官吏、瀆職罪中ノ第二節、官吏人民ニ對スル罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ官吏ノ職務ニ關スル罪ノミヲ規定シタルニ因リ其範圍、狹隘ニ失シ實際上、極メテ不便ナリシヲ以テ本法ハ之ヲ廣ク、公務員、瀆職ニ關スル罪ト改メタリ
- 二、舊刑法ハ官吏ノ職務ニ關スル罪ヲ區別シ官吏、公益ヲ害スル罪、官吏、人民ニ對スル罪、官吏財産ニ對スル罪ト爲シタルモ本法ハ官吏、公益ヲ害スル罪及ヒ官吏、財産ニ對スル罪中、必要ナルモノハ之ヲ別章又ハ他ノ特別、法令ニ讓リ單ニ官吏、人民ニ對スル罪ノミヲ規定シタリ
- 三、舊刑法、第二百七十三條、官吏、其管掌ニ係ル法律、規則ヲ公布セス又ハ他ノ官吏ノ公布、施行ヲ妨害シタル罪ノ如キハ今日、之ヲ存スルノ必要ナシ斯ル規定ハ往時、法律、規則ヲ各、町村役場等ニ揭示シテ人民ニ知ラシメタル當時ハ其必要アリタルモ現今ノ如ク法令ノ公布ハ總テ官報ニ掲載シテ普ク知ラシムル時代ニ至リテハ官報局、一部、官吏ノ外犯スコト能ハス若シ之ヲ犯シタリトスルモ是等ハ懲戒法ニ依リ處分ス可キモノニテ同第二百七十四條、兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏、地方ノ騷擾其他、兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サル罪ノ如キ

モ其官吏若シ暴動者ト通謀シタルトキハ共犯ヲ以テ論シ否ラサルトキハ職務、懈怠ナルヲ以テ懲戒處分ニ付スルヲ以テ足り同第二百七十五條、官吏、規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル罪ノ如キモ亦其性質、懲戒處分ニ委スルヲ以テ充分ニテ同第二百七十七條、豫審判事、檢事、警察官等カ人ノ身體、財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ速ニ保護ノ處分ヲ爲ササル罪、同第二百七十九條、司獄官吏、程式ノ規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ又ハ出獄セシム可キ時ニ至リ之ヲ放免セサル罪、同第二百八十三條、裁判官、檢察官、故ナクシテ民事、刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル罪ノ如キ孰レモ職務、曠廢又ハ職務ノ懈怠ナルヲ以テ他ノ法令又ハ懲戒處分ニ委ス可ク之ヲ刑法上ノ犯罪ト爲スハ苛酷ニ失スルノ嫌アリ又第二百八十九條、官吏自ラ監守スル金穀、物件ヲ竊取シタル罪ハ第二十五章ニ於テ處分スルヲ適當ナルヲ以テ是等ノ場合ハ本章下ニ規定セサルコトト爲シタリ

四、舊刑法ハ收賄者ノ行政官ナルト司法官ナルトヲ區別セシテ民事裁判ニ關スルト刑事裁判ニ關スルトニ因テ區別シタルモ行政事務ニ關スル官吏ト司法事務ニ關スル官吏ト又民事裁判ト刑事裁判トヲ問ハス孰レモ等シク國家ノ公務ニシテ且、公務員タル職務ハ同一ナルヲ以テ本法ハ是等、職務又ハ公務ニ因ル區別ヲ廢シ總テ情狀ニ因リ處分スルコトト爲シタリ

五、舊刑法ハ官吏ニシテ賄賂ヲ收受シ又ハ收受ヲ約束シタル場合ノミヲ規定シ其官吏ニ賄賂ヲ贈リタル者ニ對シテハ何等ノ規定ヲモ爲サス是或ハ收賄罪ノ發覺ヲ容易ナラシムル刑事政策ニ出テタルモノナリト雖モ之ヲ不問ニ付スルハ妥當ナラサルヲ以テ本法ハ其贈賄者ヲ罰スル規定ヲ新設シタリ

六、舊刑法ハ收賄罪ハ官吏ニ限りタルモ本法ハ公務員ノ外、或事件、仲裁ヲ委任セラレタル仲裁人モ亦、其仲裁事件ニ付テハ之ヲ公務員ト同一ニ看做スコトト爲シタリ

本章ハ一公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ヲキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル罪(二) 裁判檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタル罪(三) 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル罪(四) 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル罪(五) (三) 罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪(六) 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタル罪等ヲ規定シタリ

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ヲキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ公務員ノ職權、濫用ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百七十六條「官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上、二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ヲ修正シタルモノナリ

本罪成立ニハ、第一公務員タルコト、第二職權ヲ濫用シタルコト、第三人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、公務員タルコトヲ要ス

舊刑法ハ官吏ト規定シタルモ本法ハ第一編、總則、第一章、第七條ノ規定ニ基キ官吏、公吏其他、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員又ハ委員等ヲ廣ク包含セシムルコト既ニ屢々述ヘタルヲ以テ別ニ說明セズ

第二、職權ヲ濫用シタルコトヲ要ス

舊刑法ハ既ニ一言シタル如ク擅ニ威權ヲ用ヒ權利ナキ事ヲ行ハシメト規定シタルモ其意義明瞭ナラザリシヲ以テ本法ハ職權ヲ濫用シト改メタルモ立法趣旨ハ殆ト同一ナリ而シテ本條其職權ヲ濫用シトハ公務員タル者其職權内ノ行爲ヲ人ニ強制スル所爲ヲ謂フニアリ元來公務員ハ各任命ノ形

式又ハ官名ノ異ルニ從ヒ各自職務權限ヲ異ニスルモノナルヲ以テ自己ノ權限外ノ行爲ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス故ニ若シ權限外ノ行爲ヲ爲シタルトキハ總テ本條職權ノ濫用ナリトス

第三、人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメトハ人ヲシテ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコトヲ要ス

證言ヲ爲ス義務ナキ者ニ對シテ陳述ヲ強制シタル場合ノ如キ又行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキトハ公務員選舉權者ノ投票ヲ妨害シタル場合ノ如キ是ナリ然レトモ若シ公務員、其職權ヲ濫用シ人ヲシテ犯罪ヲ構成ス可キ行爲ヲ強制シタルトキハ其犯罪ノ教唆若クハ實行正犯タルコト論ヲ俟タス而シテ本罪成立ニハ必ス公務員、其職務ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害スル意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件、具備スルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ司法又ハ檢察、警察ノ職ニ在ル者其職權ヲ濫用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百七十八條「逮捕、官吏、法律ニ定メタル程式、規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上、三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下、ノ罰金ヲ附加ス」但監禁日數、十日ヲ過ル毎ニ一等ヲ加フトノ規定ヲ修正シタルモノナリ該條ハ逮捕、官吏、不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ノミヲ規定シタルモ本法ハ其趣旨ヲ擴張シ裁判、檢察又ハ警察ノ職務ヲ行フ者若クハ其補助ヲ爲ス者ト改メ是等ノ公務員、其職權ヲ濫用シテ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ハ總テ本條ニ依リ論スルコトト爲シタリ而シテ舊刑法ハ其但書ヲ以テ監禁、日數、十日ヲ過ル毎ニ一等ヲ加フル主義ナリシモ斯ル規定ハ細密ニ失シ實際上、却テ不便ナルヲ以テ本法ハ刑期ヲ擴張シテ刑ノ量定ハ裁判所ノ認定ニ一任スルコトト爲シタリ

本罪成立ニハ、第一裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者タルコト、第二其職權ヲ濫用シタルコト、第三人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者タルコトヲ要ス
 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者トハ判事、檢事、其他警視、警部等司法ノ職ヲ行フ公務員ヲ謂フ又之ヲ補助スル者トハ巡查、憲兵卒等ノ如キ是等、公務員ノ職務、權限ハ刑事訴訟法、其他特別法令ニ依リ一定スルモノナルヲ以テ其職權ノ範圍ヲ超ヘタル行爲ヲ行フタルトキハ職權ノ濫用

ナリ又其職權ヲ行フニ付テモ一定ノ程式規則ヲ履行ス可キモノナルヲ以テ若シ其程式規則ヲ遵守セスシテ執行シタルトキハ本條ハ所謂、職務濫用ナリトス

第二、其職權ヲ濫用シタルコトヲ要ス

裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者ニ對シテハ憲法、裁判所構成法特ニ民刑訴訟法等ヲ以テ其職務ヲ行フ可キ範圍ヲ規定シアルニ因リ是等法律ノ規定スル範圍外ノ行爲ヲ爲シタルトキハ本條職權ノ濫用ナリ一例ヲ舉クレハ犯罪ノ嫌疑ナキ者ニ對シテ濫リニ逮捕又ハ監禁ヲ命スルカ如キ是ナリ

第三、人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコトヲ要ス

職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコトトハ職權ノ範圍ヲ超ヘ又ハ程式規則ヲ遵守セス人ヲ逮捕監禁シタル所爲ヲ謂フ日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕、監禁、審問、處罰ヲ受クルコトナシトハ憲法第二十三條ノ規定スル所ナルヲ以テ人ノ自由ハ濫リニ之ヲ拘束スルコトヲ得ス故ニ若シ人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルノ必要アルトキハ必ス法令ノ規定ニ依リ執行スルコトヲ要ス一例ヲ舉クレハ巡查、憲兵卒ハ判事、檢事等ノ一定ノ方式手續ヲ履行シテ作成シタル令狀アルニ非サレハ人ヲ逮捕又ハ監禁スルコトヲ得サルニ其手續ヲ履マシテ人ヲ逮捕、勾留シタル場合ノ如キ是

ナリ故ニ正當、適式ノ令狀ト信シ巡查、憲兵卒カ人ヲ逮捕、勾引シタルニ違法ナリシ場合ノ如キハ(事實上ノ錯誤ナルヲ以テ)本條ノ範圍外ナリ本罪ハ職權ヲ濫用スル意思ヲ以テ人ヲ逮捕又ハ監禁スルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ故人ヲ逮捕、監禁スル意思ヲ要スルハ論ヲ俟タス
以上ノ條件具備スルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行

フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ

ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

本條モ亦司法又ハ檢察、警察ノ職ニ在ル者其職權ヲ濫用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百八十條、前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者、囚人ニ對シ飲食、衣服ヲ屏去シ其他、苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上、三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス。

トノ規定ト同第二百八十二條、裁判官、檢事及ヒ警察官吏、被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上、四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上、五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス。トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ

本條第一項ハ汎ク裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ニ對シ規定シ第二項ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守若クハ護送スル者ニ對シ規定シタルモノナリ

本條第一項ノ犯罪成立ニハ、第一裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者タルコト、第二刑事被告人其他ノ者ニ對スルコト、第三其職務ヲ行フニ當リ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者タルコトヲ要ス

本條件ハ前條第一條件ト同一ナルヲ以テ再說セス

第二、刑事被告人其他ノ者ニ對スルコトヲ要ス

(一) 刑事被告人トハ犯罪ノ嫌疑者ヲ謂フ故ニ實際上、犯人ナルト否トヲ問ハス又既ニ公訴ヲ提起セラレタル者ナルト否トヲ問ハス檢事若クハ司法警察官ニ犯人ト思料セラレタル者ヲ總稱ス

(二) 其他ノ者トハ有罪ノ判決ヲ受ケタル者又ハ、犯人ニシテ有罪ノ判決ヲ受ケスシテ監獄ニ監置セラルル者等ヲ謂フニ在リ

第三、其職務ヲ行フニ當リ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

本條、其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ法律ノ規定ニ從ヒ其職權ヲ執行スルニ際シ刑事被告人其他ノ者ニ對シ不法ニ毆打、拷責、其他、殘酷ナル所爲ヲ爲シタルコトヲ謂フニアリ往時ハ刑事被告人ニ對シ自白ヲ求ムル爲メ往々、殘酷ノ所爲ヲ施シタルコトハ各國、其授クニシタルモ近世、犯人ノ自白ハ罪ヲ斷スル必要條件ト爲ササルヲ以テ裁判所ハ犯人ノ自白ヲ求ムル爲メ殘忍酷薄ナル毆打、拷責ヲ加フルコトヲ得ス是特ニ本條ヲ規定シタル所以ナリ本罪モ亦職權ヲ濫用シテ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ施ス意思アルコトヲ要ス然レトモ刑事被告人其他ノ者命令ニ服從セス抵抗シタルトキニ之ヲ防止スル爲メ腕力ヲ用ヒタル場合ノ如キハ職權濫用ニ非ス却テ職務ノ執行ナリトス

本條第二項ノ犯罪成立ニハ、第一法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者ナルコト、第

二被拘禁者ニ對スルコト、第三暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者ナルコトヲ要ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者トハ典獄、看守長、看守、警部、巡查、憲兵等ノ如キ者ヲ謂フ是等ノ者、被拘禁者ヲ看守又ハ護送スルトハ監獄内ニ於ケル被拘禁者ノ作業ヲ看守スル看守又ハ監獄ヨリ裁判所ニ押送シ若クハ甲監獄ヨリ乙監獄等ニ傳送スル看守、巡查等ノ如キ者ヲ謂フニ在リ

第二、被拘禁者ニ對スルコトヲ要ス

被拘禁者ニ對スルトハ法令ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ謂フ茲ニ注意ス可キハ本項ニ於ケル被拘禁者トハ既決、未決ノ囚人ヨリ其範圍一層廣ク既ニ第九十九條乃至第一百一條ニ於テ述ヘタル如ク換刑處分ニ因リ拘禁セラレタル者等總テノ拘禁者ヲ云フニ在ルコト是ナリ

第三、暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ要ス

被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルコトハ前項ニ於テ説明シタル所ト殆ト同一ナルモ本項ハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者其看守又ハ護送ノ際、暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ加ヘタル場合ヲ規定シタル差アルニ過キササルヲ以テ別ニ説明セス

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ

比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者、又ハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者、前二條ニ規定シタル罪ヲ犯シ、因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ、傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處分、スコトヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百八十條、第二項、同第二百八十二條、第二項ノ因テ囚人又ハ被告人等ヲ死ニ致シタルトキハ、毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス。トノ規定ト同一ナリ即チ裁判、檢察又ハ警察ノ職務ヲ行フ者、其職權ヲ濫用シ刑事、被告人、囚人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ加ヘ因テ死傷ニ致シタル場合ノ規定ナリ

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求

若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒

收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

本條ハ公務員又ハ仲裁人ノ收賄罪ヲ規定シタルモノナリ

本條、第一項ハ舊刑法、第二百八十四條、官吏、人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上、一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上、四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フルトノ規定ヲ修正シ公務員又ハ仲裁人ニ關スル規定ト爲シ舊刑法ノ賄賂ヲ聽許シトノ文字ハ之ヲ約束シト改メ總テノ場合ヲ包含セシムルコトト爲シタルモノナリ而シテ舊刑法ハ賄賂ヲ收受シ因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ特ニ刑一等ヲ加フル規定ナリシモ本法ハ之ヲ改メ特ニ刑ヲ定ムルコトト爲シタリ

本條、第二項ハ舊刑法、第二百八十八條、前數條ニ記載シタル賄賂ヲ已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス。トノ規定ト殆ト同一ナリ

本條成立ニハ、第一公務員又ハ仲裁人ナルコト、第二其職務ニ關シタルコト、第三賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、公務員又ハ仲裁人タルコトヲ要ス

公務員ノ意義ニ就テハ屢々詳論シタル所ナルヲ以テ説明セス本條、仲裁人トハ如何ナル者ヲ云フ

乎本法中他ニ規定ナキヲ以テ茲ニ其意義ヲ略述セントス
仲裁人トハ私人間ノ争ニ關シ當事者雙方ノ依頼ヲ受ケ其争ヲ判斷スル第三者ヲ謂フニアリ元來、
一私人ハ私權上ノ争ニ付キ國家ノ司法機關ノ判決ニ依ラス一私人ニ委任シテ其判定ヲ受クルコト
ヲ得可キモノナリ故ニ若シ一私人ニ委任シテ其争ヲ決シタルトキハ是ヲ仲裁判斷又ハ和解ト云フ
而シテ此ノ仲裁判斷又ハ和解ヲ爲ス第三者ヲ仲裁人ト稱スルニアリ凡ソ私法上ノ權利關係ハ各
人、自由ニ處分スルコトヲ得可キニ因リ其争ニ關シ仲裁人ノ判斷ニ一任シタルトキハ其判定、事
項ニ付テハ當事者間ニ重大ナル利害關係ヲ生スルモノナリ故ニ若シ仲裁人カ其仲裁ニ關シ一方ニ
對シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルトキハ其影響公務員ノ職務執行ニ關スル場合
ト異ナルコトナシ是本條特ニ一私人ノ依頼ニ基ク仲裁人ヲ國家ノ機關タル公務員ト同一ニ規定シ
タル所以ナリ(民事訴訟法第八編及ヒ民法第三編第二章第十四節參照)
本條、仲裁人中ニハ一私人ノ紛争ニ付キ自ラ進シテ仲裁ヲ試ミタル者又ハ當事者一方ノ依頼ニ因
リ仲裁ニ入りタル者等モ仍ホ包含スルヤ否ヤ本章別ニ制限ナキヲ以テ當事者雙方ニ於テ仲裁ヲ一
任シタルトキハ本條、仲裁人中ニ包含スルモノト解ス可キニ似タリト雖モ余ハ斯ル場合ノ仲裁人
ハ本條中包含セスト信スルモノナリ

第二、職務ニ關シタルコトヲ要ス

官吏、公吏其他公務ニ従事スル者ハ其職務上ニ付テハ公平無私一點汚濁ノ行爲アルヲ許サス故ニ
公務員又ハ仲裁人カ自己ノ職權又ハ職務トシテ執行ス可キ事務上ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シ
若クハ約束シタルトキハ縱令適法ナル裁決又ハ判斷ヲ與ヘタルト否トヲ問ハス本罪成立ス然レト
モ其職務ニ關係セサル私人ノ交際トシテ利益ヲ收受スルコトアルモ本條、收賄罪ニ非ス假令ハ同
窓ノ學友ヨリ物品ノ寄贈ヲ受ケタル場合ノ如キ是ナリ是、本條特ニ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ
之ヲ要求シ若クハ約束シタルトキト規定シ職務ノ執行ヲ條件ト爲シタル所以ナリ而シテ其賄賂ノ
收受、約束ハ公務員又ハ仲裁人ヨリ求メタルト將タ贈賄者ヨリ求メタルトヲ問ハス然レトモ要求
ノ場合ハ公務員又ハ仲裁人ヨリ求メタルコトヲ意味スルコト論ヲ俟タス

第三、賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルコトヲ要ス

賄賂トハ如何ナルモノヲ云フ乎、本條別ニ定義ヲ示サスト雖モ從來、學者ノ説ク所ニ依レハ賄賂
トハ金錢、有價物、其他財産上ノ利益ヲ總稱スルモノナリト蓋シ其他ノ利益ヲモ包含スルヤ否ヤ
ノ點ニ就テハ舊刑法上ニ於テモ學說、一定セサル所ナリシ或ハ賄賂トハ金錢ニ見積ルコトヲ得可
キ財産上ノ利益ニ限ルト説ク者アリ又物品タルト行爲タルトヲ問ハス金錢ニ見積ルコトヲ得ル

否トヲ問ハス利益タル以上ハ總テ賄賂ナリト論スル者アリ前説ハ金錢ニ見積ルコトヲ得可キ財産上ノ利益ニ限ルト爲スヲ以テ狹キニ失スルノ嫌アリ又後説ハ財産上ノ利益ハ勿論、金錢ニ見積ルコトヲ得サル精神的、満足ヲモ賄賂ナリト云フニ在リテ廣キニ失スルノ嫌アルモ公職ヲ賣リ職務ノ神聖ヲ瀆ス本罪ノ如キハ成ル可ク廣ク解釋スルヲ可ナリトス或ハ本條第二項ニ前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴スルコト規定シタルヲ以テ賄賂トハ金錢ニ見積ルコトヲ得可キ有形的利益タルヲ要スト論スル者ナキヲ保セスト雖モ本條、第二項ハ有形的、財物ニシテ且、其收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ沒收シ賄賂者ヲシテ不當ノ利得ヲ得セシメサルコトヲ明示シタルニ止マリ是カ爲メニ金錢ニ見積ルコト得サル行爲、不行爲又ハ精神的利益ヲ除外シタリト認ムルコトヲ得ス故ニ本條ニ所謂、賄賂トハ財産上ノ利益ハ勿論、金錢ニ見積ルコトヲ得サル利益并ニ精神的満足ヲモ包含スルモノト然レトモ是等、精神的、利益又ハ満足ハ供與者ト被與者トノ間ニ於ケル時ノ狀況ニ屬スル事實上ノ問題ナリ假令ハ一夜ノ遊興タル酒色ノ如キモ仍ホ場合ニ因テハ賄賂ナリト云フ可シ而シテ本罪成立ニハ其公務員又ハ仲裁人カ賄賂者ノ提供又ハ申込ヲ承諾シ若クハ提供又ハ申込ヲ承諾セシムルノ意思アルヲ要ス而シテ其意思表示ハ書面又ハ口頭ヲ以テシタルト或ハ第

三者ヲ介シタルトヲ問ハサルモノナリ

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

本條第一項、末段、因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上、十年以下ノ懲役ニ處スルトハ公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタル結果、枉法處分ヲ爲シタルトキハ特ニ重罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本條第二項ハ其收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス可キコトヲ規定シタルモノナリ換言スレハ其收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部、收賄者ノ手ニ存在スルトキハ之ヲ沒收シ若シ消費シタルトキハ其消費シタル賄賂ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ追徴シ收賄者ヲシテ毫モ不正ノ利益ヲ得セシメサルコトヲ規定シタルニアリ而シテ本項ハ總則、沒收ノ例外ナルヲ以テ特ニ規定シタルモノナリ故ニ既ニ述ヘタル如ク若シ酒色其他ノ遊興等ヲ賄賂ニ供シタル場合ニ於テハ已ニ全部消費シタルモノナルヲ以テ是ヲ相當價格ニ見積リ追徴ス可キモノトス

第九十八條 公務員又ハ仲裁人賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年

以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ

得

本條ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
 本條ハ本法ノ新設ニ係ル規定ニシテ舊刑法ニ規定セザリシ法條ナリ舊刑法ハ賄賂者ヲ罰ス可キ規
 定、闕如シタルヲ以テ學者中、賄賂者ハ共犯トシテ罰ス可シト論シ、或ハ明文ナキヲ以テ罰ス可ラ
 スト論シ、學說、判例共ニ一定セザリシヲ以テ本法ニ於テハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ贈與又ハ提
 供シ、若クハ約束シタル者ハ總テ之ヲ罰シ從來ニ於ケル收賄ノ弊害ヲ矯正スルコトト爲シタリ
 本罪、成立ニハ、第一公務員又ハ仲裁人ニ對スルコト、第二賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタルコト
 トノ二條件アルヲ要ス

第一、公務員又ハ仲裁人ニ對スルコトヲ要ス

本條件ハ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二、賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタルコトヲ要ス

公務員又ハ仲裁人ニ對シテ賄賂ノ贈與、提供又ハ約束シタルコトヲ要ス而シテ其贈與、提供又ハ
 約束ノ賄賂者直接ニ爲シタルト將タ他人ヲ介シテ爲シタルトヲ問ハス是等ノ事實アリタルトキハ
 本罪成立ス故ニ賄賂者ハ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束スル意思アルヲ要シ公務員又ハ仲裁人モ亦職

務、執行ニ關シ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束ヲ受ケタルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

本條第二項、前項ノ罪ヲ犯シタル者事未タ發覺セサル前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スル
 コトヲ得ルト爲シ實害ヲ未發ニ防ク刑事政策上ノ規定ナリ而シテ本條、自首ハ第一編、總則、第
 七章第四十二條ノ自首ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス

第二十六章 殺人ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第三編、第一章、第一節、謀殺、故殺ノ罪及ヒ第五節、自殺ニ關スル罪ヲ合シテ修
 正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧ケレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ殺人罪ヲ謀殺、故殺ト爲シ豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ヲ謀殺ト爲シ一時ノ感激ニ因リテ
 人ヲ殺シタル者ヲ故殺ト爲シタルモ此區別ハ實際上、豫防ノ有無ヲ判別スルノ困難ナルト謀殺、
 必スシモ重キニ非ス故殺必スシモ輕キニ非サルヲ以テ本法ハ一般ニ刑法ノ範圍ヲ擴張シ單ニ殺人

ノ罪ト改メ謀殺故殺ノ名稱ハ之ヲ認メサルコトト爲シタリ

二、舊刑法ハ其外毒殺、慘刻殺、詐稱誘導殺、重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ既ニ犯シテ其罪ヲ免ルル爲メ人ヲ殺シタル罪等ノ區別ヲ設ケタルモ是、復、殺人ノ手段方法ニ附シタル名稱ニ過キサルヲ以テ本法ハ斯ル區別ハ之ヲ全廢スルコトト爲シタリ

三、舊刑法ハ自殺ニ關スル罪ヲ別節ニ規定シタルモ其教唆者又ハ幫助者ヨリ觀察スレハ等シク殺人罪ノ一種ナルヲ以テ本法ハ之ヲ本章ニ規定スルコトト爲シタリ

本章ハ(一)人ヲ殺シタル罪(二)自己又ハ配偶者ノ直系尊族ヲ殺シタル罪(三)(二)罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル罪(四)人ヲ教唆シ若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル罪(五)(二)(四)罪ノ未遂罪等ヲ規定シタリ

第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ殺人ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第二百九十二條乃至第二百九十八條ヲ一括シテ規定シタルモノナリ既ニ述ヘタル如ク舊刑法ノ(一)謀殺及ヒ故殺ノ罪(二)毒物ヲ使用シテ人ヲ殺シタル罪(三)慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ殺シタル

罪(四)重罪、輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ既ニ犯シテ其罪ヲ免ルル爲メ人ヲ殺シタル罪(五)詐稱誘導シ危害ニ陥レテ人ヲ殺シタル罪(六)誤テ人ヲ殺シタル罪等是ナリ是等ノ罪ハ其殺人ノ手段方法又ハ情狀ニ關スルニ過キサルヲ以テ本法ハ斯ル區別ヲ廢シ苟モ人ヲ不正ニ殺シタル者ハ總テ本條ヲ以テ論スルコトト爲シタリ

本罪成立ニハ、第一人タルコト、第二人ヲ殺シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、人タルコトヲ要ス

法律上、人ニハ二種アリ一ヲ自然、人ト云ヒ一ヲ法人ト云フ而シテ本條ニ所謂、人トハ自然、人タル吾人同胞ヲ意味シ法人ハ之ヲ除外シタルモノナリ故ニ本條ノ人トハ自然、人ニ限ルモノトス而シテ本條ニ云フ人トハ出生後、死亡前ノ者ヲ云フコト勿論ナリト雖モ此人ト人ノ種子タル胎兒トノ分界ヲ定ムル標準ハ刑法上、重要ナル問題ナリ民法第一條ハ「私權ノ享有ハ出生ニ始マル」ト規定シ特ニ胎兒ノ利益ヲ保護スル必要アル場合ニ限り例外ヲ設ケタルヲ以テ民法ニ於テハ胎兒ハ人ト認メサルヲ原則ト爲ス故ニ民法上、人トハ必ス出生シタルコトヲ要ス而シテ此原則ハ刑法上ニ於ケル人ニモ亦之ヲ適用ス可キモノナルヤ否ヤ換言スレハ權利義務ノ主體タル人トハ必ス母體ヲ離レタルコトヲ要スルヤ否ヤ其人ト看做ス可キ時期ニ就テハ刑法上、左ノ三說アリ

第一、**痙痛説**、此説ハ産婦カ産苦ヲ催シ將ニ胎兒出生セントスルトキハ人ナリト

第二、**生聲説**、此説ハ胎兒ノ一部母體ヨリ露出シタルトキハ人ナリト

第三、**獨立呼吸説**、此説ハ胎兒カ母體ヨリ分離シテ自己ノ肺ニ因リ呼吸シタルトキハ人ナリト

民法上ニ於テモ生命ヲ保持シ生活ニ堪ユ可キ機能ヲ具備シタルト否トヲ問ハス活キテ生レタルト

キハ人ナリトノ主義ヲ採用シタルヲ以テ刑法上ニ於テモ亦此第三、**獨立呼吸説**ニ依ル可キモノト

信ス故ニ胎兒出生シタルトキハ假令如何ナル不具畸形兒ナルモ之ヲ殺シタルトキハ本條殺人罪ナ

リ然レトモ其情狀ニ至リテハ完全ナル人ヲ殺シタル場合ト同一ナラサルヲ以テ本條人ヲ殺シタル

者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スト規定シ刑期ヲ三年以上又ハ死刑ト爲シ裁判所ヲ

シテ諸般ノ情狀ニ應シ適宜ノ刑ヲ科スルコトト爲シ保護主義ヲ採リタルモノナリ

第二、人ヲ殺シタルコトヲ要ス

本條人ヲ殺ストハ不正ニ人ノ生命ヲ喪失セシムル所爲ヲ謂フ而シテ其人ノ生命ヲ絶ツニ付テハ種

々ナル方法アリト雖モ概ネ積極的行爲ニ出ツルモノナリ例令ハ刀劍又ハ棍棒ヲ以テ人ヲ殺スカ如

キ其事例ハ枚擧ニ違アラス則チ謀殺、故殺、毒殺、毆打殺、絞殺等其手段方法如何ヲ問ハス苟モ

自己ノ行爲ヲ以テ人ヲ死ニ致スハ結果ヲ生セシメタルトキハ本條殺人罪ナリ然レトモ又不行爲ニ

因リ本罪成立スルコトナキニ非ス例令ハ身體、自由ナラサル病者若クハ不具者ニ對シ之ヲ殺ス

目的ヲ以テ飲食、衣服ヲ供給セズ死ニ至ラシメタル場合ノ如キハ不行爲ニ因ル殺人罪ナリ蓋シ本

條單ニ人ヲ殺シタル者ト規定シ別ニ不正ノ文字ナキモ夫ノ法令ノ執行ニ因リ人ヲ殺シタルトキ若

クハ急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムヲ得ス人ヲ殺シタル場合ノ如

キハ本條殺人罪ニ非ス故ニ本罪成立ニハ人ヲ殺ス意思アルコトヲ要ス其、人ヲ殺ス意思トハ初メ

ヨリ殺人ノ結果ヲ豫想シタル決心是ナリ即チ人ノ行爲ハ意思ノ發動作用ナルヲ以テ最初ヨリ殺人

ノ結果ヲ豫想シタル行爲ノ實行ニ付テハ其目的ノ人ヲ誤ルモ原因結果ノ關係上殺人ノ責ニ任ス可

キモノトス若シ犯意ナクシテ人ヲ死ニ致シタルトキハ(是、原因結果ノ關係ナキヲ以テ)過失傷

害罪タルコトアルモ本條殺人罪ニ非ス故ニ過失傷害罪ヲ除クノ外、一般犯罪成立ニハ必ス犯意ヲ

要スルモノナルコト既ニ第一編ニ於テ詳論シタルカ如シ

以上ノ條件具備スルトキハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ殺親ノ罪ヲ規定シタルモノナリ